

関市 地方創生に関するアンケート

【調査結果報告書】

平成 27 年 9 月

関 市

目次

1	調査の概要.....	1
	（1）調査目的.....	2
	（2）調査の実施概要.....	2
	（3）報告書の見方.....	3
2	結婚・出産・子育てに関する若年者（19歳～39歳）の意識調査 調査結果.....	5
	（1）回答者の属性.....	6
	（2）関市への居住意向.....	15
	（3）結婚について.....	20
	（4）子どもについて.....	27
	（5）関市について.....	32
3	高校生調査 調査結果.....	35
	（1）回答者の属性.....	36
	（2）進路について.....	38
	（3）結婚・子育てについて.....	45
	（4）将来の仕事について.....	56
	（5）関市について.....	59
4	首都圏在住者調査 調査結果.....	63
	（1）回答者の属性.....	64
	（2）将来について.....	68
	（3）関市について.....	71

1 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、平成 27 年度中に策定する「関市人口ビジョン」と「関市まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、若い人が暮らしやすく、将来的に定住できるまちづくりを進めるため、広く若者や市外在住者の意見等を戦略に反映することを目的として実施しました。

(2) 調査の実施概要

調査区分	対象	調査期間	調査方法	回収結果
結婚・出産・子育てに関する若年者の意識調査	関市に在住する 19 歳から 39 歳までの市民 (2,000 人)	平成 27 年 6 月 8 日～22 日	郵送配布 郵送回収	555 (回収率:27.8%)
高校生調査	関高等学校、関有知高等学校、 関商工高等学校の 3 年生 (850 人)	平成 27 年 6 月 9 日～23 日	学校を通じた配布・回収	735 (回収率:86.5%)
首都圏在住者調査	首都圏在住の関市出身者や 関市にゆかりのある人で構成されている「関市ふるさと 懇談会」の登録者 (50 人)	平成 27 年 6 月 8 日～22 日	郵送配布 郵送回収	31 (回収率:55.4%)

(3) 報告書の見方

●集計について

本報告書では、設問ごとに全体の集計結果を記載しています。

●「N」について

グラフ中の「N」とは、Number of Cases の略で、各設問に該当する回答者総数を表します。
したがって、各選択肢の％に「N」を乗じることで、その選択肢の回答者が計算できます。

●「％」について

グラフ中の「％」は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、単数回答の設問（1つだけに○をつけるもの）であっても、合計が100％にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合（あてはまるものすべてに○をつけるもの等）は、「N」に対する各選択肢の回答者数の割合を示します。

●選択肢の記載について

グラフ中の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま記載しています。

●表について

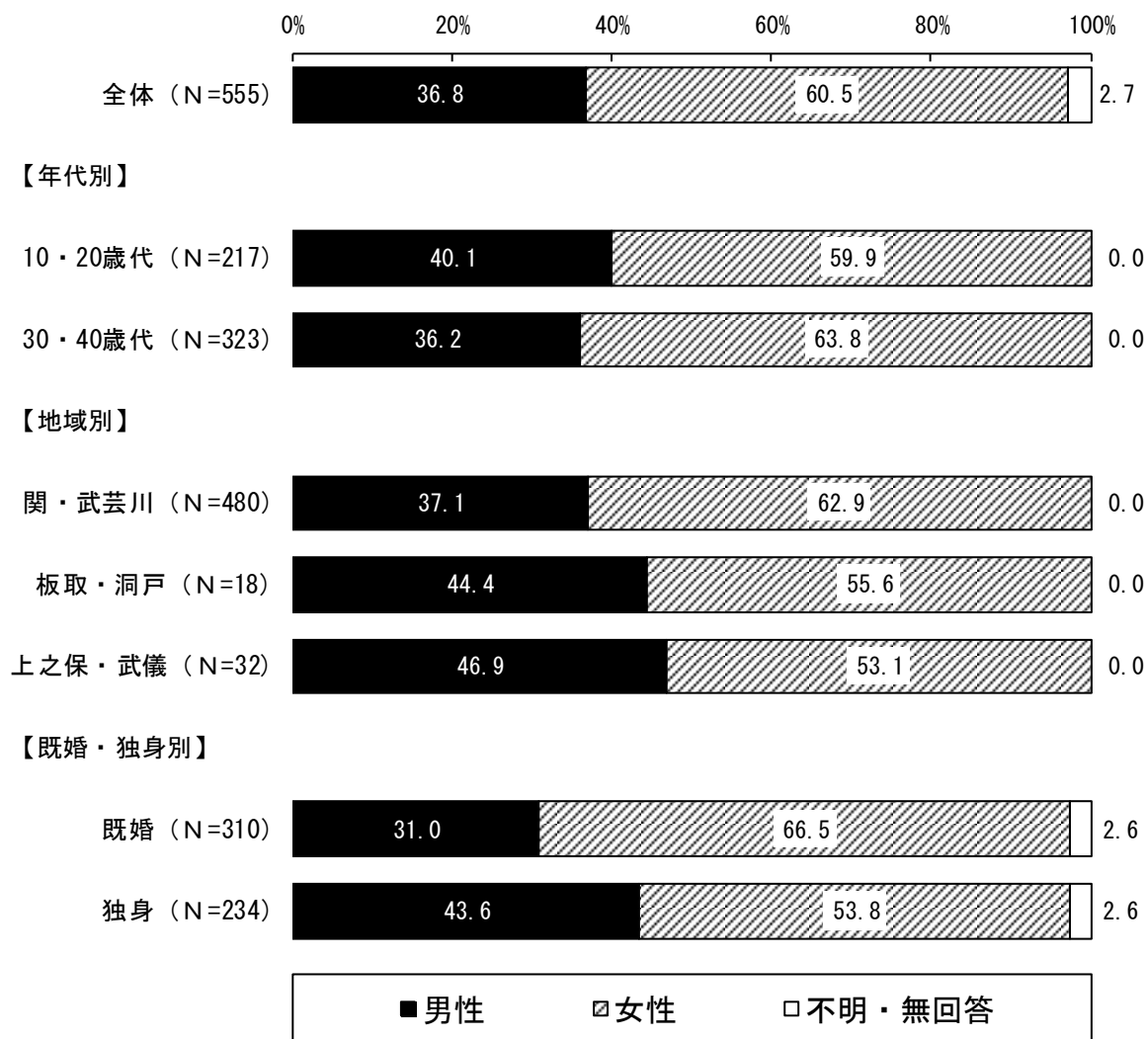
「不明・無回答」を除き、回答の高いもの第1位と第2位に網掛けをしています。

2 結婚・出産・子育てに関する若年者 (19 歳～39 歳)の意識調査 調査結果

(1)回答者の属性

問1 性別

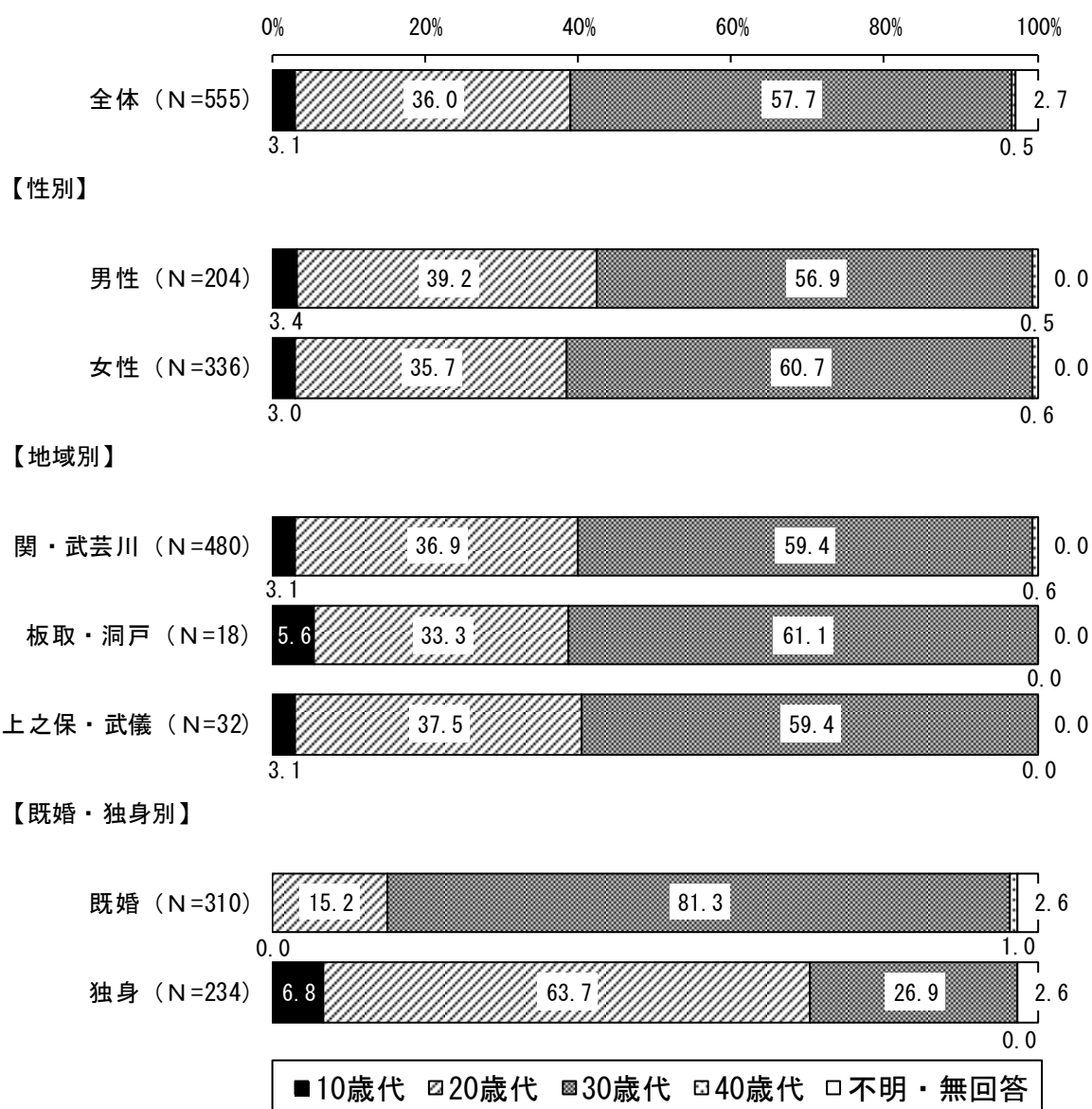
「女性」が60.5%、「男性」が36.8%となっており、女性は男性より23.7ポイント高くなっています。



問2 年齢

「30 歳代」が 57.7%と最も高く、次いで「20 歳代」が 36.0%、「10 歳代」3.1%となっています。

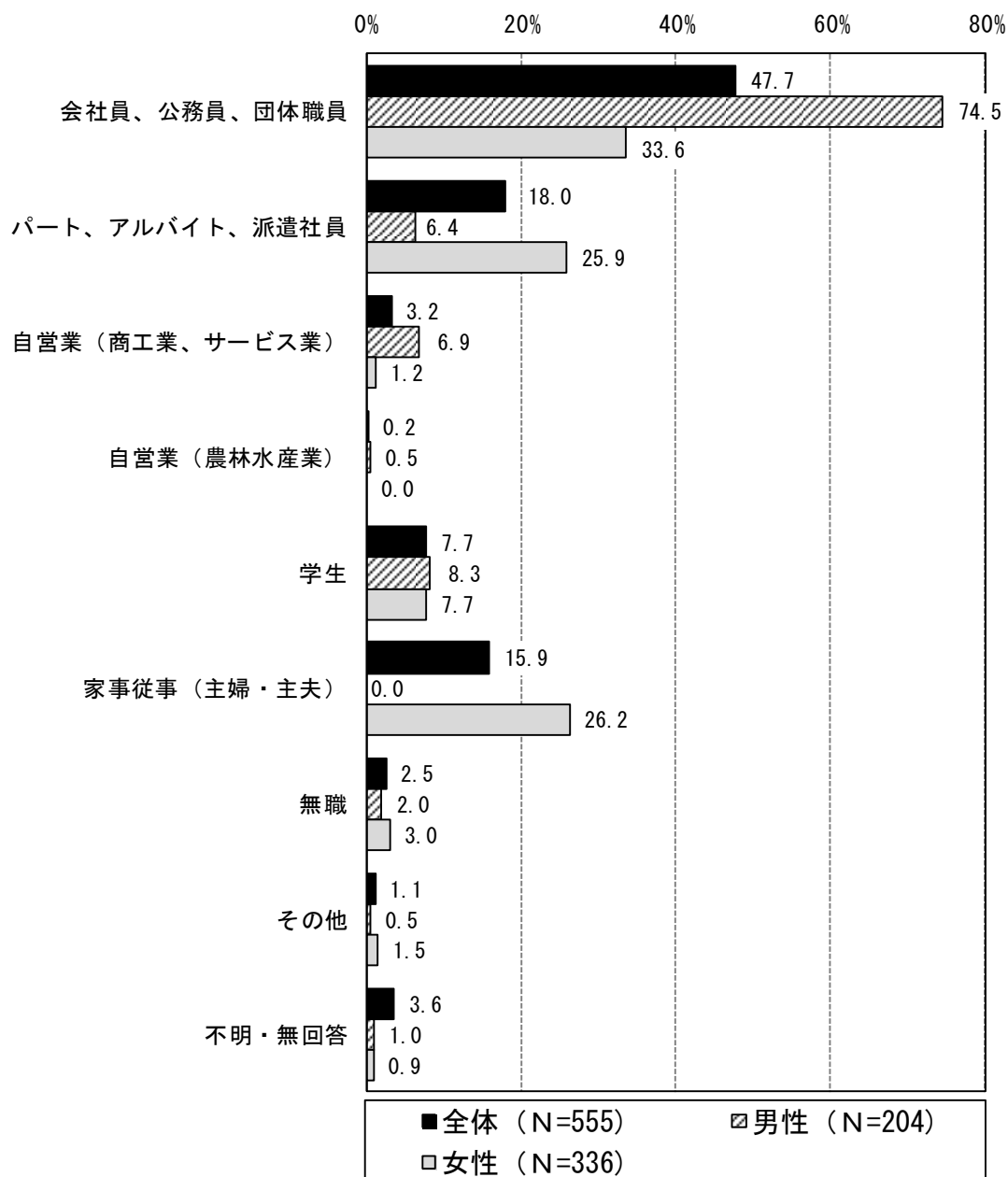
性別及び地域別は全体とほぼ同様の傾向ですが、既婚・独身別でみると、既婚では「30 歳代」が 81.3%、独身では「20 歳代」が 63.7%と、それぞれ最も高くなっています。



問3 職業

「会社員、公務員、団体職員」が47.7%と最も高く、次いで「パート、アルバイト、派遣社員」が18.0%、「家事従事（主婦・主夫）」が15.9%となっています。

性別でみると、男性では「会社員、公務員、団体職員」が74.5%と最も高くなっています。女性では「会社員、公務員、団体職員」が33.6%と最も高く、次いで「家事従事（主婦・主夫）」が26.2%、「パート、アルバイト、派遣社員」が25.9%と続いています。



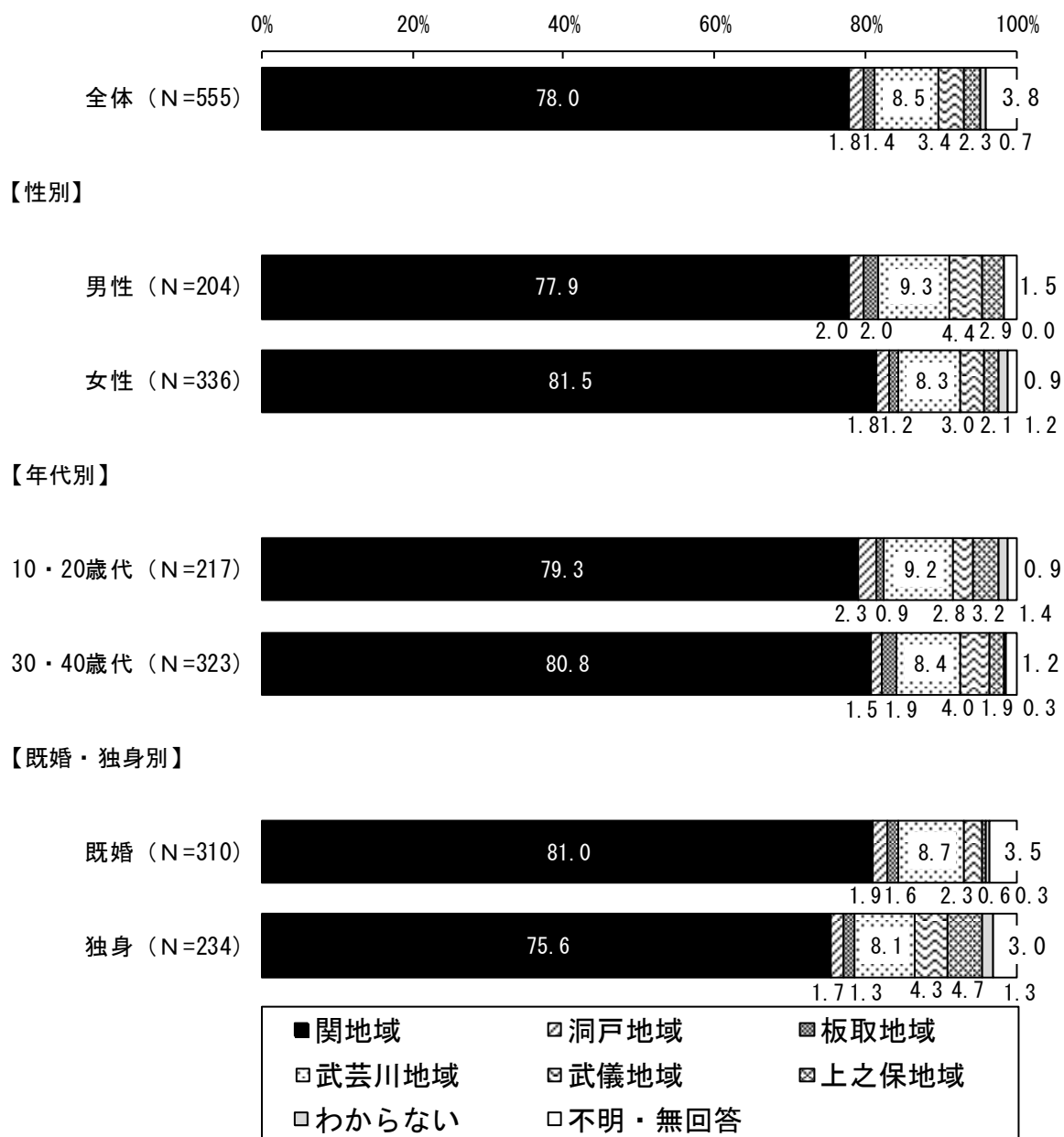
年代別、地域別及び既婚・独身別でみると、すべてにおいて「会社員、公務員、団体職員」が最も高くなっています。

	会社員、公務員、団体職員	パート、アルバイト、派遣社員	自営業（商工業、サービス業）	自営業（農林水産業）	学生	家事従事（主婦・主夫）	無職	その他	不明・無回答
【年代別】									
10・20歳代（N=217）	52.1	10.6	0.9	0.0	19.8	10.1	4.1	1.4	0.9
30・40歳代（N=323）	47.1	23.8	5.0	0.3	0.0	20.4	1.5	0.9	0.9
【地域別】									
関・武芸川（N=480）	47.9	19.8	3.1	0.2	7.7	17.1	2.5	1.0	0.6
板取・洞戸（N=18）	50.0	5.6	5.6	0.0	16.7	22.2	0.0	0.0	0.0
上之保・武儀（N=32）	65.6	9.4	6.3	0.0	6.3	6.3	3.1	3.1	0.0
【既婚・独身別】									
既婚（N=310）	42.6	21.3	4.2	0.3	0.0	27.4	0.0	1.0	3.2
独身（N=234）	54.7	14.1	2.1	0.0	17.9	0.9	6.0	1.3	3.0

単位：％

問4 居住地域

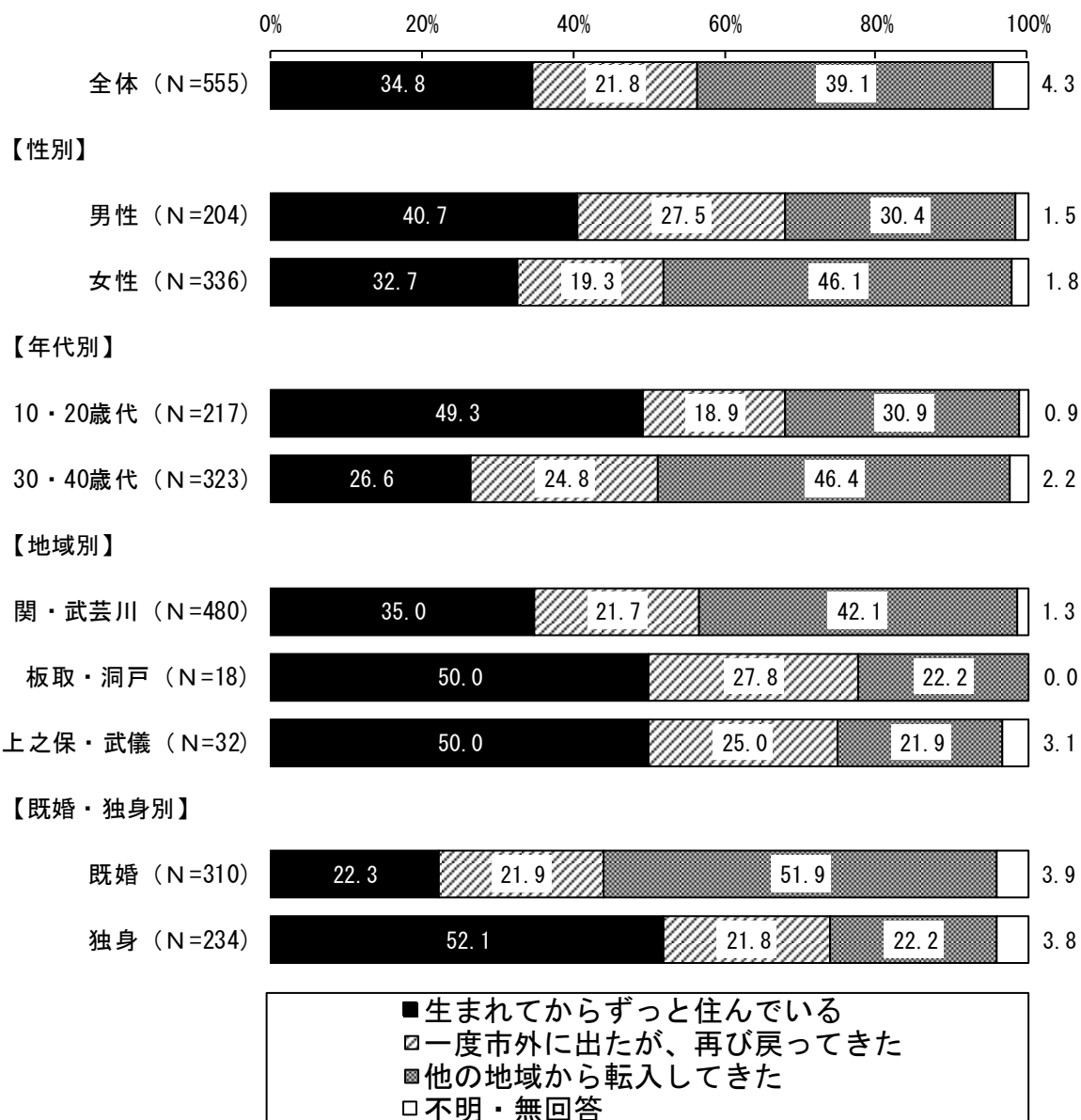
「関地域」が78.0%と最も高く、次いで「武芸川地域」が8.5%となっています。



問5 関市での居住の状況

「他の地域から転入してきた」が39.1%と最も高く、次いで「生まれてからずっと住んでいる」が34.8%となっています。「一度市外に出たが、再び戻ってきた」というUターン者の割合は21.8%となっています。

地域別でみると、板取・洞戸地域及び上之保・武儀地域に比べて関・武芸川地域で、「他の地域から転入してきた」が高くなっています。

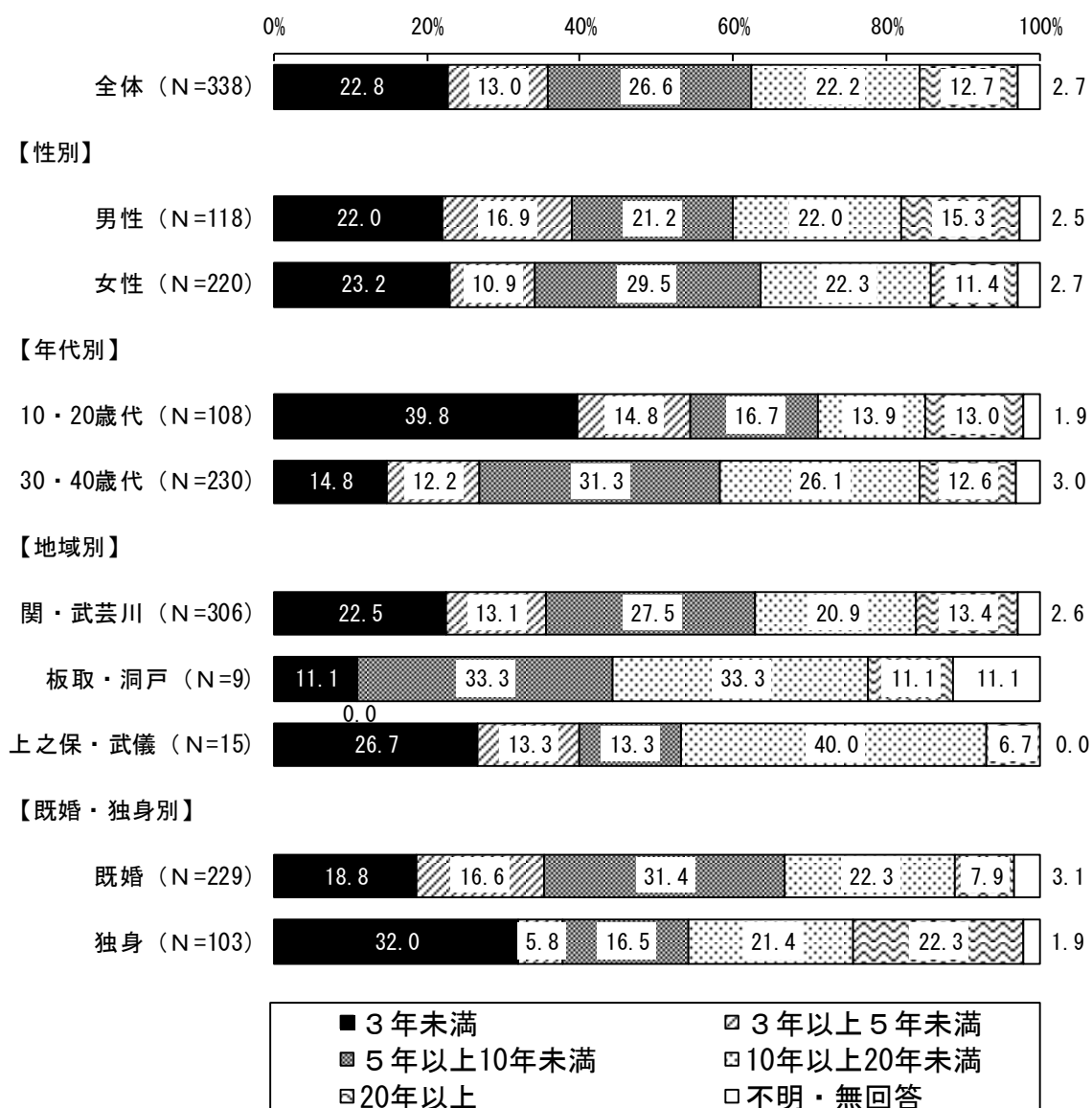


問5-1 転入後の居住年数

※問5で「2 一度市外に出たが、再び戻ってきた」「3 他の地域から転入してきた」のいずれかを選んだ方への質問

Uターン、または転入してきた人の居住年数は、「5年以上10年未満」が26.6%と最も高く、次いで「3年未満」が22.8%、「10年以上20年未満」が22.2%となっています。

地域別でみると、関・武芸川地域に比べて、板取・洞戸地域及び上之保・武儀地域の方が転入後の年数が長くなっています。



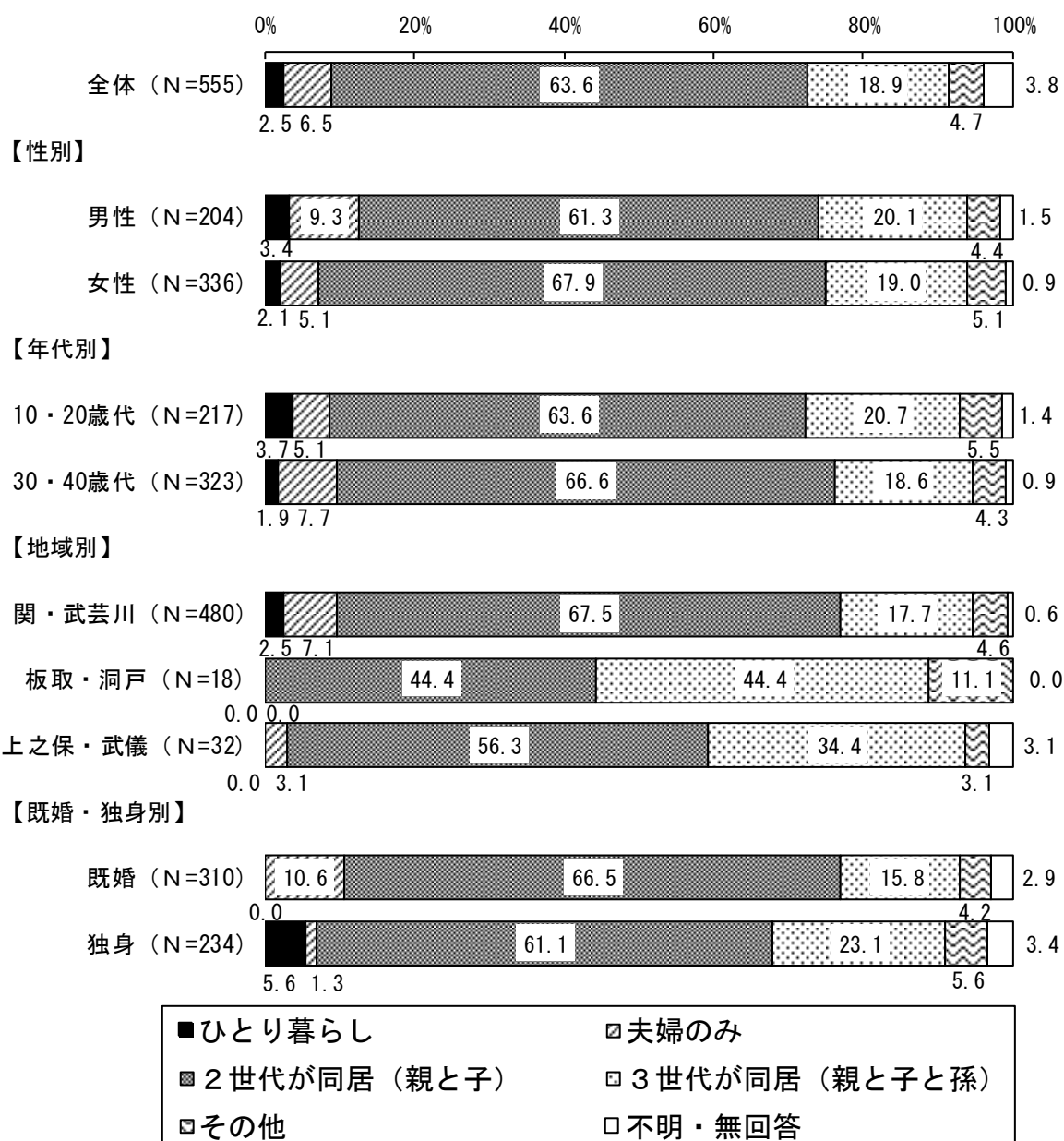
問6 家族構成

「2世代が同居（親と子）」が63.6%と最も高く、次いで「3世代が同居（親と子と孫）」が18.9%となっています。

性別、年代別及び既婚・独身別でみると、いずれも「2世代が同居（親と子）」が最も高くなっています。

地域別でみると、関・武芸川地域に比べて板取・洞戸地域及び上之保・武儀地域で「3世代が同居（親と子と孫）」が高くなっています。

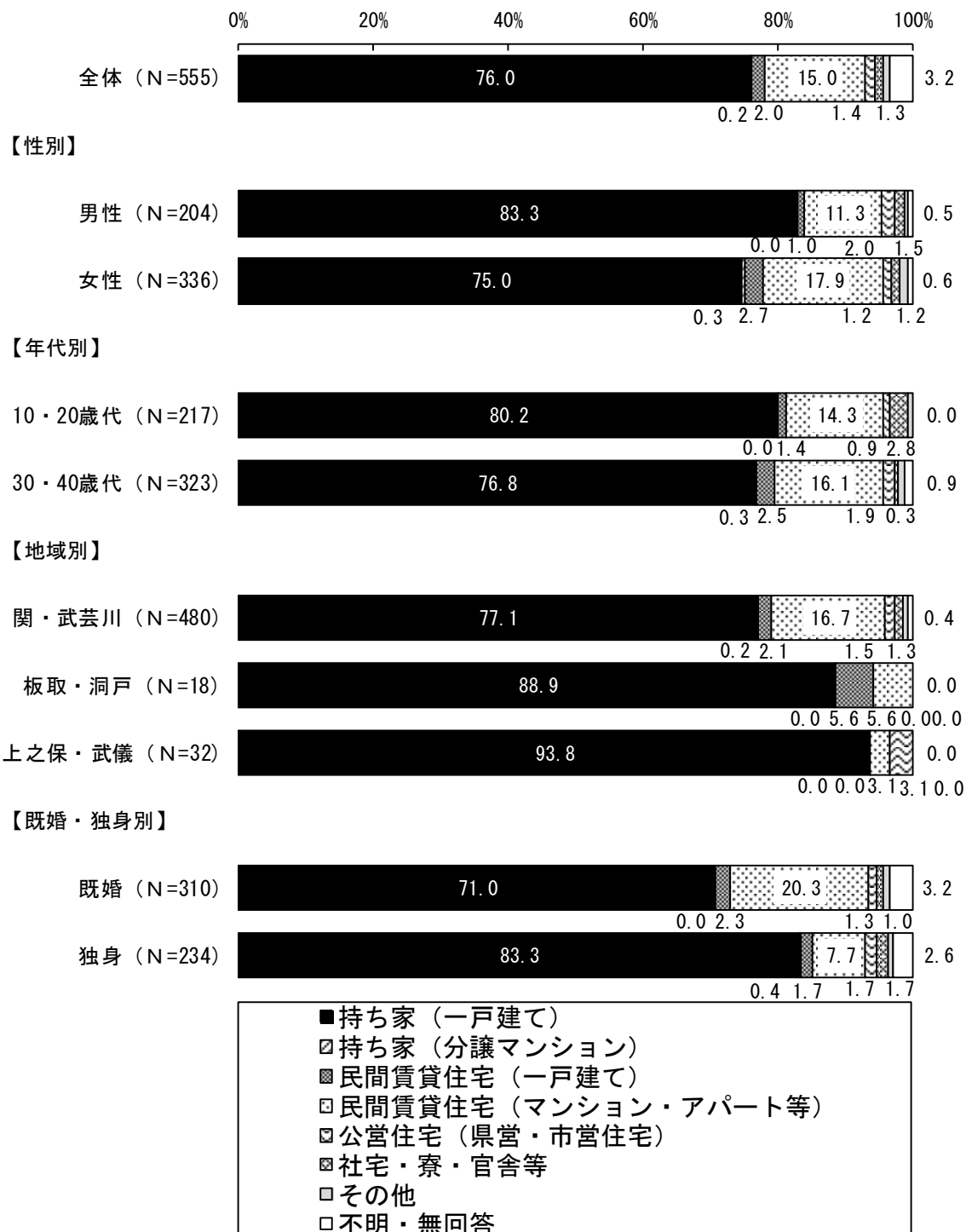
既婚者の「3世代が同居（親と子と孫）」は15.8%となっています。



問7 住まいの状況

全体で「持ち家（一戸建て）」が 76.0%と最も高く、次いで「民間賃貸住宅（マンション・アパート等）」が 15.0%となっています。

また、既婚者では 20.3%が「民間賃貸住宅（マンション・アパート等）」となっています。



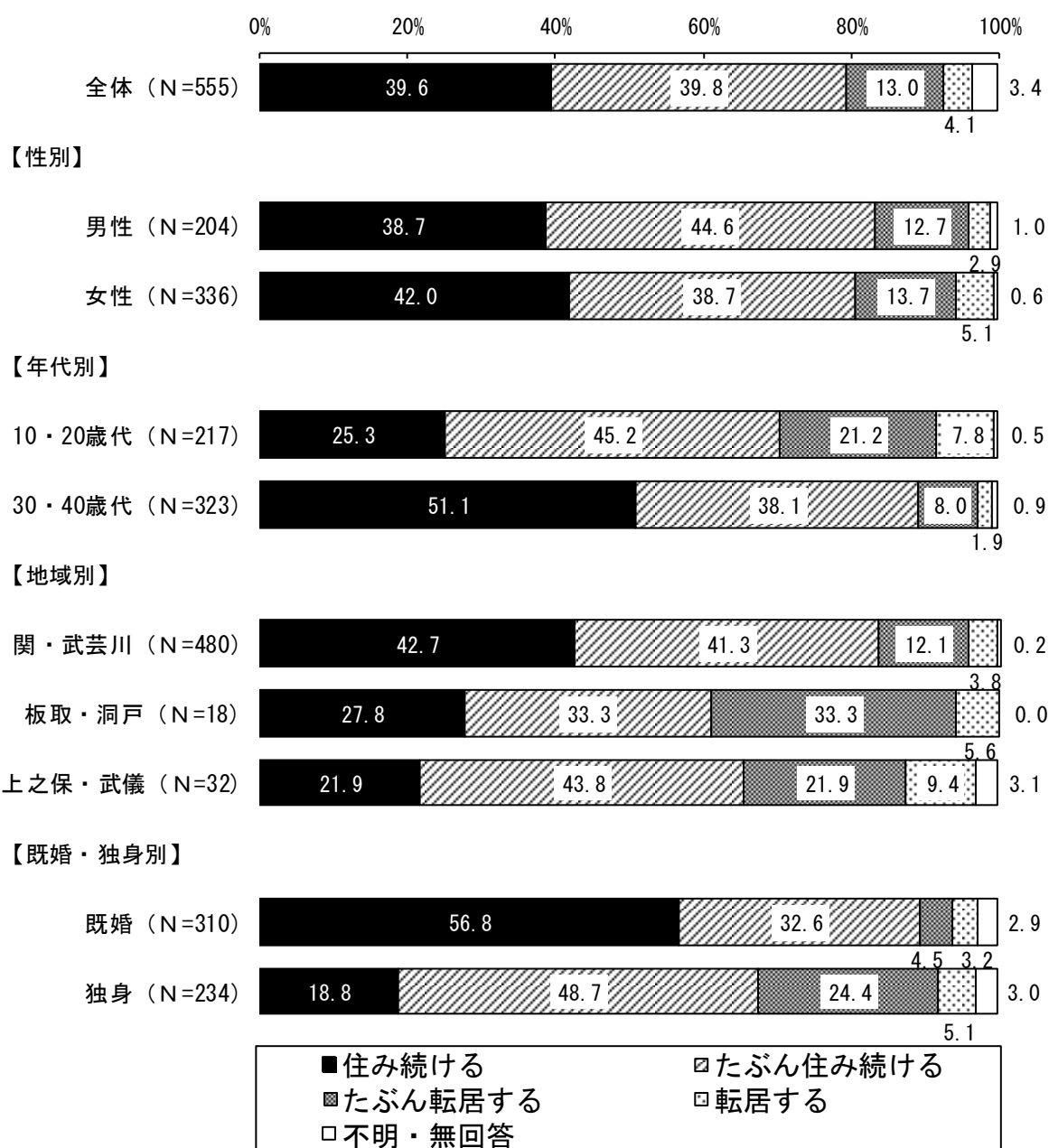
(2) 関市への居留意向

問8 これからも関市に住み続けるか

若年者の今後の定住意向は『住み続ける』が約8割、『転居する』が2割弱。

「住み続ける」と「たぶん住み続ける」を合わせた『住み続ける』が79.4%、「たぶん転居する」と「転居する」を合わせた『転居する』が17.1%となっています。

性別、年代別、地域別及び既婚・独身別でみると、いずれも『住み続ける』が『転居する』より高くなっていますが、10・20歳代、板取・洞戸地域、上之保・武儀地域及び独身者では『転居する』が2～3割を占めています。



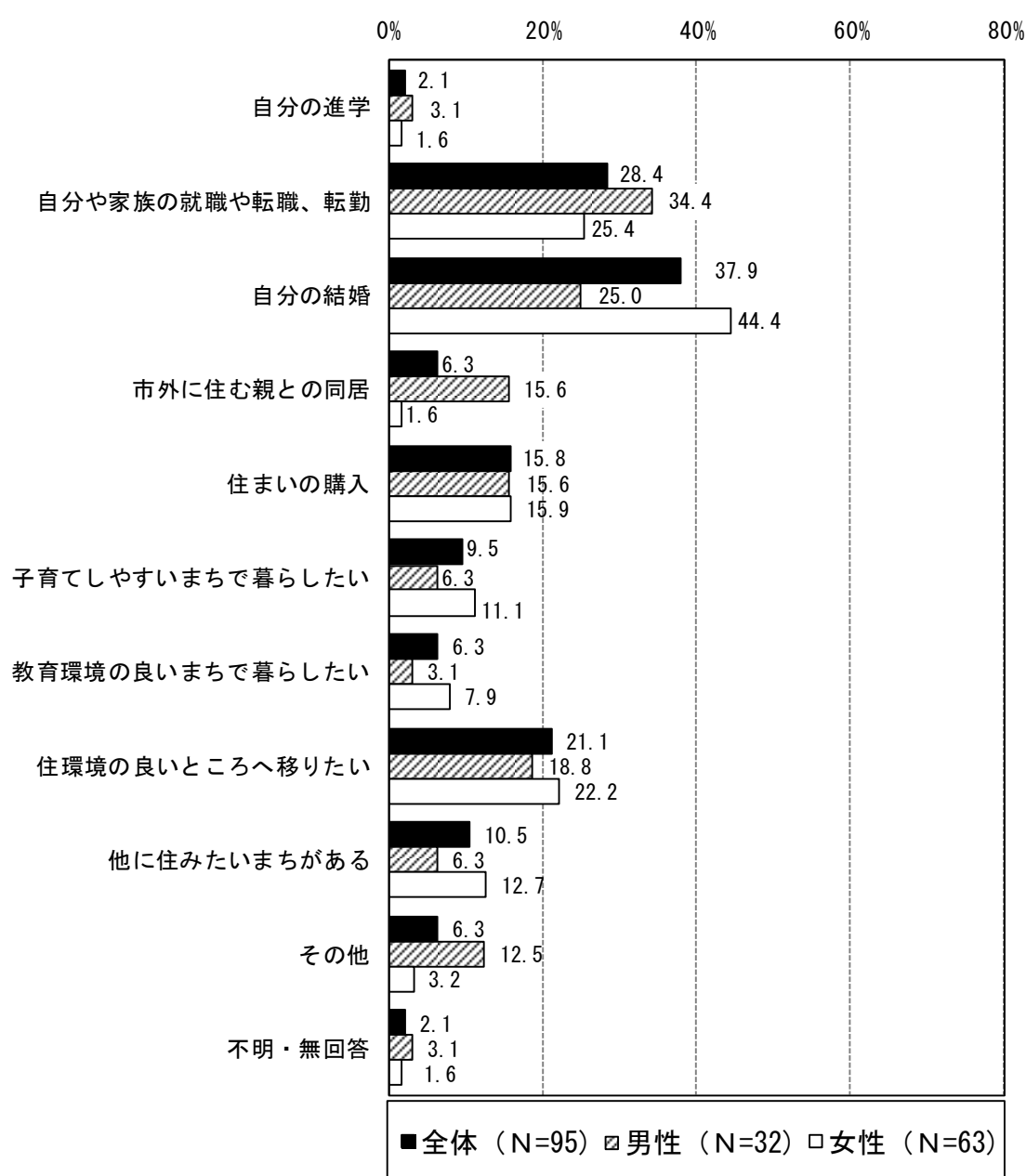
問8－1 転居する場合の理由

※問8で「3 たぶん転居する」「4 転居する」のいずれかを選んだ方への質問

転居する理由は結婚や就職・転勤等が多い。結婚や仕事などの個人の状況以外の要素では「住環境の良いところへ移りたい」も約2割みられる。

「自分の結婚」が37.9%と最も高く、次いで「自分や家族の就職や転職、転勤」が28.4%となっています。

性別でみると、男性では「自分や家族の就職や転職、転勤」が、女性では「自分の結婚」が最も高くなっています。また、「子育てしやすいまちで暮らしたい」「教育環境の良いまちで暮らしたい」では男性よりも女性で高く、男女差がみられます。



年代別、地域別及び既婚・独身別ではいずれも「自分の結婚」が高くなっていますが、既婚者では、「住まいの購入」が高くなっています。

板取・洞戸地域では、「自分の結婚」の他に「住まいの購入」「子育てしやすいまちで暮らしたい」「教育環境の良いまちで暮らしたい」「住環境の良いところへ移りたい」が同率で高くなっています。

	自分の進学	自分や家族の就職や転職、転勤	自分の結婚	市外に住む親との同居	住まいの購入	子育てしやすいまちで暮らしたい	教育環境の良いまちで暮らしたい	住環境の良いところへ移りたい	他に住みたいまちがある	その他	不明・無回答
【年代別】											
10・20 歳代 (N=217)	3.2	36.5	38.1	1.6	12.7	4.8	1.6	19.0	14.3	6.3	3.2
30・40 歳代 (N=323)	0.0	12.5	37.5	15.6	21.9	18.8	15.6	25.0	3.1	6.3	0.0
【地域別】											
関・武芸川 (N=480)	2.6	30.3	34.2	7.9	15.8	6.6	5.3	19.7	10.5	5.3	2.6
板取・洞戸 (N=18)	0.0	0.0	28.6	0.0	28.6	28.6	28.6	28.6	14.3	28.6	0.0
上之保・武儀 (N=32)	0.0	20.0	70.0	0.0	10.0	20.0	0.0	30.0	10.0	0.0	0.0
【既婚・独身別】											
既婚 (N=310)	0.0	16.7	20.8	20.8	37.5	16.7	12.5	16.7	0.0	12.5	0.0
独身 (N=234)	2.9	33.3	44.9	1.4	7.2	7.2	4.3	21.7	13.0	4.3	1.4

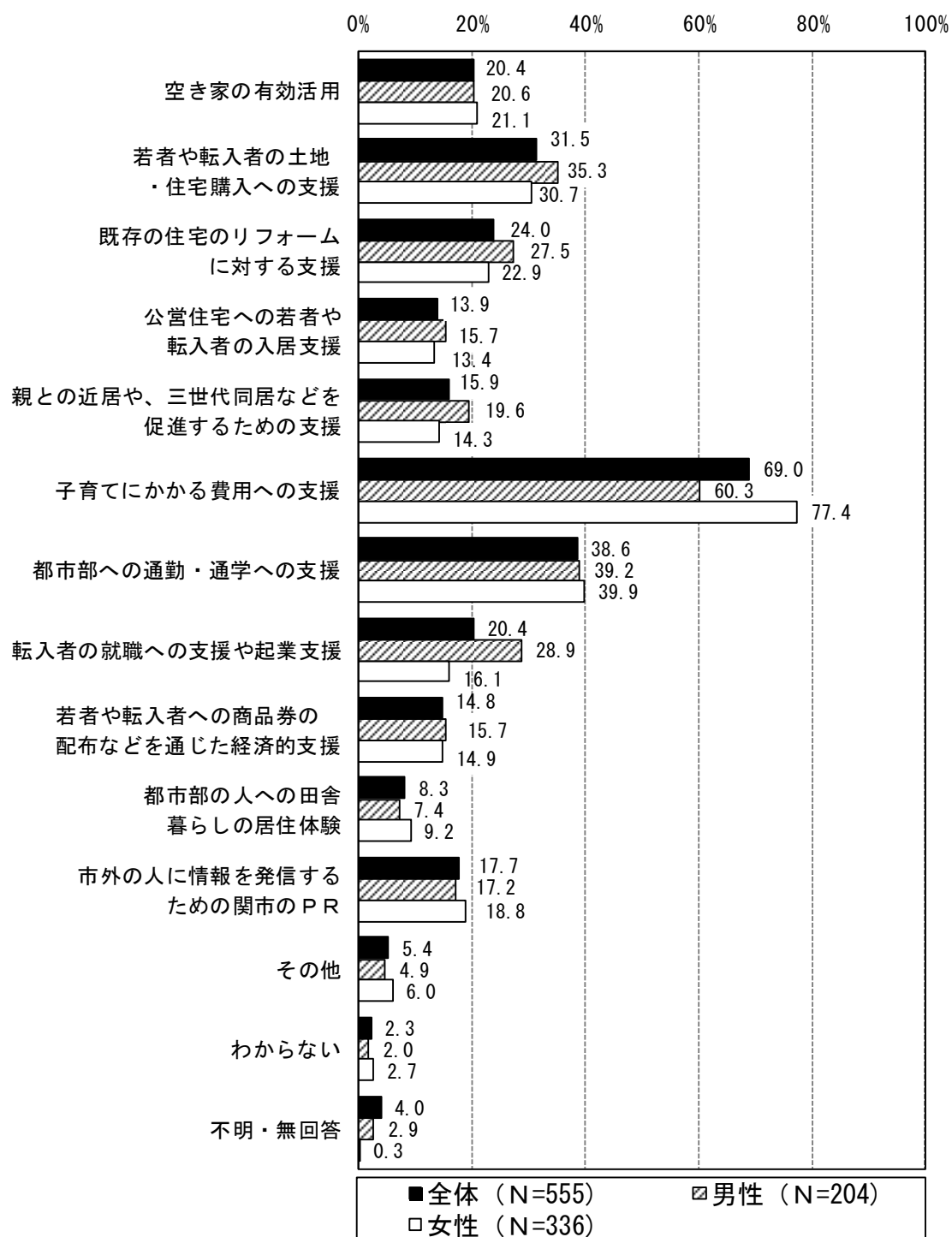
単位：％

問9 関市にどのようなサービス・支援があれば、住み続ける人や転入してくる人が増えると思うか

定住にあたっては子育てへの経済的な支援や、通勤・通学への支援が求められている。

「子育てにかかる費用への支援」が 69.0%と最も高く、次いで「都市部への通勤・通学への支援」が 38.6%となっています。

性別でみると、男性、女性ともに「子育てにかかる費用への支援」が最も高くなっています。



年代別、地域別及び既婚・独身別でみると、いずれも「子育てにかかる費用への支援」「都市部への通勤・通学への支援」が上位となっています。

	空き家の有効活用	若者や転入者の土地・住宅購入への支援	既存の住宅のリフォームに対する支援	公営住宅への若者や転入者の入居支援	親との近居や、三世代同居などを促進するための支援	子育てにかかる費用への支援	都市部への通勤・通学への支援	転入者の就職への支援や起業支援	若者や転入者への商品券の配布などを通じた経済的支援	都市部の人への田舎暮らしの居住体験	市外の人に情報を発信するための関市のPR	その他	わからない	不明・無回答
【年代別】														
10・20 歳代 (N=217)	17.1	33.6	20.3	12.4	10.1	60.8	45.6	20.7	17.1	10.1	18.9	6.5	3.7	1.4
30・40 歳代 (N=323)	23.5	31.6	27.6	15.5	20.4	77.7	35.6	21.1	13.9	7.4	17.6	5.0	1.5	1.2
【地域別】														
関・武芸川 (N=480)	20.8	31.0	24.4	14.6	15.4	72.5	38.1	20.4	14.6	8.1	18.8	5.8	2.1	1.0
板取・洞戸 (N=18)	11.1	50.0	27.8	0.0	27.8	55.6	72.2	27.8	38.9	22.2	11.1	5.6	0.0	5.6
上之保・武儀 (N=32)	25.0	43.8	31.3	18.8	28.1	62.5	53.1	31.3	9.4	9.4	15.6	3.1	3.1	0.0
【既婚・独身別】														
既婚 (N=310)	24.2	33.2	25.5	12.6	17.7	81.9	35.5	18.1	15.2	6.8	16.8	7.1	1.0	3.2
独身 (N=234)	15.8	29.5	22.2	15.4	13.7	53.0	41.9	23.9	14.1	10.7	19.7	3.4	4.3	4.3

単位：％

(3)結婚について

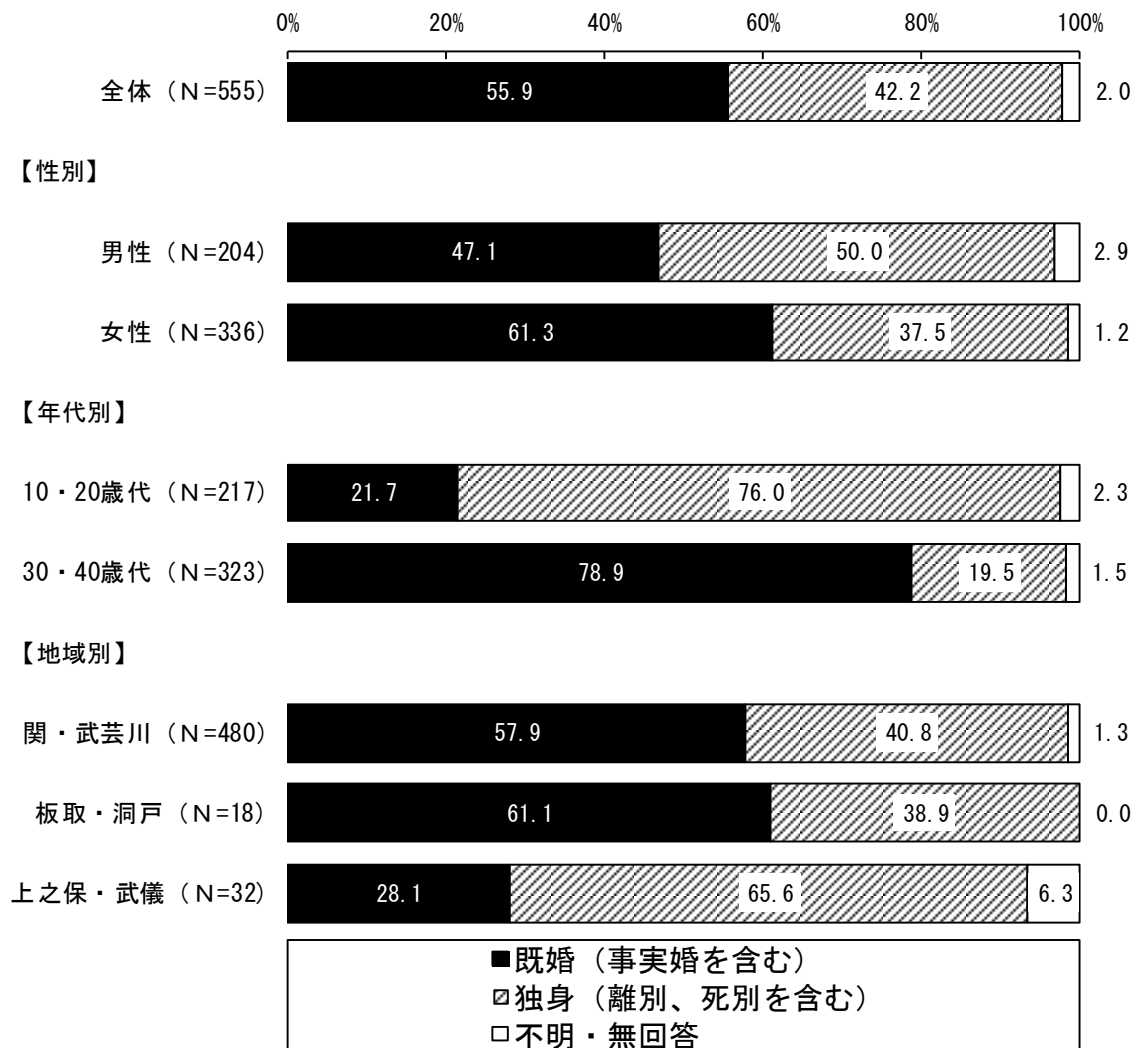
問 10 結婚の状況

「既婚」が 55.9%、「独身」が 42.2%となっています。

性別でみると、男性では「独身」が、女性では「既婚」がそれぞれ最も高くなっています。

年代別でみると、10・20 歳代では「独身」が、30・40 歳代では「既婚」が最も高くなっています。

地域別でみると、上之保・武儀地域で「独身」が高くなっています。

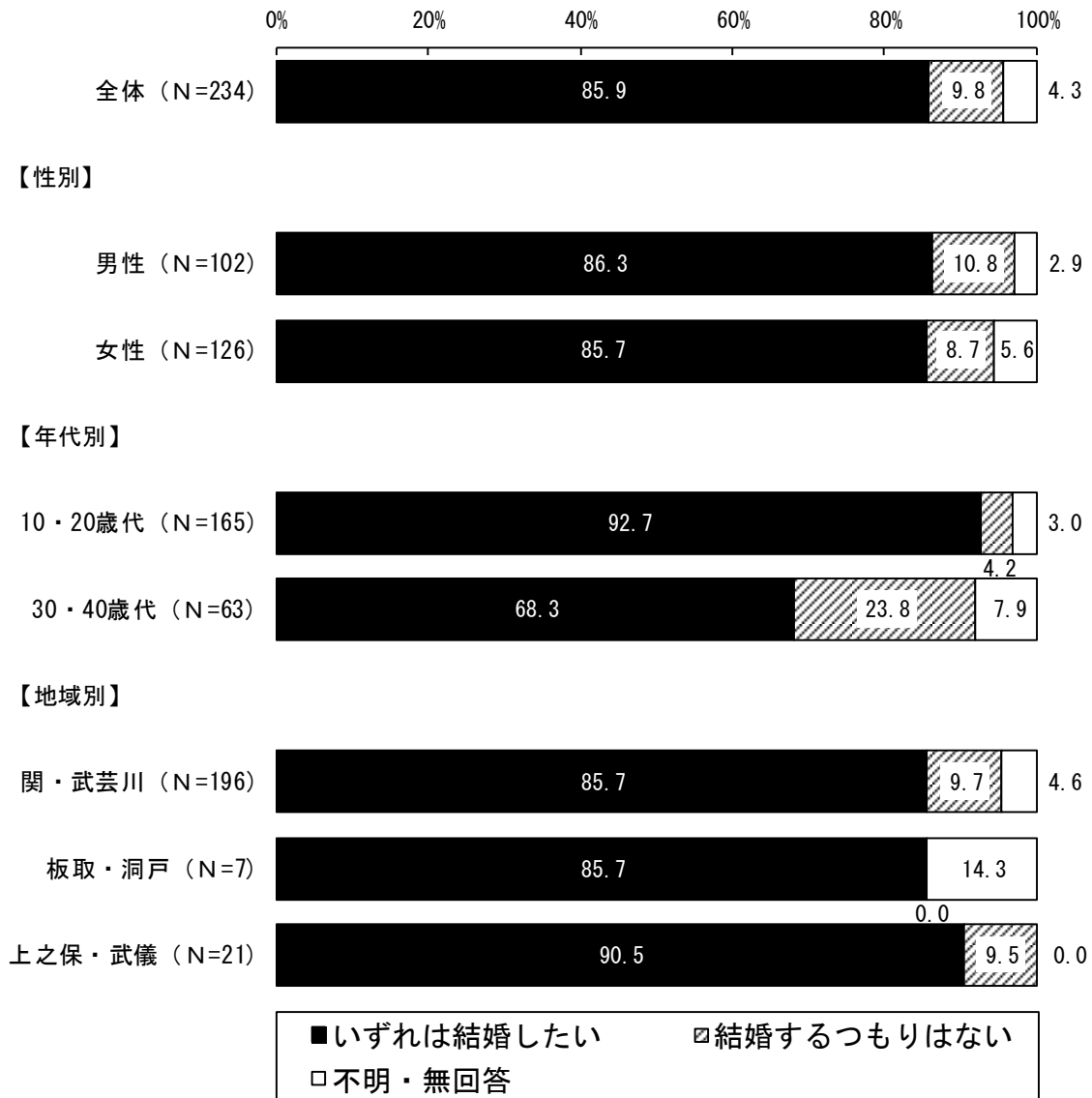


問 10－1 将来の結婚の希望

※問 10 で「2 独身」を選んだ方への質問

独身者の 85.9%が結婚を希望している。

「いずれは結婚したい」が 85.9%、「結婚するつもりはない」が 9.8%となっています。
年代別でみると、30・40 歳代で「結婚するつもりはない」が 23.8%となっています。



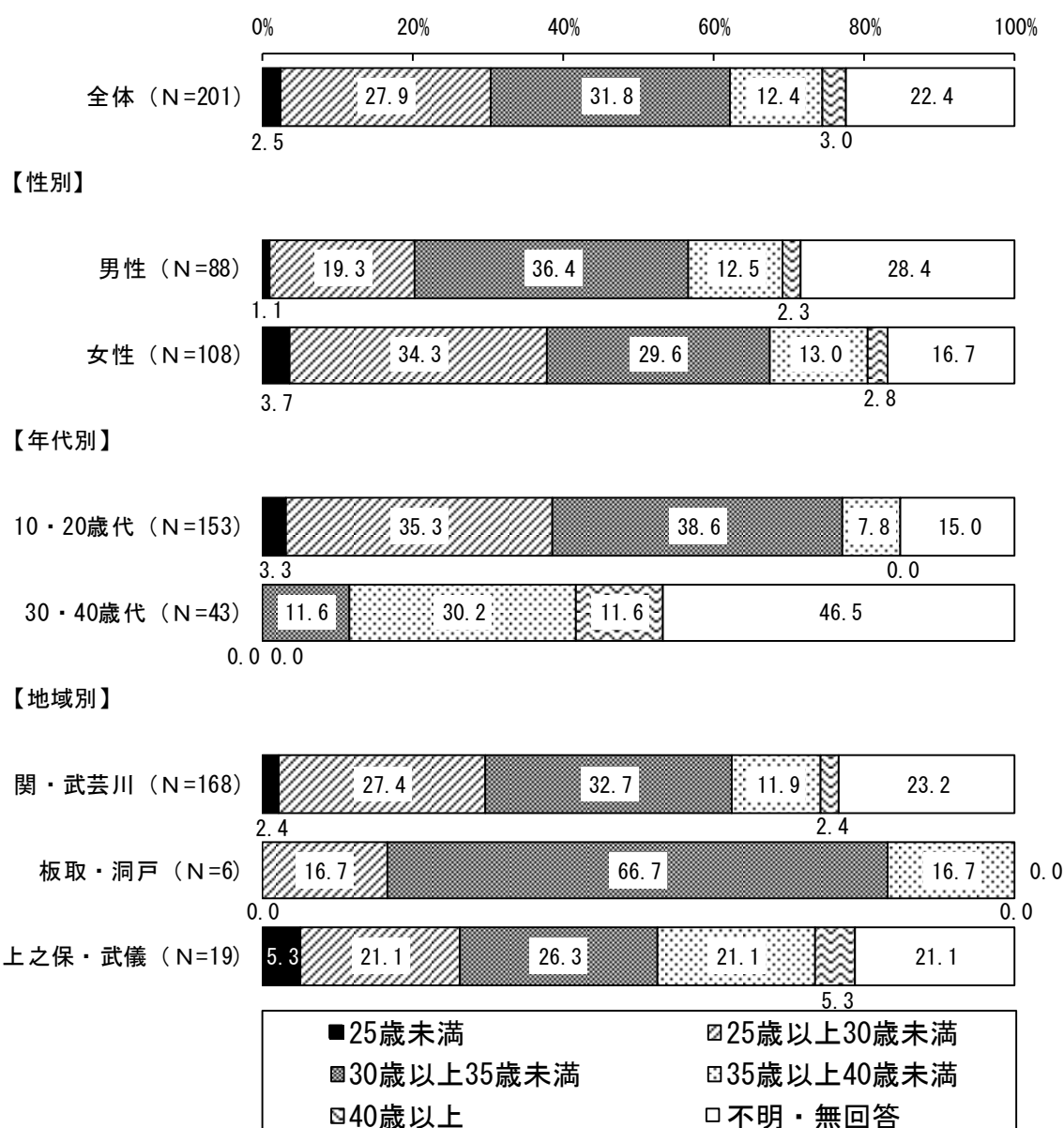
問 10-1(1) 何歳で結婚したいか

※問 10-1で「1 いずれは結婚したい」を選んだ方への質問

男性は 30 歳代前半、女性は 20 歳代後半が理想の結婚年齢となっている。

「30 歳以上 35 歳未満」が 31.8%と最も高く、次いで「25 歳以上 30 歳未満」が 27.9%となっています。

性別でみると、男性では「30 歳以上 35 歳未満」が、女性では「25 歳以上 30 歳未満」が最も高くなっています。



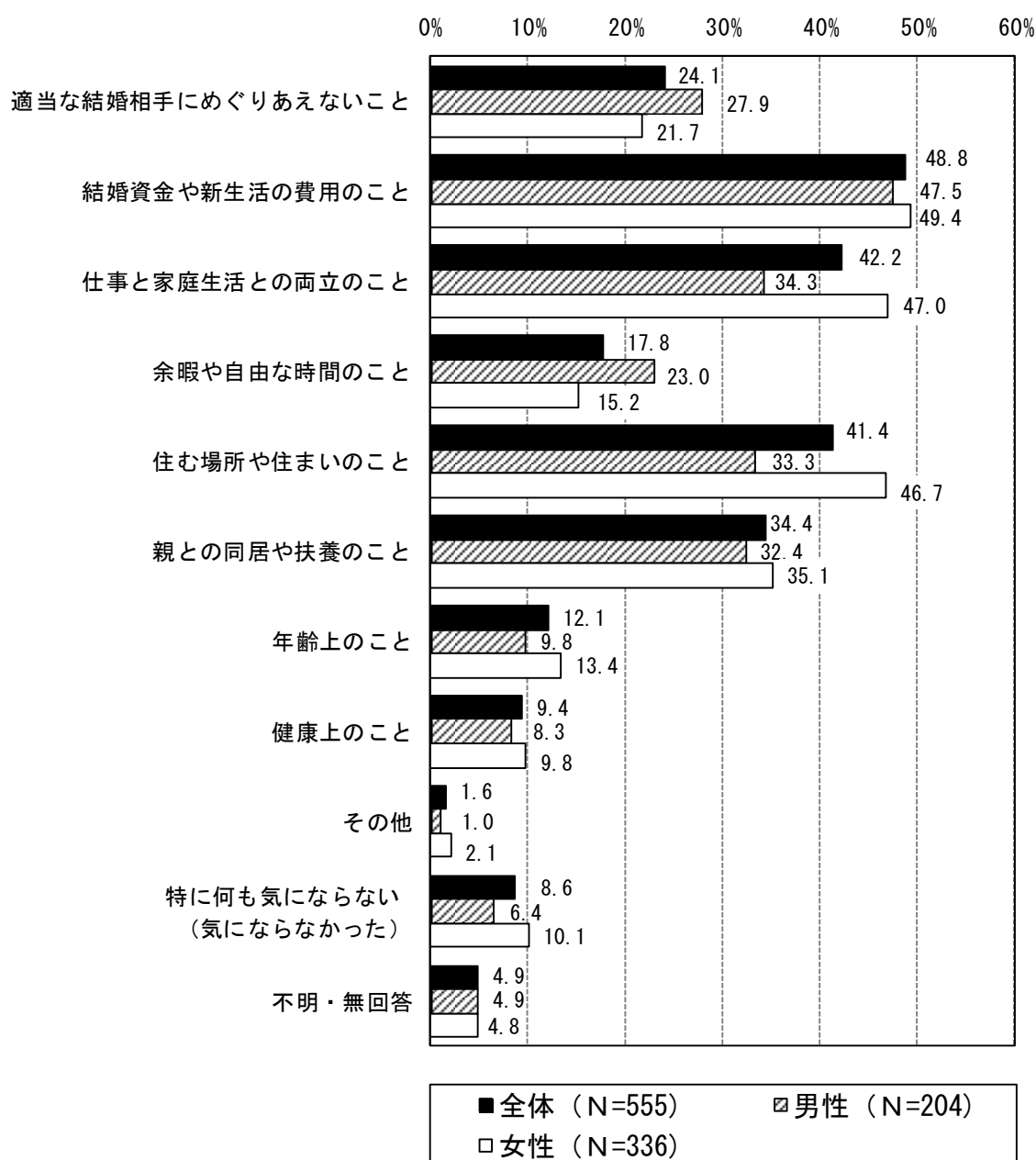
問 11 結婚を考えるときに気になる(気になった)こと

結婚には費用等の経済的なことが課題となる。

女性にとっては仕事と家庭の両立や住む場所のことも気になるポイント。

「結婚資金や新生活の費用のこと」が48.8%と最も高く、次いで「仕事と家庭生活との両立のこと」が42.2%、「住む場所や住まいのこと」が41.4%となっています。

性別でみると、男女ともに「結婚資金や新生活の費用のこと」が最も高くなっていますが、男性に比べて女性で「仕事と家庭生活との両立のこと」「住む場所や住まいのこと」が高くなっています。



年代別、地域別及び既婚・独身別でみると、いずれも「結婚資金や新生活の費用のこと」「住む場所や住まいのこと」が上位となっています。

	適当な結婚相手にめぐりあえないこと	結婚資金や新生活の費用のこと	仕事と家庭生活との両立のこと	余暇や自由な時間のこと	住む場所や住まいのこと	親との同居や扶養のこと	年齢上のこと	健康上のこと	その他	特に何も気にならない（気にならなかった）	不明・無回答
【年代別】											
10・20 歳代（N=217）	28.6	57.1	44.2	19.4	39.6	23.5	7.8	8.3	0.9	6.0	4.6
30・40 歳代（N=323）	21.1	43.0	40.9	17.3	43.0	41.2	14.9	9.9	2.2	10.5	5.0
【地域別】											
関・武芸川（N=480）	22.7	50.4	43.1	17.9	41.7	34.0	11.7	9.0	1.5	8.3	4.2
板取・洞戸（N=18）	33.3	22.2	27.8	16.7	38.9	22.2	5.6	11.1	11.1	22.2	11.1
上之保・武儀（N=32）	34.4	46.9	43.8	25.0	50.0	50.0	18.8	12.5	0.0	3.1	3.1
【既婚・独身別】											
既婚（N=310）	14.5	45.2	42.3	15.8	47.4	41.9	11.0	7.4	1.9	12.6	3.9
独身（N=234）	37.2	55.6	43.6	20.1	34.6	24.8	13.7	12.0	1.3	3.4	3.8

単位：％

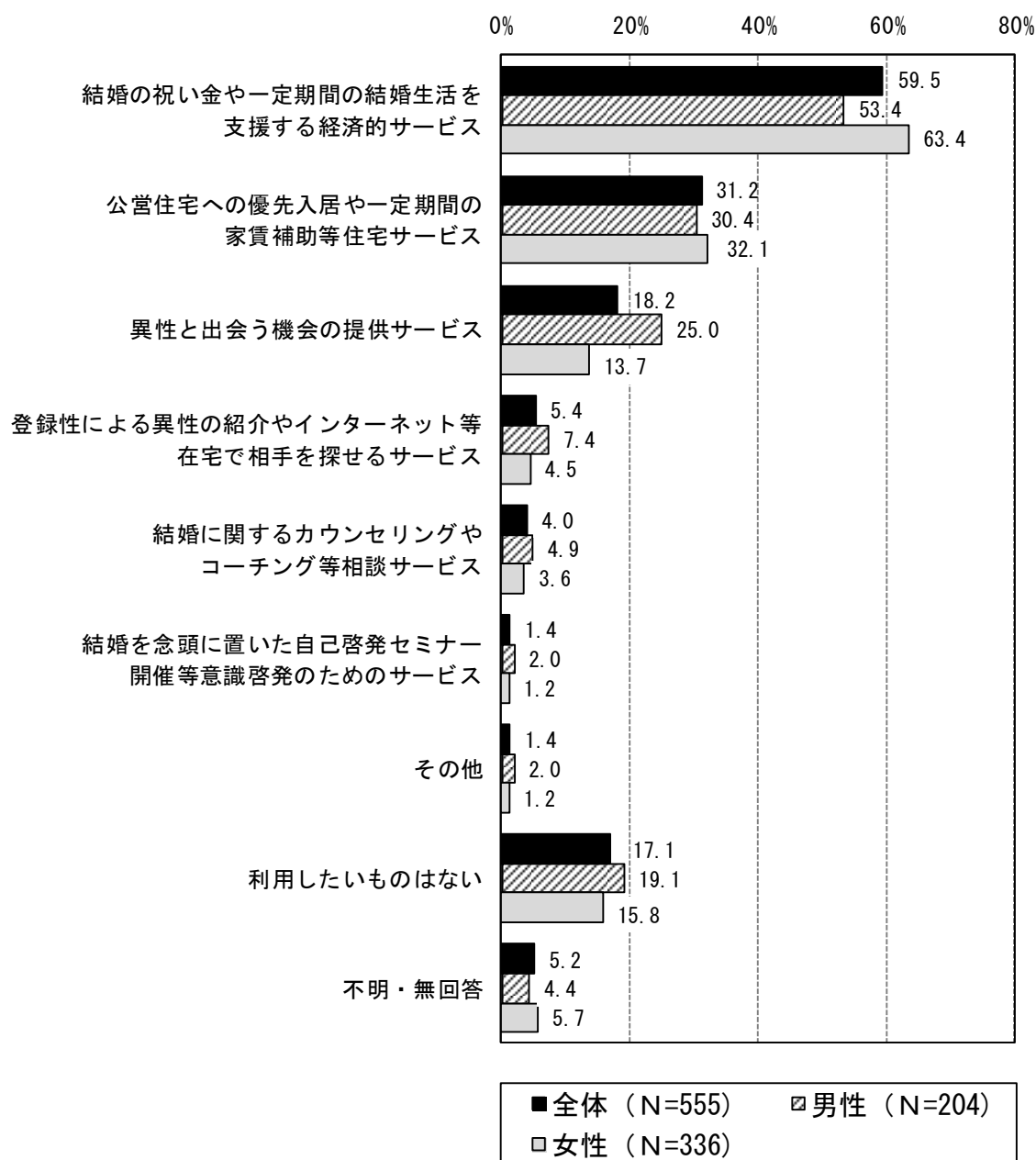
問 12 利用してみたい(利用してみたかった)結婚支援サービス

結婚にあたっては、祝い金や家賃補助等の経済的サービスが求められている。

また、男性、上之保・武儀地域では出会いの機会を求める割合が高い。

「結婚の祝い金や一定期間の結婚生活を支援する経済的サービス」が 59.5%と最も高く、次いで「公営住宅への優先入居や一定期間の家賃補助等住宅サービス」が 31.2%となっています。

性別でみると、男性、女性ともに「結婚の祝い金や一定期間の結婚生活を支援する経済的サービス」が最も高くなっています。女性に比べて男性では「異性と出会う機会の提供サービス」が高くなっています。



年代別、地域別及び既婚・独身別でみると、いずれも「結婚の祝い金や一定期間の結婚生活を支援する経済的サービス」「公営住宅への優先入居や一定期間の家賃補助等住宅サービス」が上位となっています。

また、上之保・武儀地域では「異性と出会う機会の提供サービス」が 31.3%と、他に比べて高くなっています。

	結婚の祝い金や一定期間の結婚生活を支援する経済的サービス	公営住宅への優先入居や一定期間の家賃補助等住宅サービス	異性と出会う機会の提供サービス	登録性による異性の紹介やインターネット等在宅で相手を探せるサービス	結婚に関するカウンセリングやコーチング等相談サービス	結婚を念頭に置いた自己啓発セミナー開催等意識啓発のためのサービス	その他	利用したいものはない	不明・無回答
【年代別】									
10・20 歳代 (N=217)	66.4	31.3	18.4	3.7	3.2	1.8	1.4	13.4	4.6
30・40 歳代 (N=323)	55.1	31.6	17.6	6.8	4.6	1.2	1.5	19.5	5.6
【地域別】									
関・武芸川 (N=480)	60.4	31.0	16.9	5.6	4.2	1.7	1.5	17.1	5.0
板取・洞戸 (N=18)	50.0	16.7	16.7	5.6	5.6	0.0	5.6	22.2	5.6
上之保・武儀 (N=32)	59.4	50.0	31.3	6.3	3.1	0.0	0.0	15.6	3.1
【既婚・独身別】									
既婚 (N=310)	59.7	30.6	14.5	4.2	3.2	1.3	1.6	17.1	4.5
独身 (N=234)	61.1	32.9	22.6	6.8	4.7	1.7	1.3	17.5	4.3

単位：％

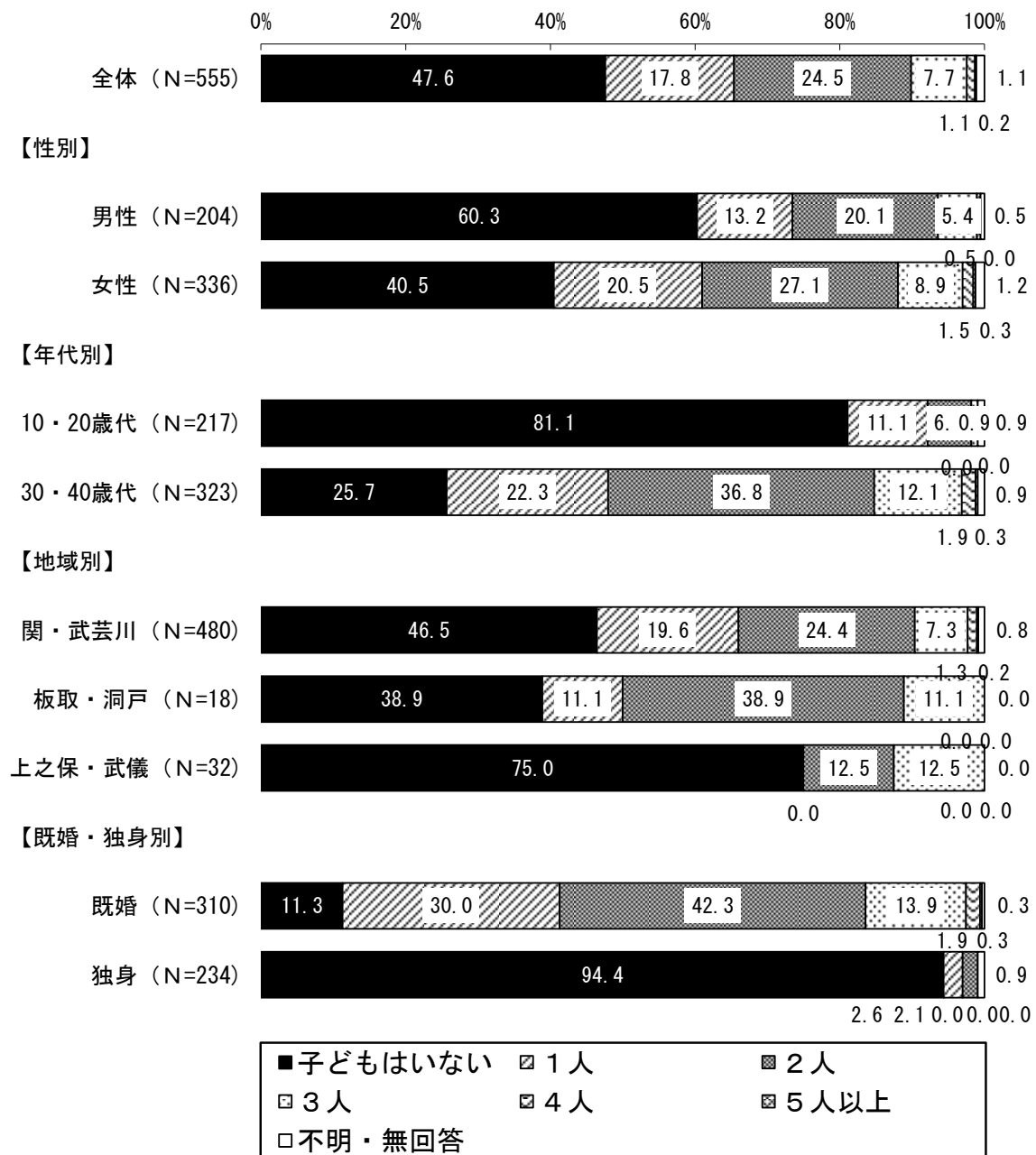
(4)子どもについて

問 13 現在の子どもの人数

実際の子どもの人数は、既婚者で平均 1.7 人。

「子どもはいない」が 47.6%と最も高く、次いで「2 人」が 24.5%、「1 人」が 17.8%となっています。

既婚者では「2 人」が 42.3%、「1 人」が 30.0%となっています。

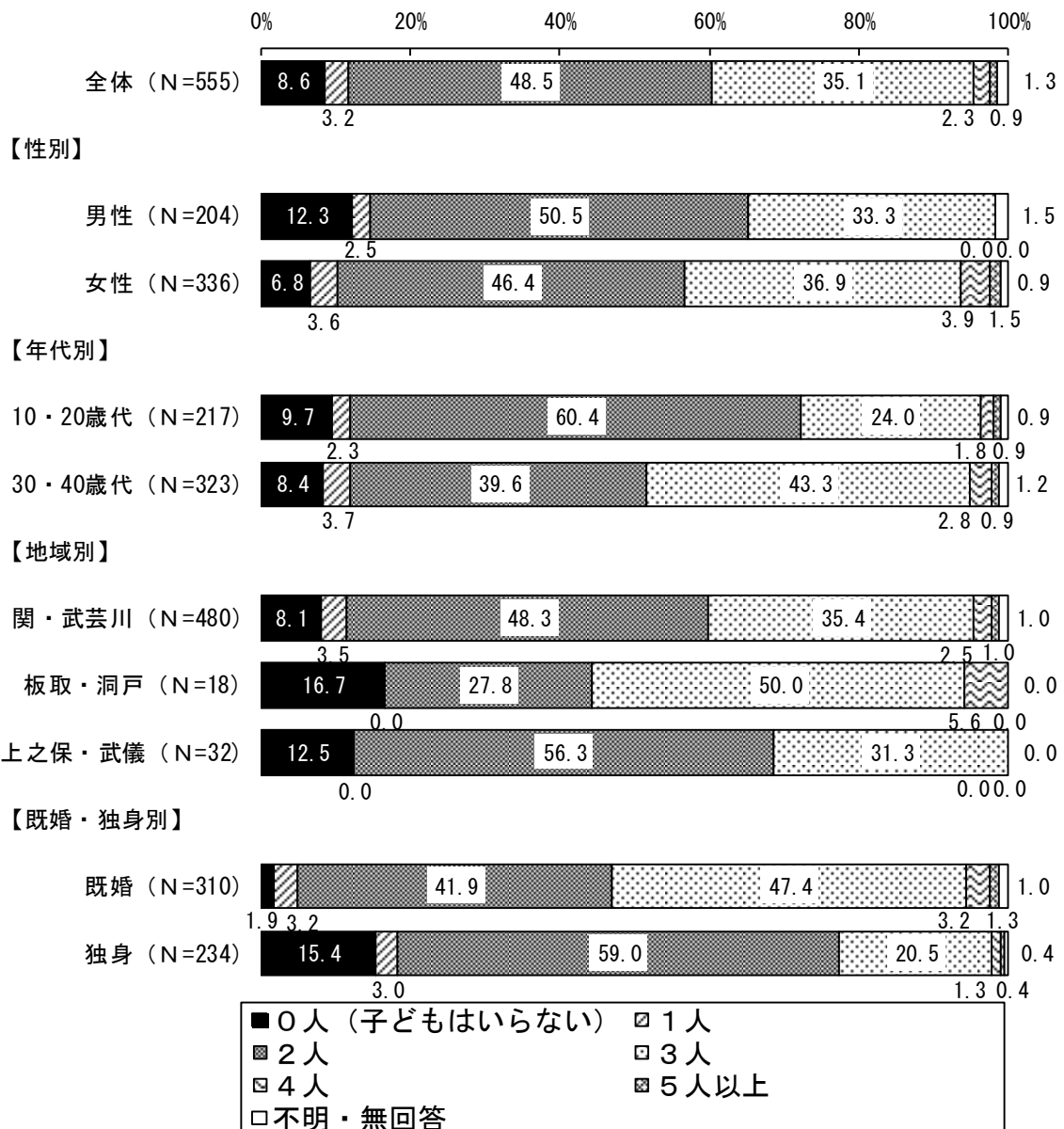


問 14 理想の子ども的人数

**理想の子ども的人数は、既婚者で平均 2.5 人であり、実際の子ども数との差は 0.8 人。
独身者も含めた全体の理想の子ども数は平均 2.3 人。**

「2 人」が 48.5%と最も高く、次いで「3 人」が 35.1%、「0 人（子どもはいらない）」が 8.6%となっています。

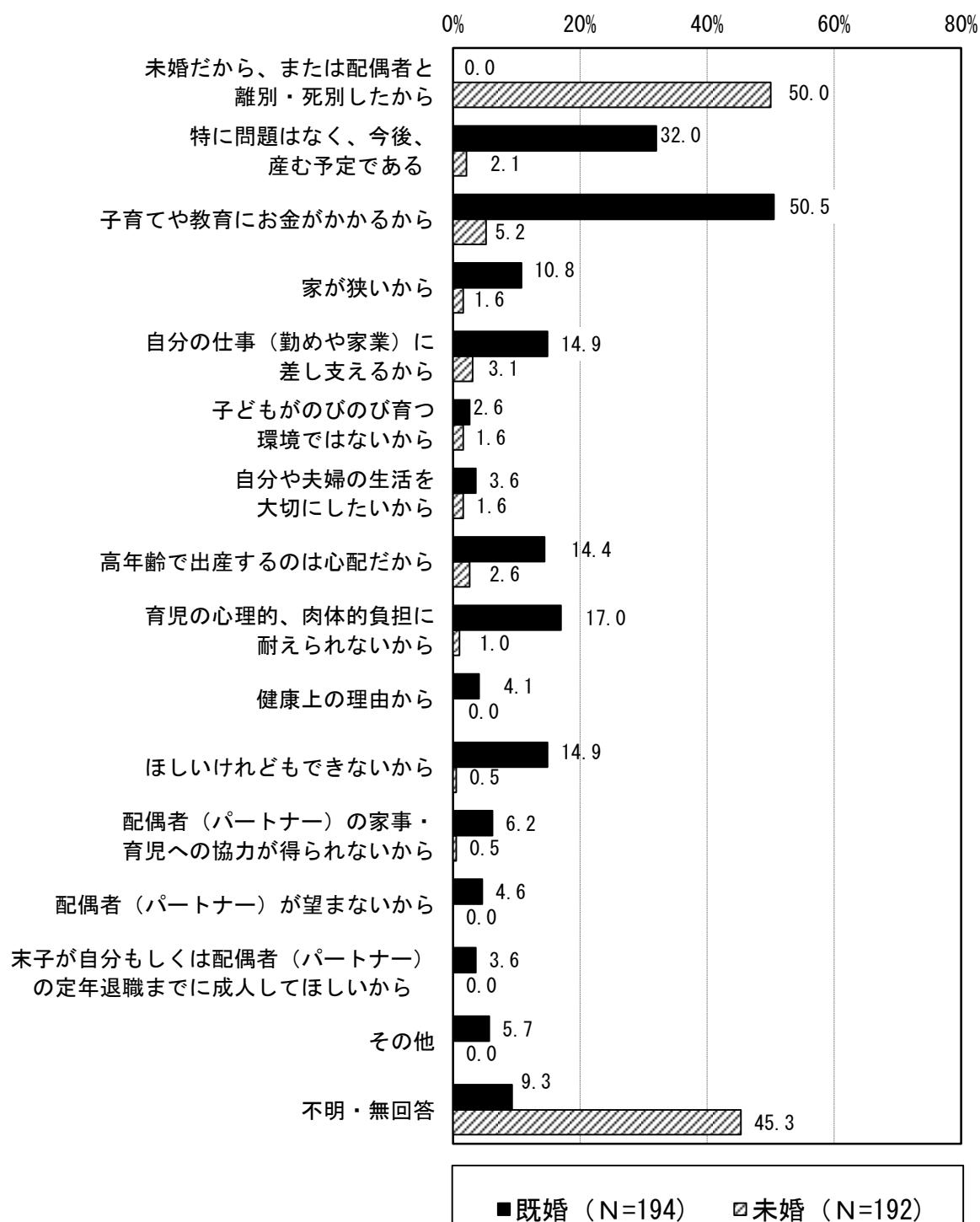
既婚・独身別でみると、既婚では「3 人」が、独身では「2 人」が最も高くなっています。



問 15 子どもの人数が理想より少ない理由

子育て・教育にかかる経済的負担を理由にあげる人が約半数みられる。

既婚者の理由では、「子育てや教育にお金がかかるから」が 50.5%と最も高く、次いで「特に問題はなく、今後、産む予定である」が 32.0%となっています。その他、「育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」「自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから」「ほしいけれどもできないから」「高年齢で出産するのは心配だから」などがそれぞれ 15%前後みられます。

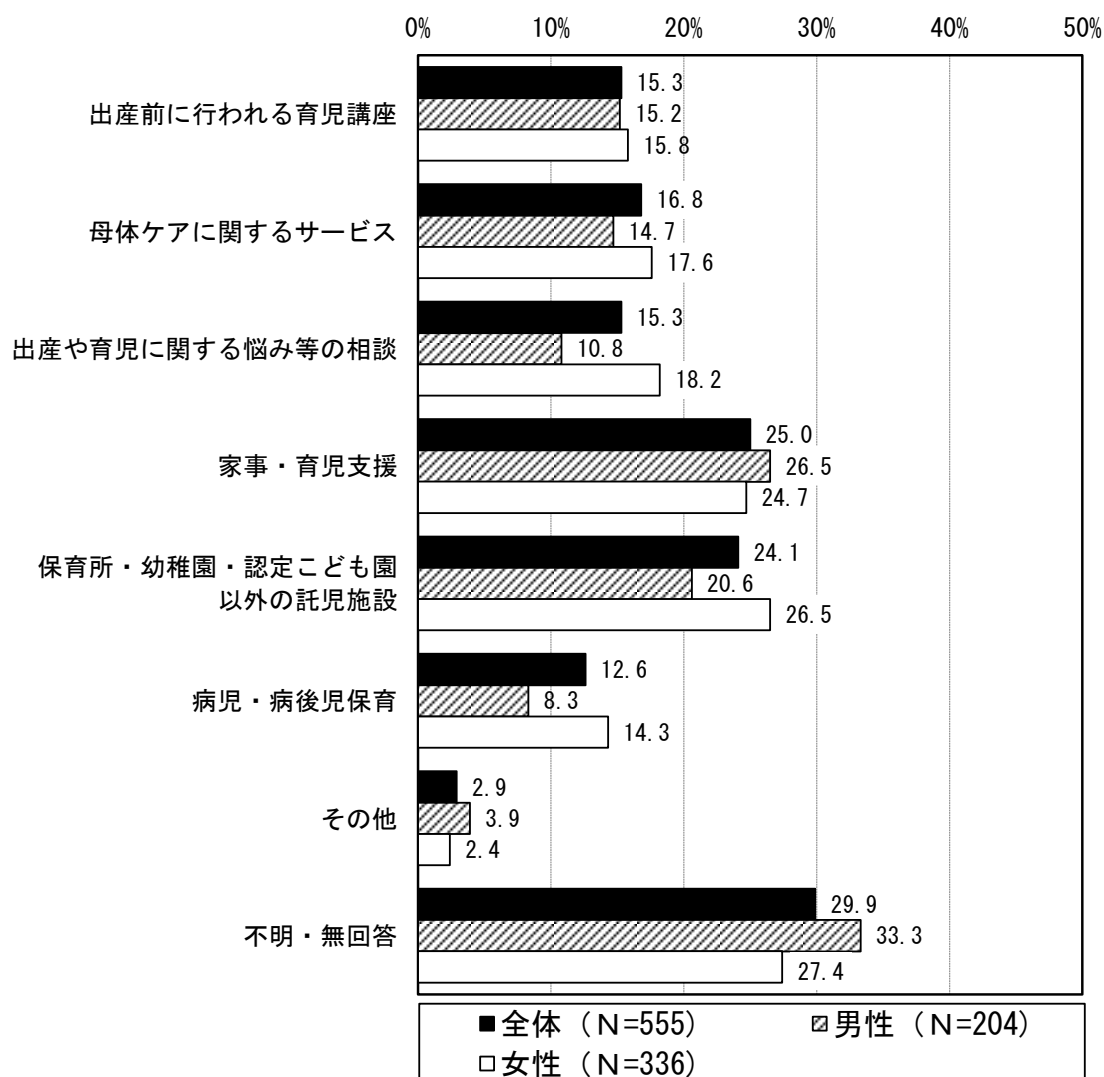


問 16 妊娠、出産、育児において、利用してみたい(利用してみたかった)サービス

家事・育児支援や託児施設が最も求められている。女性では悩み相談、既婚者では母体ケアサービスの割合も高い。

既婚者では「家事・育児支援」が25.0%と最も高く、次いで「保育所・幼稚園・認定こども園以外の託児施設」が24.1%となっています。

性別でみると、男性では「家事・育児支援」が、女性では「保育所・幼稚園・認定こども園以外の託児施設」が最も高くなっています。



年代別、地域別及び既婚・独身別でみると、いずれも「家事・育児支援」「保育所・幼稚園・認定こども園以外の託児施設」が上位となっています。

	出産前に行われる育児講座	母体ケアに関するサービス	出産や育児に関する悩み等の相談	家事・育児支援	保育所・幼稚園・認定こども園以外の託児施設	病児・病後児保育	その他	不明・無回答
【年代】								
10・20 歳代（N=217）	19.4	14.3	17.1	26.7	27.6	8.8	1.4	30.0
30・40 歳代（N=323）	13.0	18.0	14.2	24.5	22.0	14.2	4.0	29.4
【地域】								
関・武芸川（N=480）	16.0	16.5	15.8	25.6	25.2	12.3	2.5	28.8
板取・洞戸（N=18）	0.0	16.7	11.1	22.2	16.7	11.1	16.7	33.3
上之保・武儀（N=32）	12.5	15.6	15.6	31.3	15.6	9.4	3.1	34.4
【既婚・独身】								
既婚（N=310）	15.5	22.3	15.2	27.1	25.8	13.9	3.9	21.6
独身（N=234）	15.4	9.8	16.2	23.5	22.6	11.5	1.7	38.5

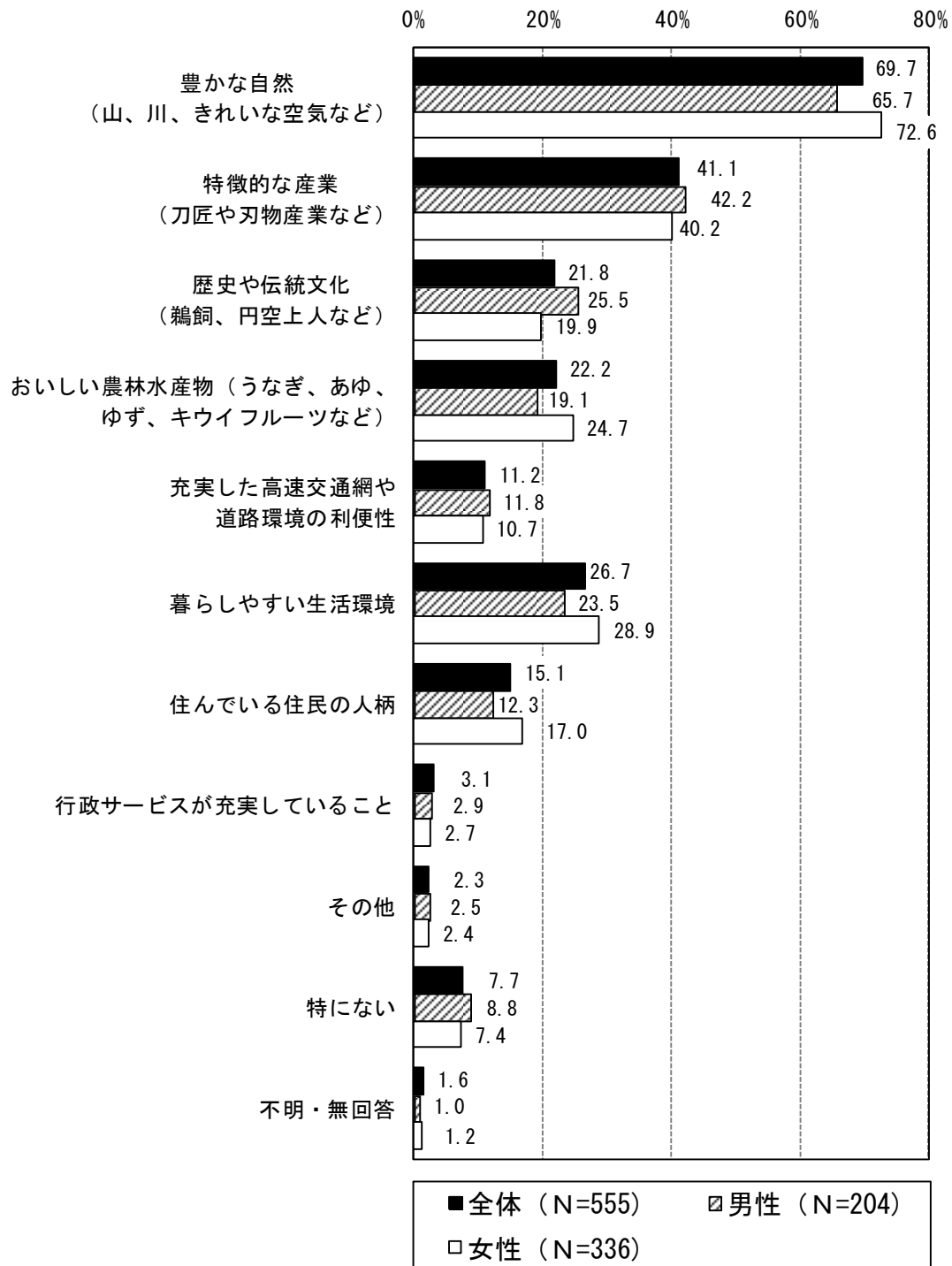
単位：％

(5) 関市について

問 17 関市の魅力だと思うこと

豊かな自然環境、特徴的な産業を関市の魅力と感じている人が多い。

「豊かな自然」が69.7%と最も高く、次いで「特徴的な産業」が41.1%となっています。
性別でみると、男性、女性ともに「豊かな自然」が最も高くなっています。



年代別、地域別及び既婚・独身別でみると、いずれも「豊かな自然」「特徴的な産業」が上位となっています。

	豊かな自然（山、川、きれいな空気など）	特徴的な産業（刀匠や刃物産業など）	歴史や伝統文化（鵜飼、円空上人など）	おいしい農林水産物（うなぎ、あゆ、ゆず、キウイフルーツなど）	充実した高速交通網や道路環境の利便性	暮らしやすい生活環境	住んでいる住民の人柄	行政サービスが充実していること	その他	特にない	不明・無回答
【年代】											
10・20 歳代（N=217）	73.7	44.2	24.4	24.0	9.7	25.8	17.1	1.4	2.3	4.6	1.4
30・40 歳代（N=323）	67.5	38.7	20.4	21.7	12.1	27.6	13.9	3.7	2.5	10.2	0.9
【地域】											
関・武芸川（N=480）	69.6	41.7	22.9	23.1	11.3	27.5	14.8	3.1	2.3	7.7	0.8
板取・洞戸（N=18）	88.9	22.2	27.8	33.3	5.6	16.7	27.8	0.0	0.0	5.6	0.0
上之保・武儀（N=32）	68.8	46.9	12.5	15.6	9.4	21.9	9.4	0.0	3.1	15.6	0.0
【既婚・独身】											
既婚（N=310）	68.4	38.4	19.4	21.6	11.0	27.7	16.1	4.2	2.9	9.4	0.6
独身（N=234）	72.6	44.9	25.6	23.1	11.5	26.1	14.5	1.7	1.7	5.6	1.7

単位：％

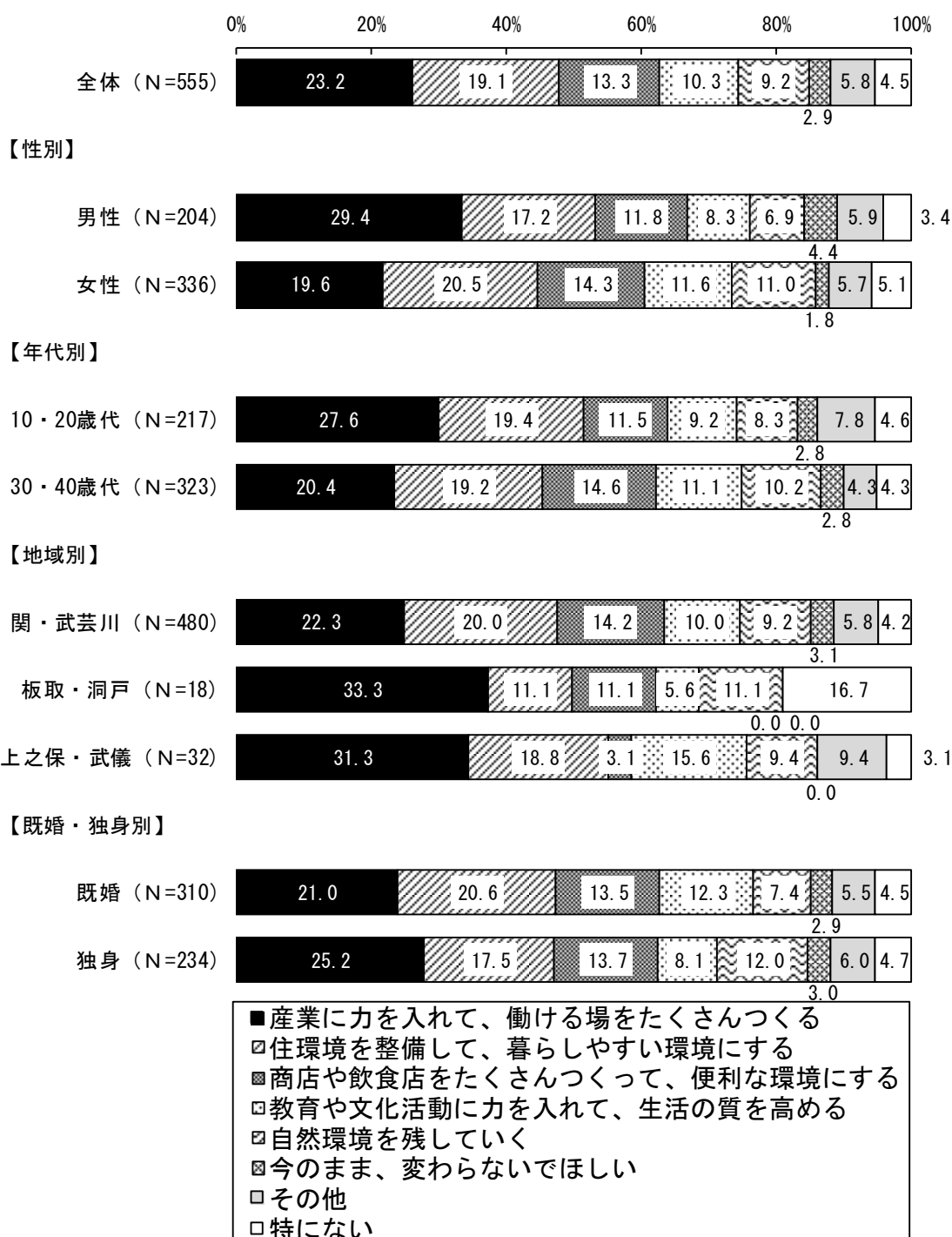
問 18 関市が進む方向性として、特に力を入れた方がいいと思うこと

産業振興、住環境の整備が多くの方若年者に求められている。

「産業に力を入れて、働ける場をたくさんつくる」が23.2%と最も高く、次いで「住環境を整備して、暮らしやすい環境にする」が19.1%となっています。

性別でみると、男性では「産業に力を入れて、働ける場をたくさんつくる」が、女性では「住環境を整備して、暮らしやすい環境にする」が最も高くなっています。

地域別でみると、他の地域に比べて関・武芸川地域では「商店や飲食店をたくさんつくって、便利な環境にする」が、上之保・武儀地域では「教育や文化活動に力を入れて、生活の質を高める」が高くなっています。

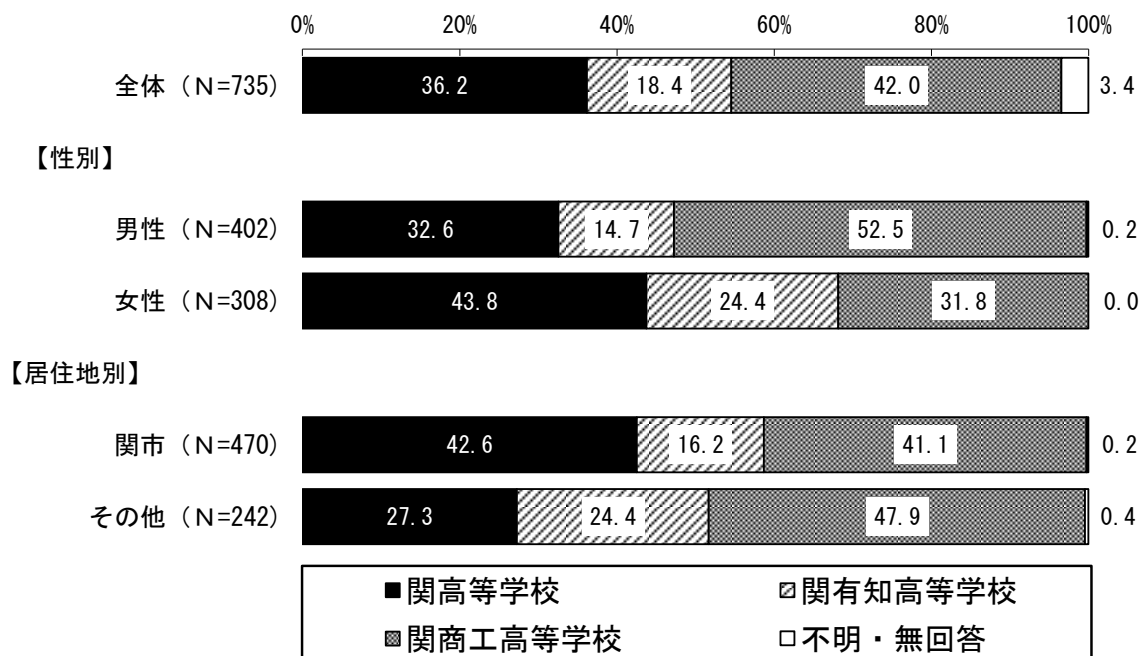


3 高校生調査 調査結果

(1) 回答者の属性

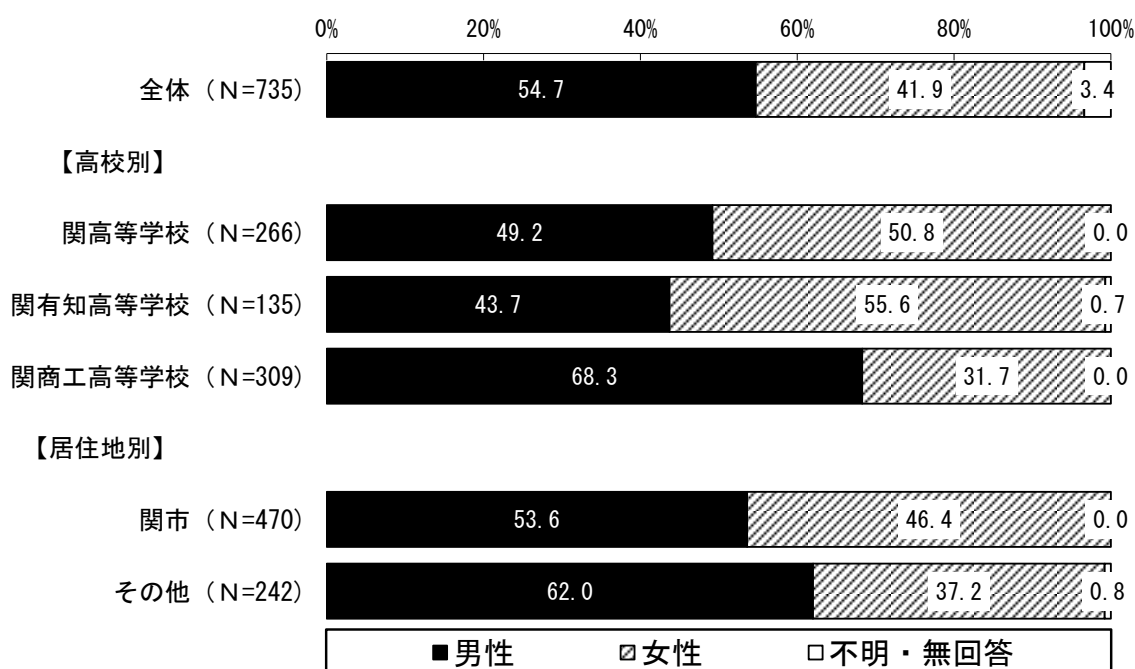
問1 通っている高校

「関高等学校」が 36.2%、「関有知高等学校」が 18.4%、「関商工高等学校」が 42.0%となっています。



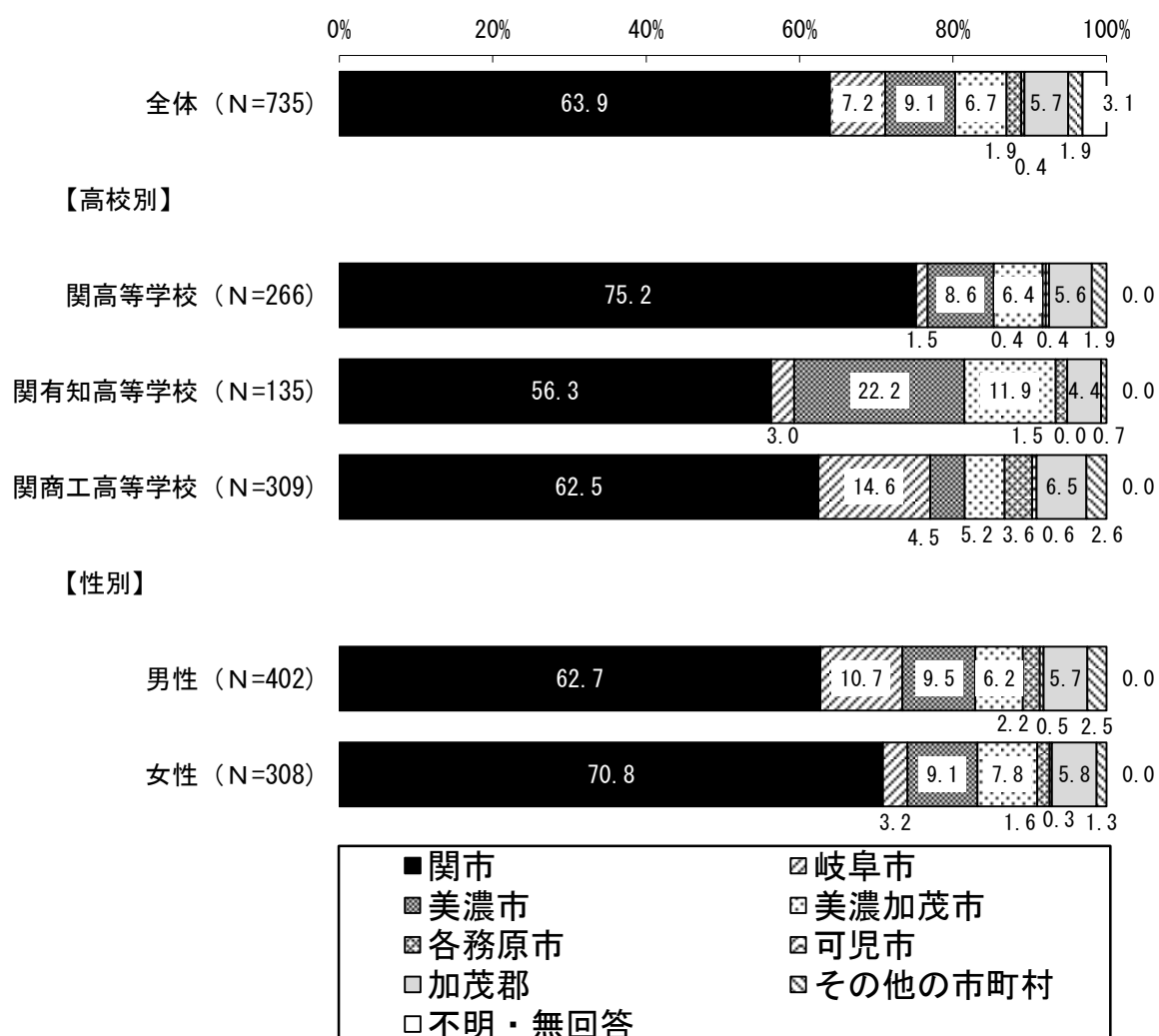
問2 性別

「男性」が 54.7%、「女性」が 41.9%となっています。高校別でみると、関商工高等学校では男性が 68.3%と高くなっています。



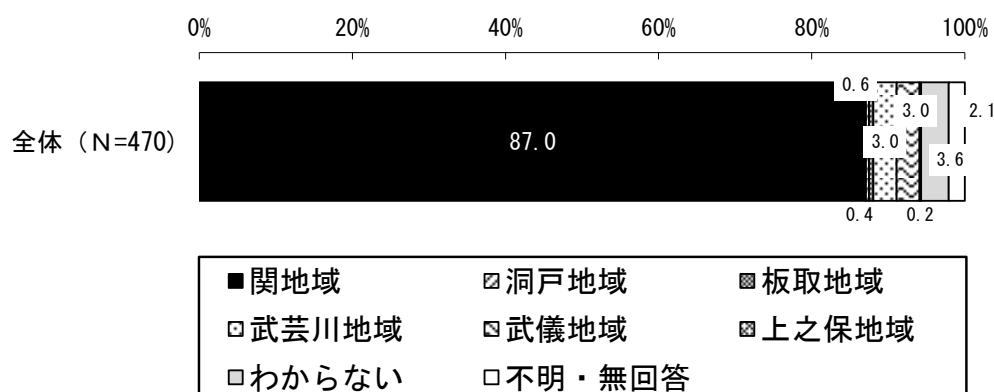
問3 居住地

「関市」が63.9%と最も高く、次いで「美濃市」が9.1%、「岐阜市」が7.2%となっています。
高校別でみると、関高等学校では「関市」が75.2%と高くなっています。



問3-1 関市内の居住地

関市に住んでいる人の市内の居住地は、「関地域」が87.0%と最も高く、「武芸川地域」「武儀地域」がそれぞれ3.0%となっています。



(2)進路について

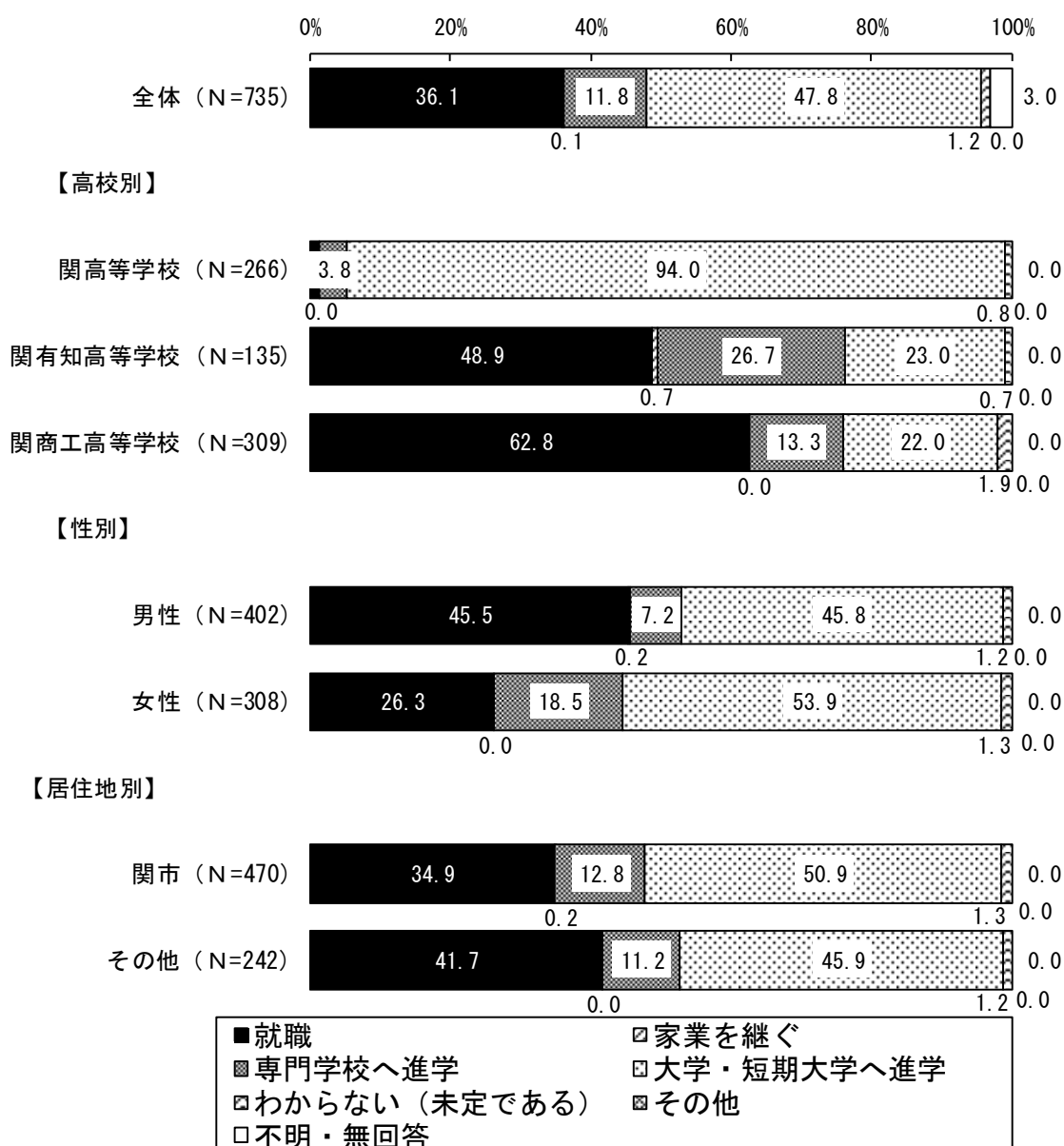
問4 卒業後に希望する進路

約半数の高校生が大学・短期大学へ進学する意向を持っている。

「大学・短期大学へ進学」が47.8%と最も高く、次いで「就職」が36.1%となっています。

高校別でみると、関高等学校では「大学・短期大学へ進学」が、関有知高等学校と関商工高等学校では「就職」が最も高くなっています。

性別でみると、男性、女性ともに「大学・短期大学へ進学」が最も高く、次いで「就職」となっていますが、男性の「就職」は女性より19.2ポイント高くなっています。



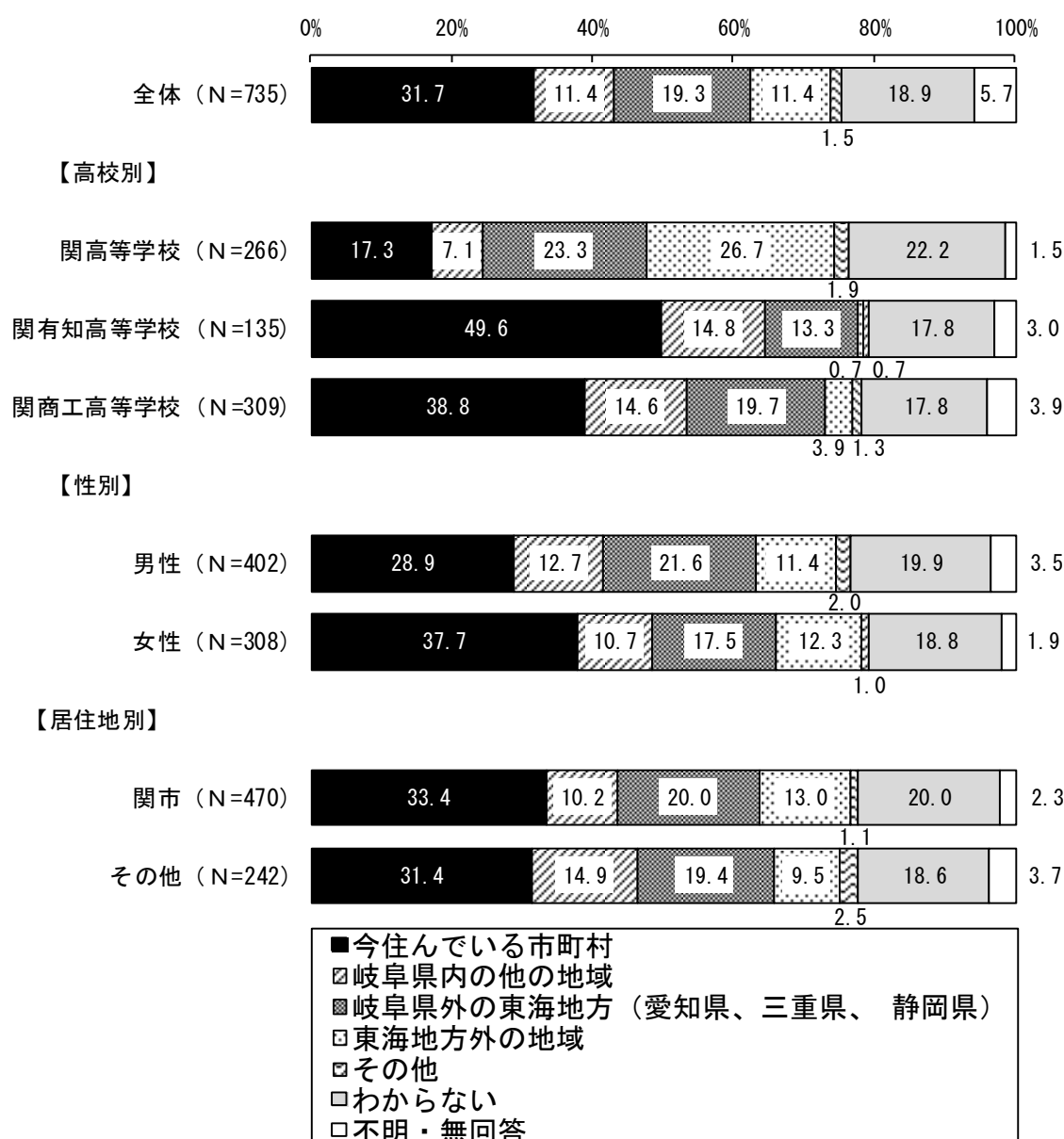
問5 「問4」で回答した進路に進む場合に住む予定の地域

卒業後、関市の高校生の約3割が地元にとどまる。また、約6割が比較的近隣の東海地方で暮らす意向を持っている。

「今住んでいる市町村」が31.7%と最も高く、次いで「岐阜県外の東海地方（愛知県、三重県、静岡県）」が19.3%、「わからない」が18.9%となっています。

高校別でみると、関高等学校では「東海地方外の地域」が、関有知高等学校と関商工高等学校では「今住んでいる市町村」がそれぞれ最も高くなっています。

居住地別でみると、関市に居住する高校生の33.4%が「今住んでいる市町村」と回答しています。



問5－1 今住んでいる市町村を出る理由

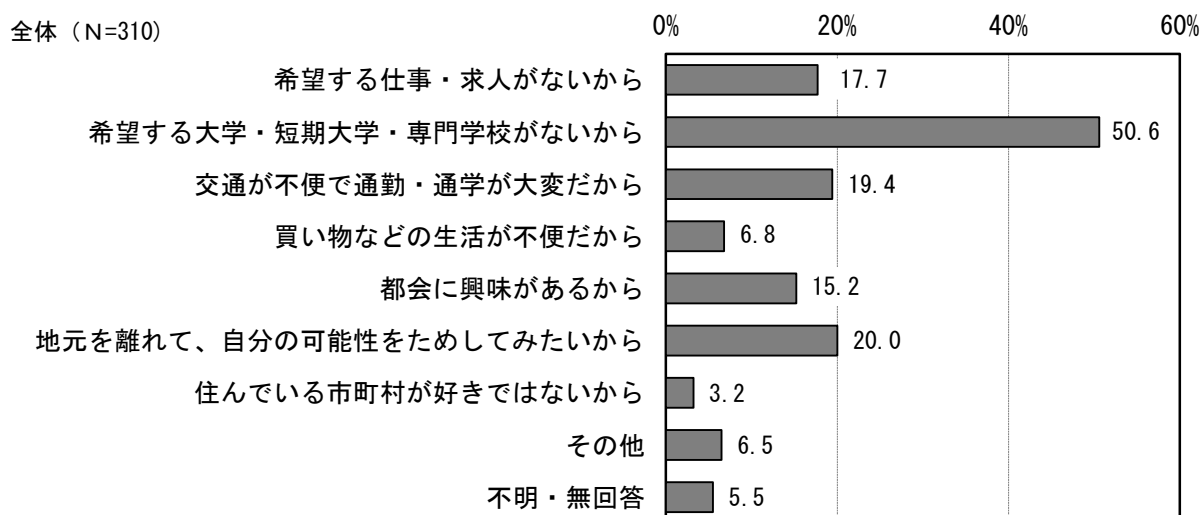
※問5で「2 岐阜県内の他の地域」「3 岐阜県外の東海地方」「4 東海地方外の地域」のいずれかを選んだ方への質問

進学先の選択肢を求めて市外に出る高校生が多い。

「希望する大学・短期大学・専門学校がないから」が50.6%と最も高くなっています。

高校別でみると、関高等学校と関有知高等学校では「希望する大学・短期大学・専門学校がないから」が、関商工高等学校では「希望する仕事・求人がないから」がそれぞれ最も高くなっています。

居住地別でみると、関市では「希望する大学・短期大学・専門学校がないから」が最も高く、次いで「地元を離れて、自分の可能性をためてみたいから」となっています。



	希望する仕事・求人がないから	希望する大学・短期大学・専門学校がないから	交通が不便で通勤・通学が大変だから	買い物などの生活が不便だから	都会に興味があるから	地元を離れて、自分の可能性をためてみたいから	住んでいる市町村が好きではないから	その他	不明・無回答
【高校別】									
関高等学校（N=152）	3.3	71.1	24.3	9.2	21.7	25.7	4.6	1.3	4.6
関有知高等学校（N=39）	17.9	38.5	12.8	0.0	7.7	15.4	0.0	7.7	15.4
関商工高等学校（N=118）	36.4	28.8	15.3	5.9	9.3	13.6	2.5	12.7	3.4
【性別別】									
男性（N=184）	23.4	42.9	19.6	5.4	16.8	21.2	3.3	6.5	3.3
女性（N=125）	9.6	62.4	19.2	8.8	12.8	17.6	3.2	6.4	8.8
【居住地別】									
関市（N=203）	18.2	53.7	18.7	7.9	18.2	22.2	4.4	4.9	3.9
その他（N=106）	17.0	45.3	20.8	4.7	9.4	15.1	0.9	9.4	8.5

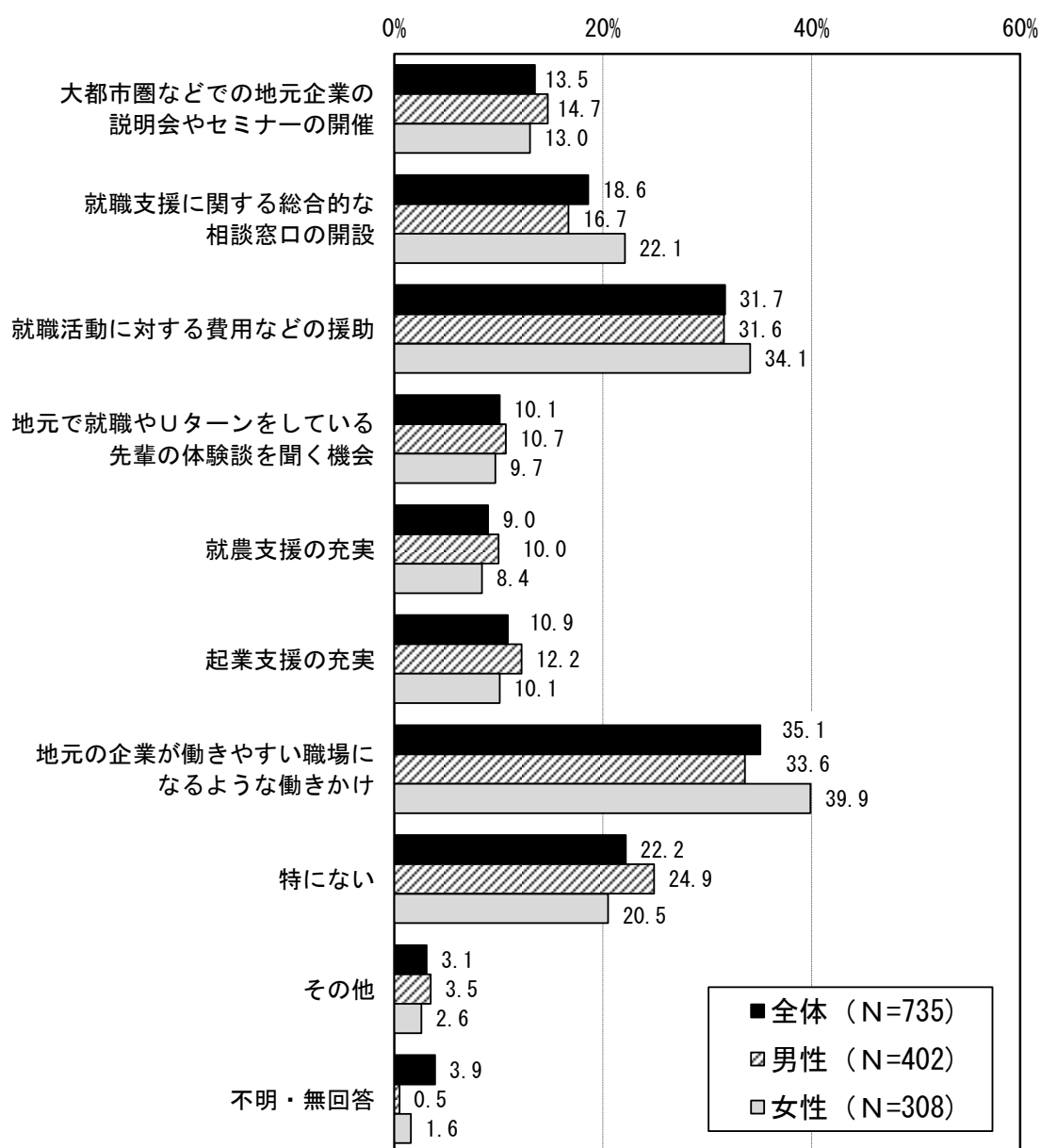
単位：％

問6 地元で働いたり、Uターンしてくるために必要な支援

地元で働き、暮らすために最も求められているのは「働きやすい職場」。

「地元の企業が働きやすい職場になるような働きかけ」が35.1%と最も高く、次いで「就職活動に対する費用などの援助」が31.7%となっています。

性別でみると、女性では男性に比べて「地元の企業が働きやすい職場になるような働きかけ」が高くなっています。

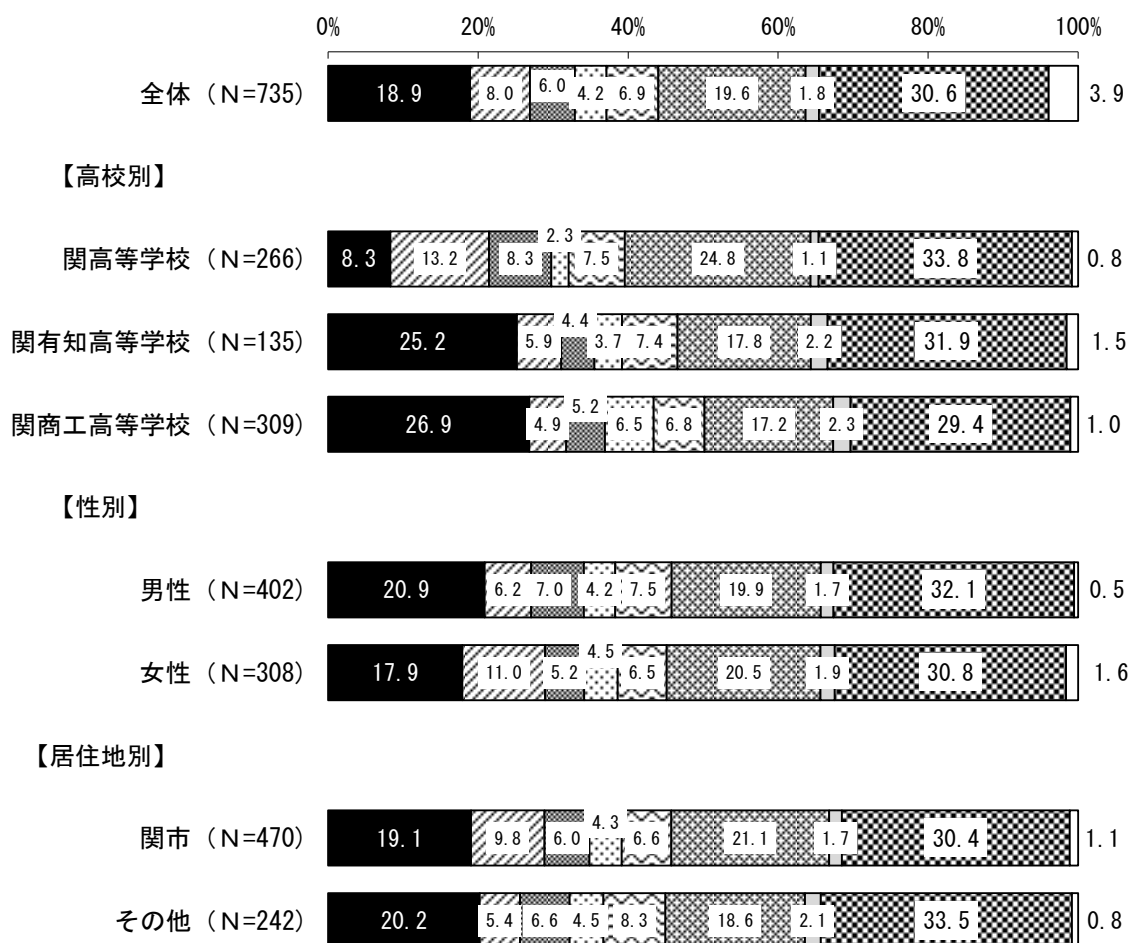


問7 将来、定住する場所の考え

関市の高校生の19.1%がずっと今の地域で暮らしたい、26.7%がいつかは地域に戻りたいと考えている。

「わからない」が30.6%と最も高く、次いで「他の地域に移り住みたい」が19.6%、「ずっと、今住んでいる地域で暮らしていきたい」が18.9%となっています。

居住地別でみると、関市では、ずっと地域で暮らしたい人、就職、結婚、子どもを持つ時、老後のいずれかの段階で地域に戻りたいとする割合はあわせて45.8%となっています。



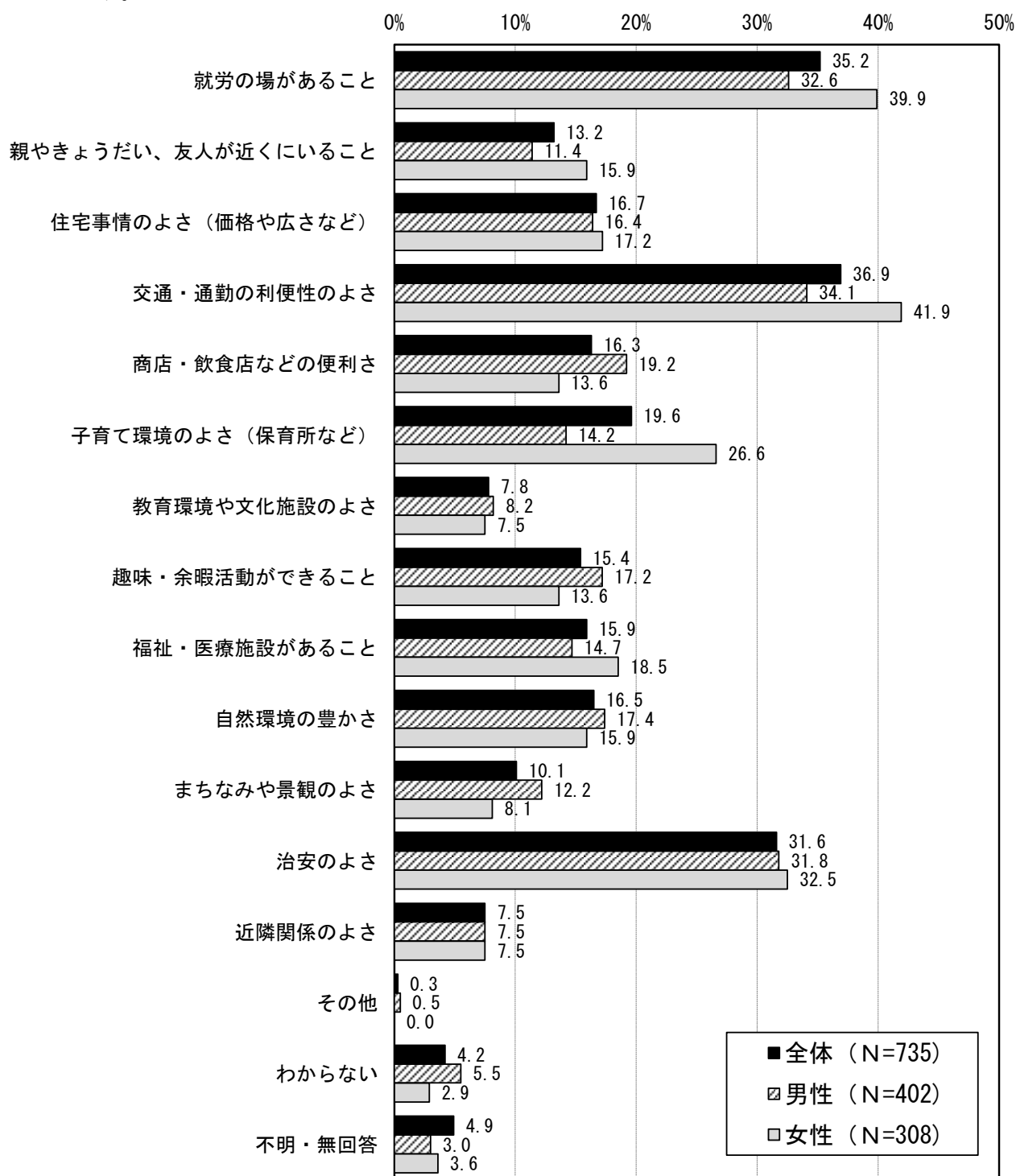
- ずっと、今住んでいる地域で暮らしていきたい
- ▣ 進学で一度今の地域を離れても、就職の時に戻ってきたい
- ▤ 進学や就職のために今の地域を離れても、結婚する時に戻ってきたい
- ▥ 進学や就職のために今の地域を離れても、子どもを持つ時に戻ってきたい
- ▧ 定年退職後など、老後に今の地域に戻ってきたい
- ▨ 他の地域に移り住みたい
- その他
- ▩ わからない
- 不明・無回答

問8 将来、定住する場所に求めたいもの

地元で働き、暮らすために最も求められているのは「職場」「交通の便利さ」「治安」。

「交通・通勤の利便性のよさ」が36.9%と最も高く、次いで「就労の場があること」が35.2%、「治安のよさ」が31.6%となっています。

性別でみると、女性では男性に比べて「交通・通勤の利便性のよさ」「子育て環境のよさ」が高くなっています。



高校別及び居住地別でみると、「交通・通勤の利便性のよさ」が最も高く、次いで「就労の場があること」となっています。

	就労の場があること	親やきょうだい、友人が近くにすること	住宅事情のよさ（価格や広さなど）	交通・通勤の利便性のよさ	商店・飲食店などの便利さ	子育て環境のよさ（保育所など）	教育環境や文化施設のよさ	趣味・余暇活動ができること	福祉・医療施設があること	自然環境の豊かさ	まちなみや景観のよさ	治安のよさ	近隣関係のよさ
【高校別】													
関高等学校（N=266）	39.5	12.8	16.9	41.7	13.5	19.9	12.0	14.3	18.4	15.0	11.7	37.6	7.9
関有知高等学校（N=135）	37.0	11.9	17.0	39.3	16.3	20.7	3.0	19.3	14.1	14.1	9.6	22.2	9.6
関商工高等学校（N=309）	32.0	14.9	16.5	33.0	19.7	18.8	6.8	15.2	15.5	19.4	9.4	31.7	6.1
【居住地別】													
関市（N=470）	36.4	14.0	16.6	37.2	15.5	18.7	8.1	17.9	14.7	17.4	12.2	31.8	7.5
その他（N=242）	34.3	12.4	17.4	37.6	19.0	21.5	7.9	11.6	18.5	15.9	8.1	32.5	7.5

単位：％

	その他	わからない	不明・無回答
【高校別】			
関高等学校（N=266）	0.0	3	3.4
関有知高等学校（N=135）	0.7	7.4	1.5
関商工高等学校（N=309）	0.3	4.2	3.9
【居住地別】			
関市（N=470）	0.5	5.5	3.0
その他（N=242）	0.0	2.9	3.6

単位：％

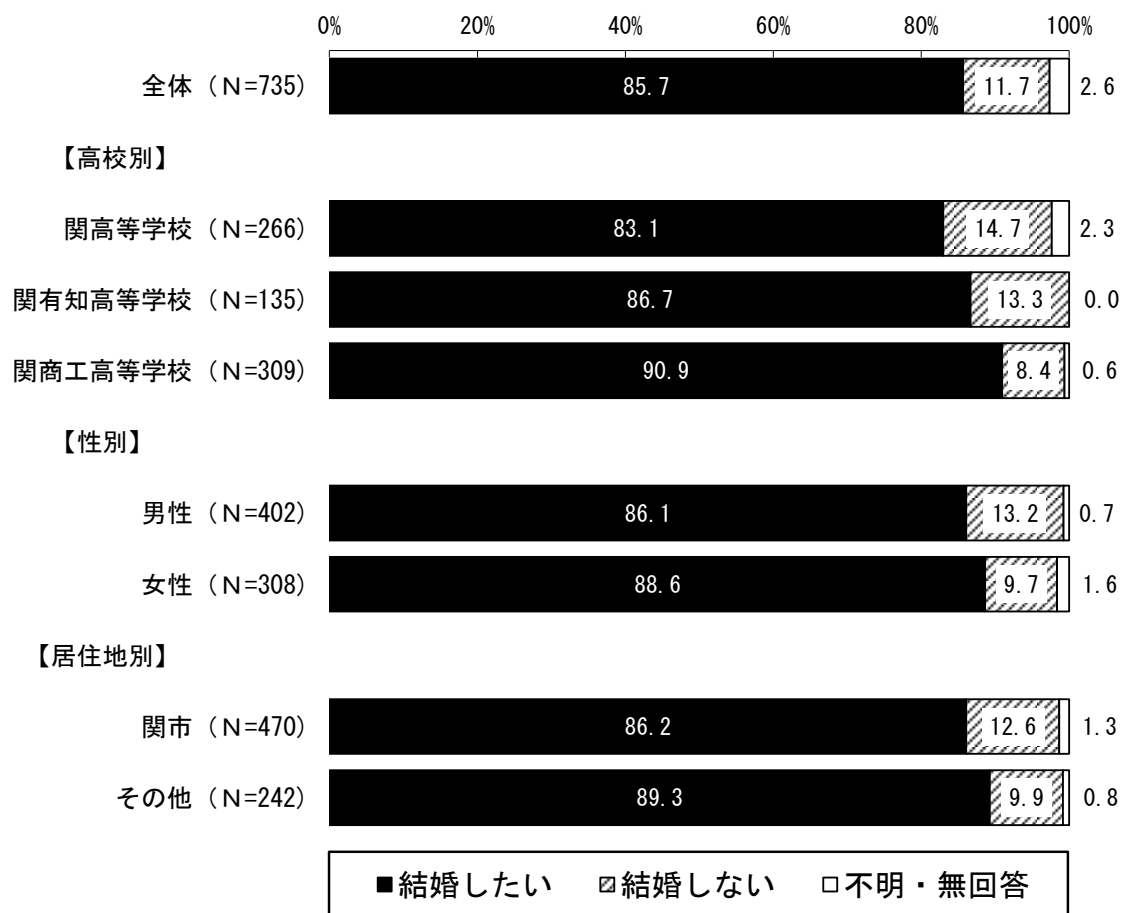
(3)結婚・子育てについて

問9 将来、結婚したいか

高校生の85.7%が将来、結婚を希望している。

「結婚したい」が85.7%、「結婚しない」が11.7%となっています。

高校別、性別及び居住地別でみると、いずれも「結婚したい」が8割を超えています。

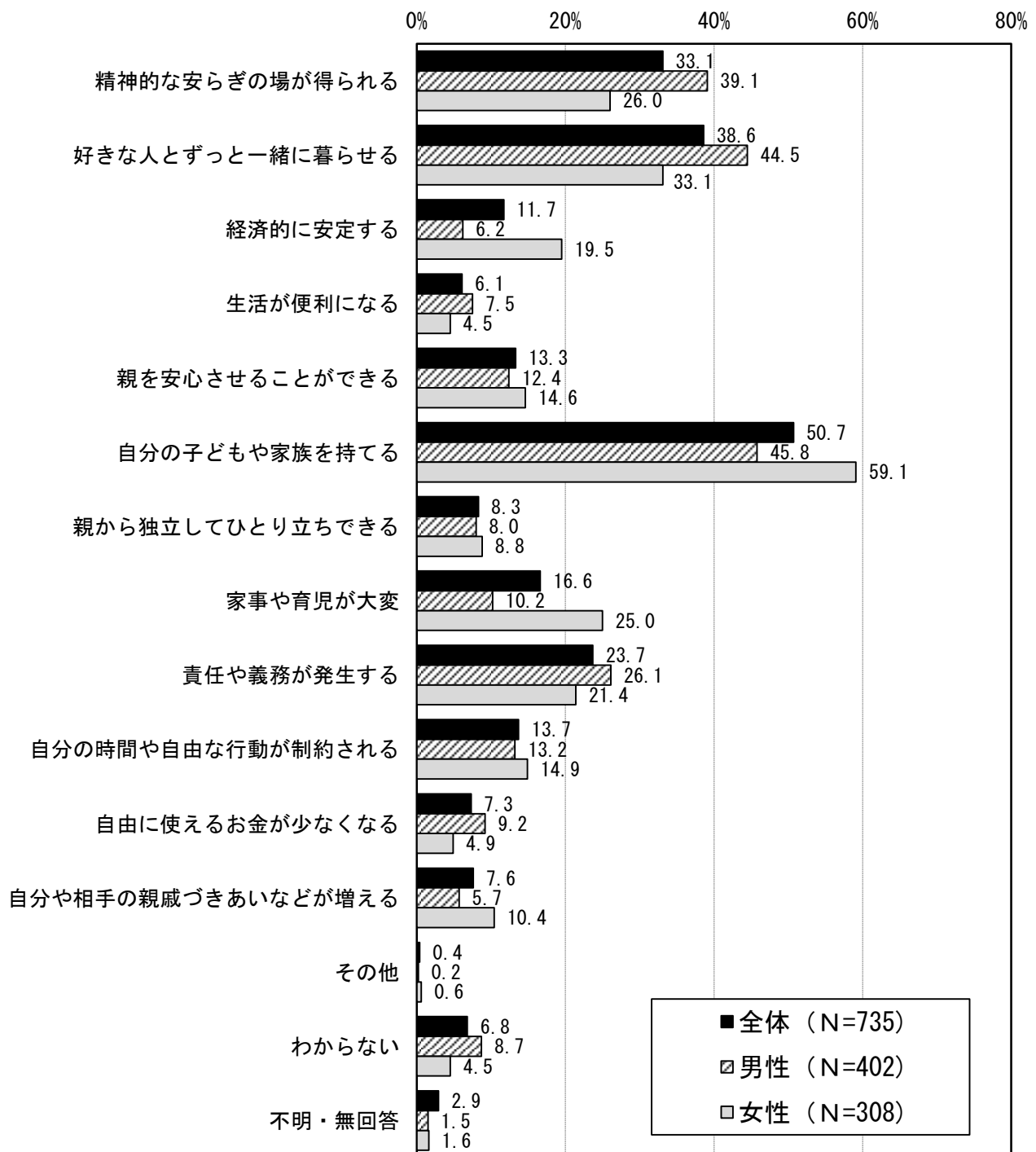


問 10 「結婚」をどのように考えているか

結婚に対して前向きな意識を持っている高校生が多い。

「自分の子どもや家族を持てる」が50.7%と最も高く、次いで「好きな人とずっと一緒に暮らせる」が38.6%、「精神的な安らぎの場が得られる」が33.1%となっています。

性別でみると、男女ともに「自分の子どもや家族を持てる」が最も高くなっていますが、女性に比べて男性で「好きな人とずっと一緒に暮らせる」「精神的な安らぎの場が得られる」が高く、女性では男性に比べて「経済的に安定する」「家事や育児が大変」が高くなっています



高校別、居住地別でみると、いずれも「自分の子どもや家族を持てる」が最も高く、「好きな人とずっと一緒に暮らせる」「精神的な安らぎの場が得られる」が上位となっています。

	精神的な安らぎの場が得られる	好きな人とずっと一緒に暮らせる	経済的に安定する	生活が便利になる	親を安心させることができる	自分の子どもや家族を持てる	親から独立してひとり立ちできる	家事や育児が大変	責任や義務が発生する	自分の時間や自由な行動が制約される	自由に使えるお金が少なくなる	自分や相手の親戚づきあいが増える
【高校別】												
関高等学校（N=266）	34.2	33.8	15.0	6.8	12.8	54.1	7.1	13.5	27.4	15.0	6.4	9.0
関有知高等学校（N=135）	28.1	34.8	15.6	4.4	14.1	43.7	9.6	19.3	20.7	17.8	8.1	8.1
関商工高等学校（N=309）	35.0	46.3	7.4	6.5	13.6	52.8	8.7	18.4	23.0	11.3	7.8	6.5
【居住地別】												
関市（N=470）	34.3	36.6	12.3	5.7	13.2	50.6	9.8	16.4	24.5	14.7	7.4	8.7
その他（N=242）	32.2	45.5	11.2	7.0	13.6	53.3	5.4	17.4	23.6	12.4	7.0	5.8

単位：％

	その他	わからない	不明・無回答
【高校別】			
関高等学校（N=266）	0.4	6.4	1.9
関有知高等学校（N=135）	0.7	14.8	1.5
関商工高等学校（N=309）	0.3	3.9	1.3
【居住地別】			
関市（N=470）	0.4	6.6	1.3
その他（N=242）	0.4	7.4	2.1

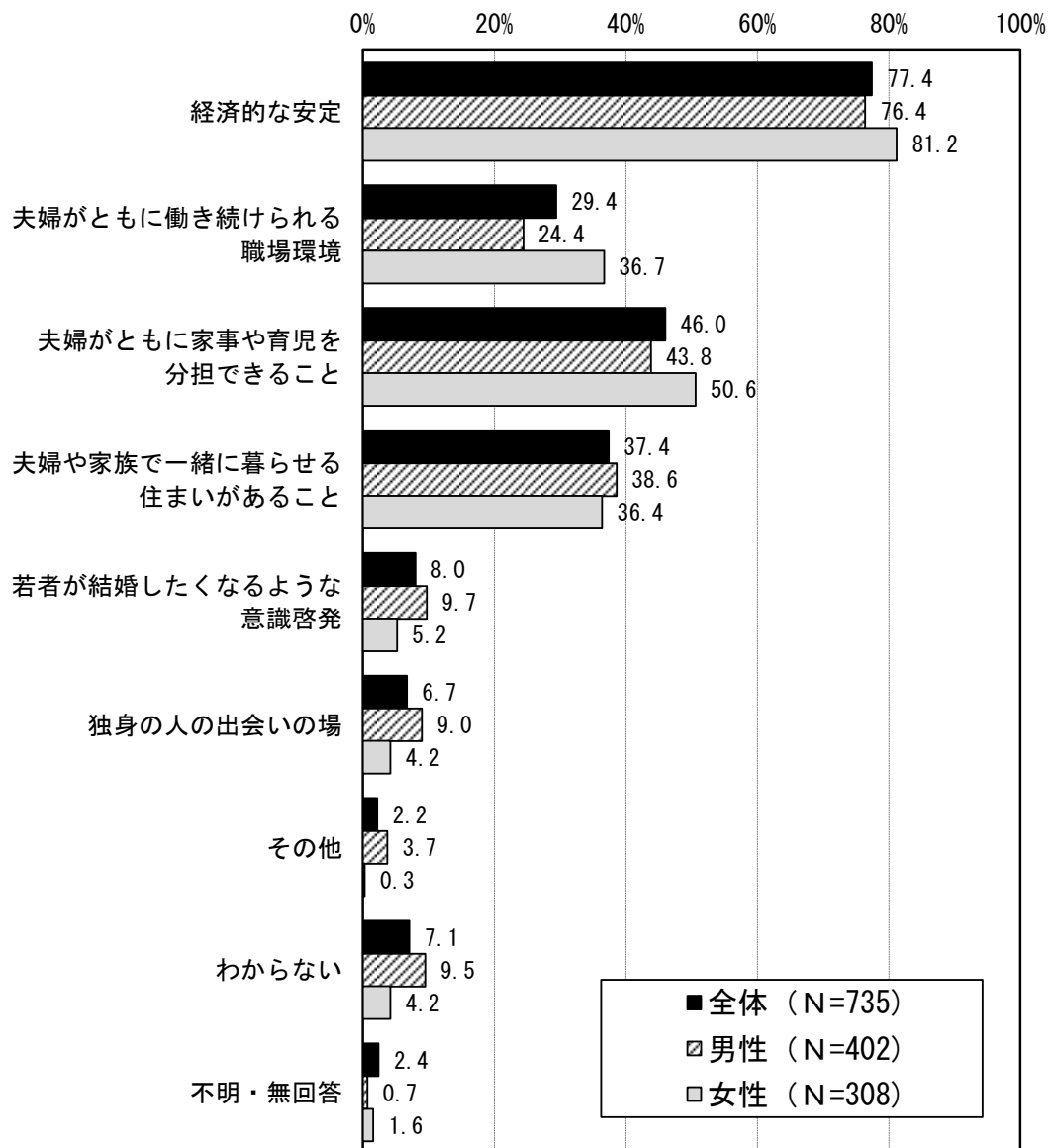
単位：％

問 11 結婚するために必要な条件は何だと思うか

結婚には「経済的な基盤」と「家庭での夫婦の協力」が大切だと認識されている。

「経済的な安定」が 77.4%と最も高く、次いで「夫婦がともに家事や育児を分担できること」が 46.0%、「夫婦や家族と一緒に暮らせる住まいがあること」が 37.4%となっています。

性別でみると、男女ともに「経済的な安定」が最も高く、次いで「夫婦がともに家事や育児を分担できること」となっています。女性では男性に比べて「夫婦がともに働き続けられる職場環境」が高くなっています。



高校別及び居住地別でみると、いずれも「経済的な安定」が最も高く、次いで「夫婦がともに家事や育児を分担できること」となっています。

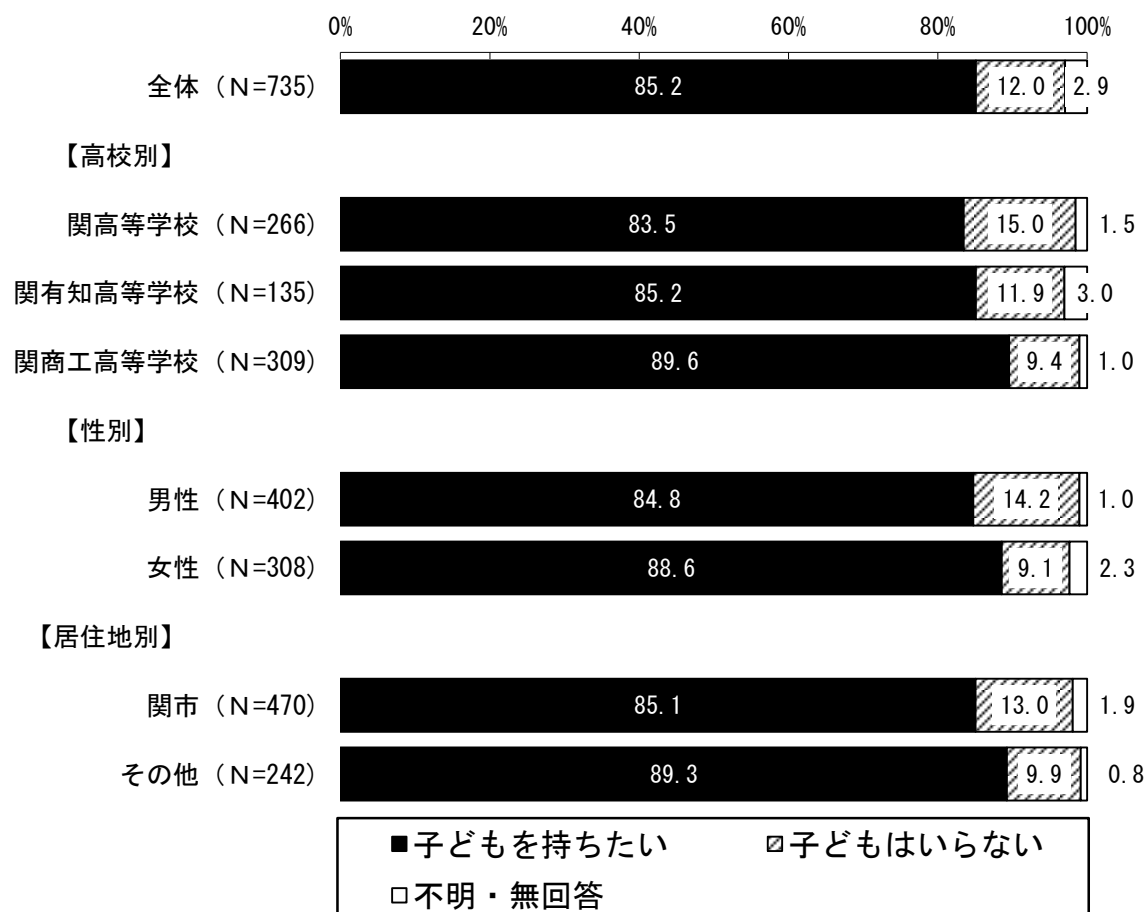
	経済的な安定	夫婦がともに働き続けられる職場環境	夫婦がともに家事や育児を分担できること	夫婦や家族と一緒に暮らせる住まいがあること	若者が結婚したくなるような意識啓発	独身の人の出会いの場	その他	わからない	不明・無回答
【高校別】									
関高等学校（N=266）	78.9	29.3	44.7	36.8	9.0	5.6	3.0	6.8	1.1
関有知高等学校（N=135）	79.3	22.2	45.9	40.0	5.9	3.7	0.7	14.1	0.0
関商工高等学校（N=309）	78.0	33.3	48.9	37.5	7.4	9.4	2.3	4.5	1.6
【居住地別】									
関市（N=470）	77.9	33.0	47.9	34.9	8.1	5.7	2.6	6.2	1.1
その他（N=242）	79.8	23.6	44.2	43.0	7.4	9.1	1.7	9.1	1.2

単位：％

問 12 将来、子どもを持ちたいと思うか

高校生の 85.2%が子どもを持ちたいと思っている。

「子どもを持ちたい」が 85.2%、「子どもはいらない」が 12.0%となっています。
 高校別、性別及び居住地別でみると、いずれも「子どもを持ちたい」が 8 割を超えています。



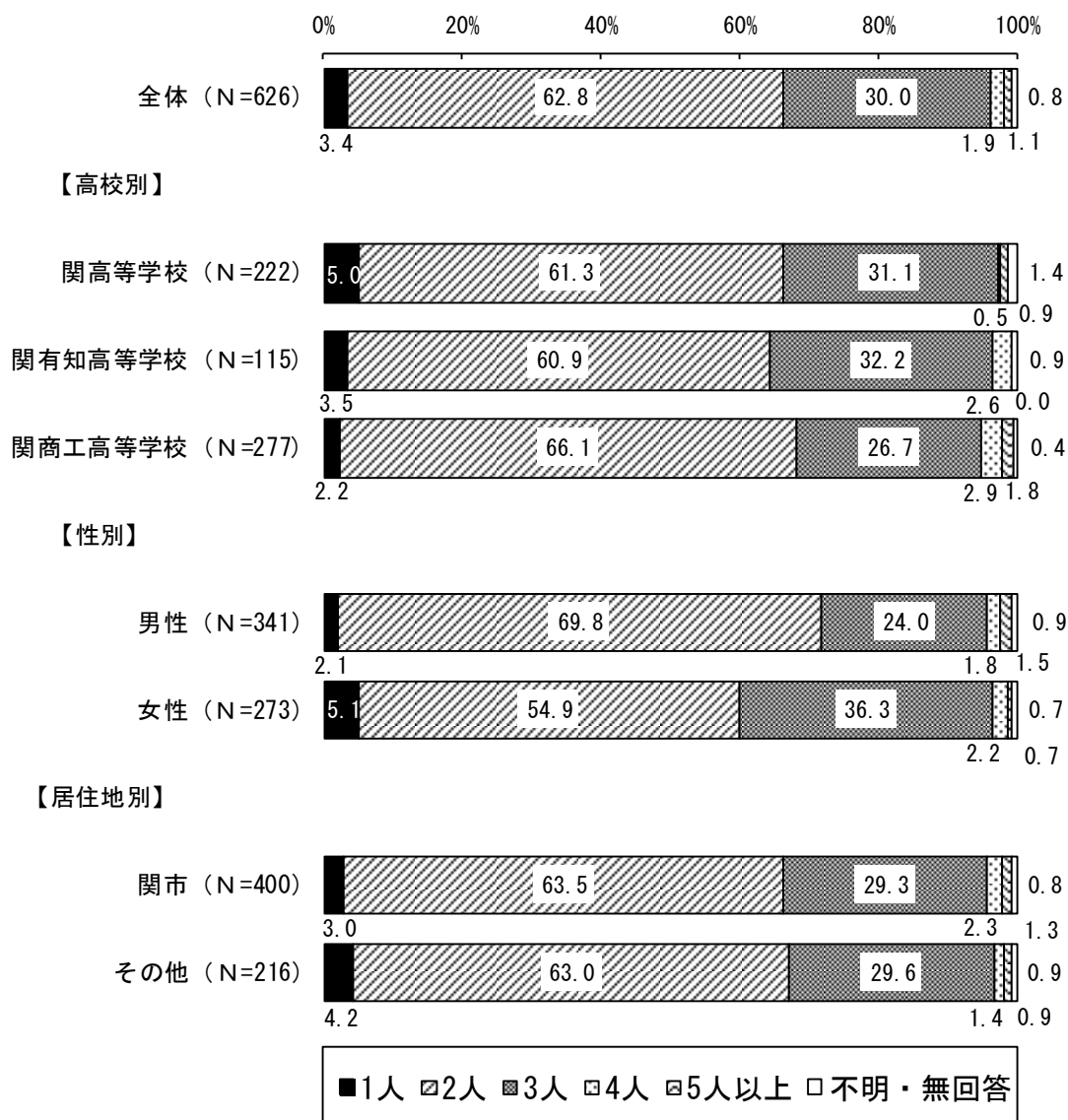
問 12－1 理想的な子どもの数

※問 12 で「1 子どもを持ちたい」を選んだ方への質問

理想の子どもの人数は平均 2.4 人。

「2 人」が 62.8%と最も高く、次いで「3 人」が 30.0 となっています。

性別でみると、男性よりも女性で「3 人」が高く、子どもを多く持つ意向を持っています。

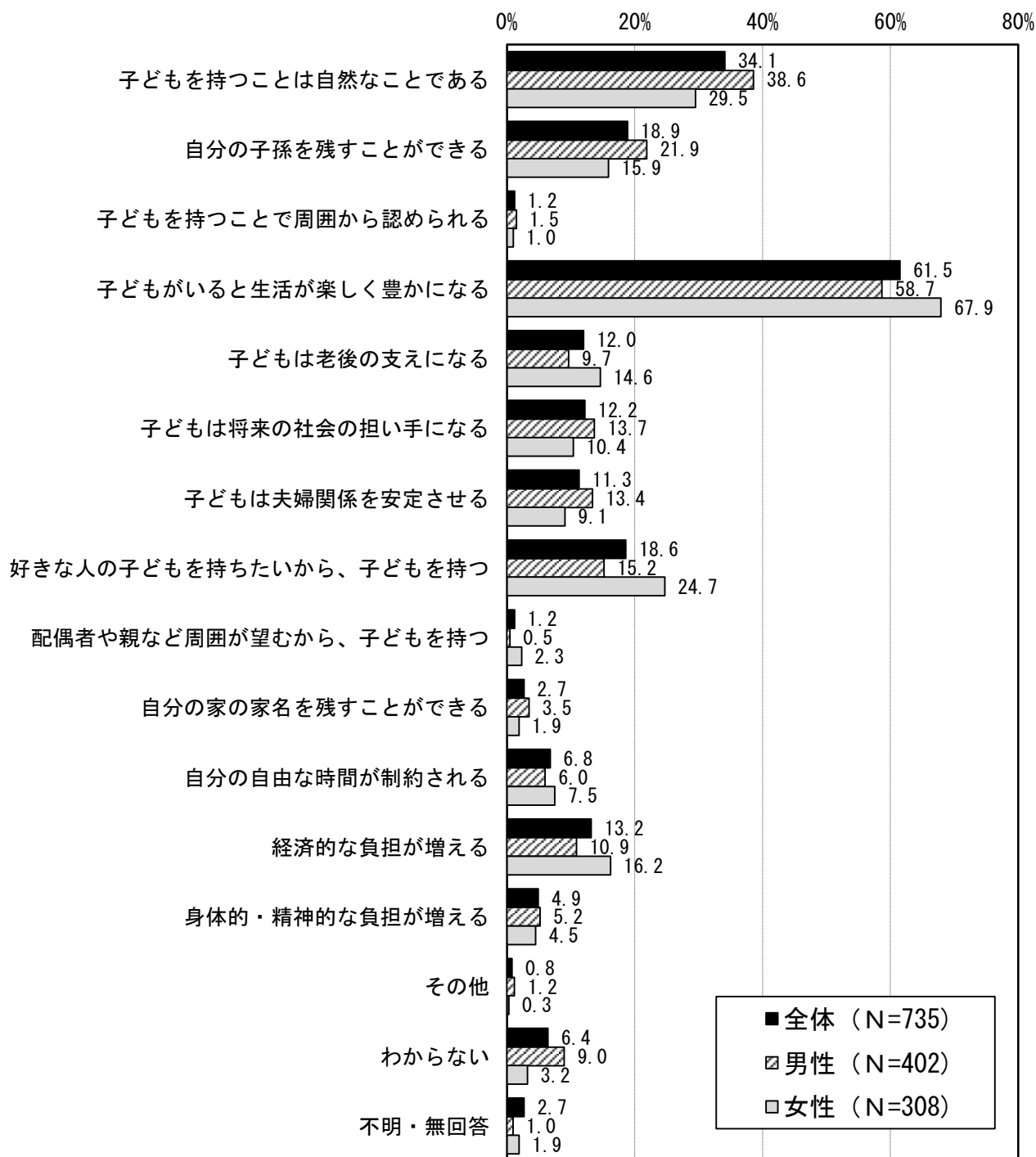


問 13 「子どもを持つこと」をどのように考えるか

子どもを持つことを前向きにとらえている高校生が多い。

「子どもがいると生活が楽しく豊かになる」が61.5%と最も高く、次いで「子どもを持つことは自然なことである」が34.1%となっています。

性別でみると、男女ともに「子どもがいると生活が楽しく豊かになる」が最も高く、次いで「子どもを持つことは自然なことである」となっています。



高校別及び居住地別でみると、いずれも「子どもがいると生活が楽しく豊かになる」が最も高く、次いで「子どもを持つことは自然なことである」となっています。

	子どもを持つことは自然なことである	自分の子孫を残すことができる	子どもを持つことで周囲から認められる	子どもがいると生活が楽しく豊かになる	子どもは老後の支えになる	子どもは将来の社会の担い手になる	子どもは夫婦関係を安定させる	好きな人の子どもを持ちたいから、子どもを持つ	配偶者や親など周囲が望むから、子どもを持つ	自分の家の家名を残すことができる	自分の自由な時間が制約される	経済的な負担が増える	身体的・精神的な負担が増える
【高校別】													
関高等学校（N=266）	38.7	16.9	1.5	63.2	14.3	14.3	8.3	17.3	0.8	2.3	5.6	14.7	6.8
関有知高等学校（N=135）	26.7	17.0	1.5	55.6	14.1	8.9	11.9	21.5	0.7	3.7	11.1	14.8	5.2
関商工高等学校（N=309）	34.3	22.3	1.0	65.4	9.1	12.0	14.2	20.1	1.9	2.9	5.8	11.7	3.2
【居住地別】													
関市（N=470）	34.5	19.4	1.5	63.4	13.6	11.9	11.9	18.5	1.3	2.8	7.0	13.4	5.1
その他（N=242）	35.1	19.0	0.8	61.2	8.7	12.8	10.7	20.7	1.2	2.9	6.2	13.2	4.5

単位：％

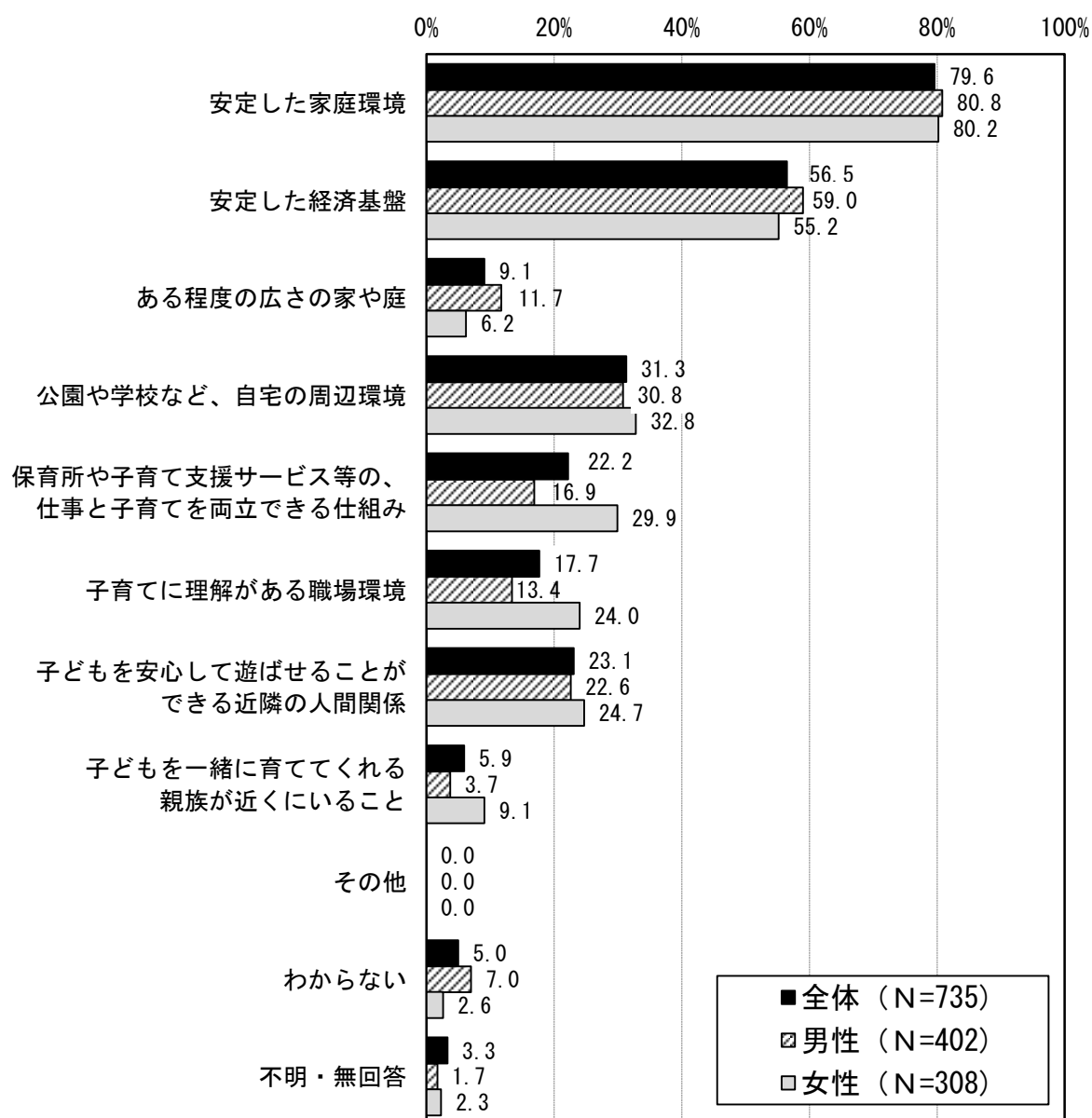
	その他	わからない	不明・無回答
【高校別】			
関高等学校（N=266）	1.1	5.3	1.5
関有知高等学校（N=135）	0.0	14.8	2.2
関商工高等学校（N=309）	1.0	3.9	1.0
【居住地別】			
関市（N=470）	0.9	4.9	1.3
その他（N=242）	0.8	9.5	1.7

単位：％

問 14 子どもが育つために特に必要なもの

子育てには家庭環境と経済基盤が必要だと考える高校生が多い。女性は仕事との両立に関する事項をあげる割合が男性よりも高い。

「安定した家庭環境」が79.6%と最も高く、次いで「安定した経済基盤」が56.5%となっています。
性別でみると、男女ともに「安定した家庭環境」「安定した経済基盤」が高くなっていますが、女性では男性に比べて「保育所や子育て支援サービス等の、仕事と子育てを両立できる仕組み」「子育てに理解がある職場環境」が高くなっています。



高校別及び居住地別でみると、いずれも「安定した家庭環境」が最も高く、次いで「安定した経済基盤」となっています。

	安定した家庭環境	安定した経済基盤	ある程度の広さの家や庭	公園や学校など、自宅の周辺環境	保育所や子育て支援サービス等の、仕事と子育てを両立できる仕組み	子育てに理解がある職場環境	子どもを安心して遊ばせることができる近隣の人間関係	子どもと一緒に育ててくれる親族が近くにいること	その他	わからない	不明・無回答
【高校別】											
関高等学校（N=266）	79.3	59.4	9.4	29.7	26.3	21.1	26.3	4.5	0.0	3.4	3.4
関有知高等学校（N=135）	77.0	50.4	8.9	30.4	13.3	18.5	21.5	8.9	0.0	11.9	2.2
関商工高等学校（N=309）	83.2	58.9	9.4	34.0	23.6	15.2	22.0	6.1	0.0	3.6	0.6
【居住地別】											
関市（N=470）	82.1	57.4	8.3	32.1	23.2	20.2	22.1	5.1	0.0	3.6	2.1
その他（N=242）	77.7	57.4	11.2	30.6	21.5	13.6	26.0	7.9	0.0	7.9	1.7

単位：％

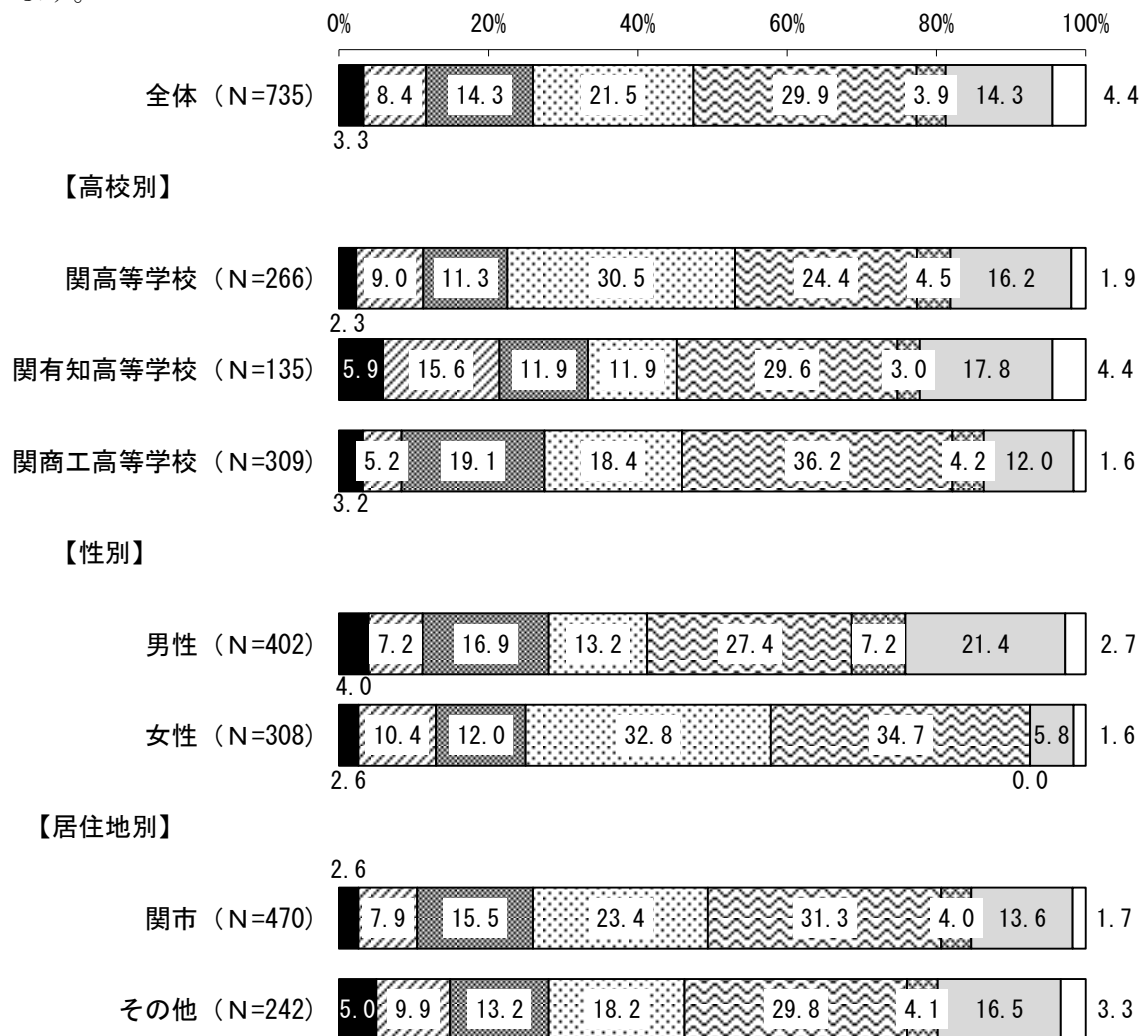
(4) 将来の仕事について

問 15 望ましいと思う女性の働き方

女性は「子どもができたら仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をする」と「子どもができて、ずっと仕事を続ける」がほぼ同じ割合となっている。

「子どもができたら仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をする」が 29.9%と最も高く、次いで「子どもができて、ずっと仕事を続ける」が 21.5%となっています。

性別でみると、女性では「子どもができて、ずっと仕事を続ける」が 32.8%と、男性を大きく上回っています。



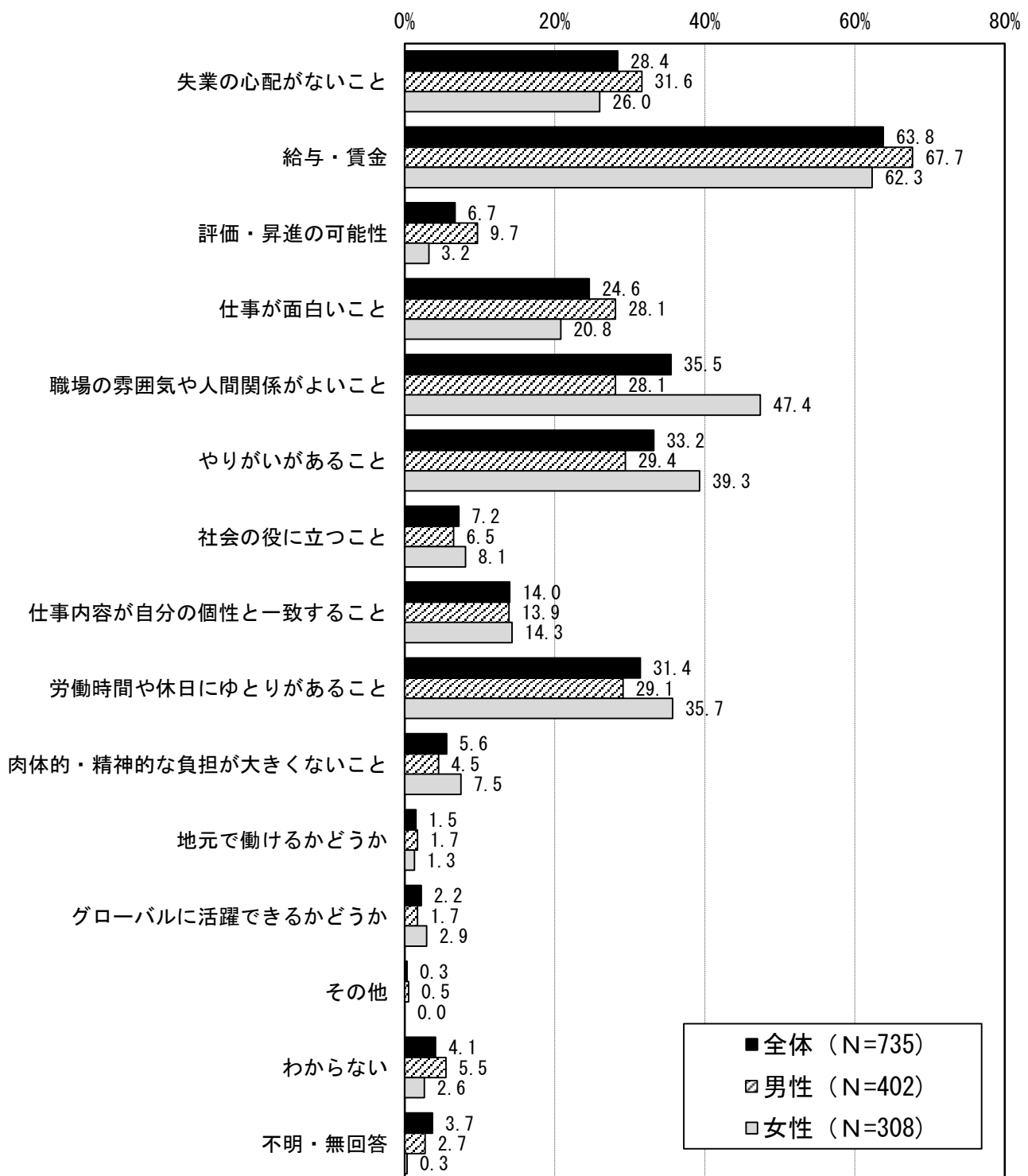
- 仕事をせず、家事の手伝いなどをする
- ▣結婚するまでは仕事をし、その後専業主婦になる
- ▣子どもができるまでは仕事をし、その後専業主婦になる
- ▣子どもができて、ずっと仕事を続ける
- ▣子どもができたら仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をする
- ▣その他
- わからない
- 不明・無回答

問 16 将来、仕事に就く時に重視すること

仕事に対しては「給与・賃金」「人間関係」「やりがい」「ゆとり」などが求められている。

「給与・賃金」が63.8%と最も高く、次いで「職場の雰囲気や人間関係がよいこと」が35.5%、「やりがいがあること」が33.2%、「労働時間や休日にゆとりがあること」が31.4%となっています。

性別でみると、いずれも「給与・賃金」が最も高く、次いで、男性では「失業の心配がないこと」、女性では「職場の雰囲気や人間関係がよいこと」となっています。



高校別でみると、いずれも「給与・賃金」が最も高く、次いで関高等学校では「やりがいがあること」、関有知高等学校では「職場の雰囲気や人間関係がよいこと」、関商工高等学校では「労働時間や休日にゆとりがあること」となっています。

居住地別でみると、いずれも「給与・賃金」が最も高く、次いで、関市では「職場の雰囲気や人間関係がよいこと」、その他では「肉体的・精神的な負担が大きいこと」となっています。

	失業の心配がないこと	給与・賃金	評価・昇進の可能性	仕事が面白いこと	職場の雰囲気や人間関係がよいこと	やりがいがあること	社会の役に立つこと	仕事内容が自分の個性と一致すること	労働時間や休日にゆとりがあること	肉体的・精神的な負担が大きいこと	地元で働けるかどうか	グローバルに活躍できるかどうか
【高校別】												
関高等学校（N=266）	31.2	68.0	6.8	28.6	35.0	41.4	9.4	14.7	20.3	8.6	0.4	4.1
関有知高等学校（N=135）	24.4	48.9	3.0	24.4	43.0	21.5	6.7	14.1	38.5	5.2	2.2	1.5
関商工高等学校（N=309）	29.4	70.6	8.7	22.0	35.0	32.4	5.5	13.6	39.5	3.6	2.3	0.6
【居住地別】												
関市（N=470）	31.5	64.3	5.7	25.5	37.2	33.4	7.2	13.4	13.4	30.6	6.6	1.1
その他（N=242）	24.8	67.8	9.1	23.6	34.7	34.3	7.0	15.3	15.3	35.1	4.1	2.5

単位：％

	その他	わからない	不明・無回答
【高校別】			
関高等学校（N=266）	0.4	2.6	1.5
関有知高等学校（N=135）	0.7	11.9	2.2
関商工高等学校（N=309）	0.0	2.3	1.6
【居住地別】			
関市（N=470）	2.3	0.2	4.0
その他（N=242）	2.1	0.4	4.5

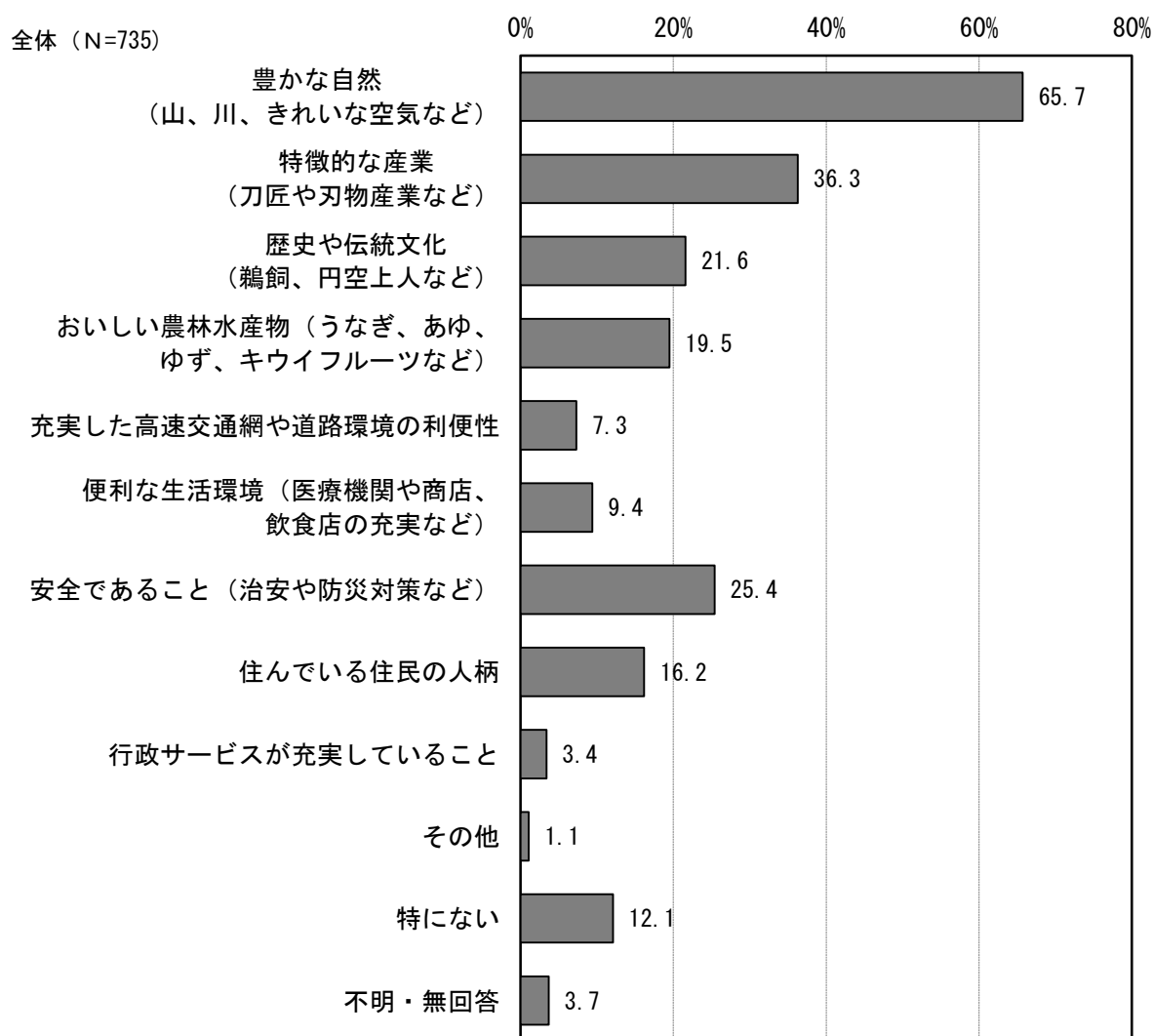
単位：％

(5) 関市について

問 17 関市の魅力だと思うこと

豊かな自然環境、特徴的な産業を関市の魅力と感じている高校生が多い。

「豊かな自然」が 65.7%と最も高く、次いで「特徴的な産業」が 36.3%となっています。



高校別、性別及び居住地別でみると、いずれも「豊かな自然」が最も高く、「特徴的な産業」「安全であること」が上位となっています。

	豊かな自然（山、川、きれいな空気など）	特徴的な産業（刀匠や刃物産業など）	歴史や伝統文化（鵜飼、円空上人など）	おいしい農林水産物（うなぎ、あゆ、ゆず、キウイフルーツなど）	充実した高速交通網や道路環境の利便性	便利な生活環境（医療機関や商店飲食店の充実など）	安全であること（治安や防災対策など）	住んでいる住民の人柄	行政サービスが充実していること	その他	特にない	不明・無回答
【高校別】												
関高等学校（N=266）	73.7	37.2	24.4	18.0	5.3	7.9	33.5	13.9	3.4	0.8	10.5	1.1
関有知高等学校（N=135）	57.0	20.0	15.6	20.7	11.1	14.8	23.0	20.7	4.4	2.2	21.5	3.7
関商工高等学校（N=309）	65.4	44.3	22.3	21.0	7.8	8.4	21.0	17.2	3.2	1.0	10.0	1.3
【性別】												
男性（N=402）	64.7	41.5	24.9	19.9	8.5	11.9	24.1	14.9	5.2	1.0	13.7	2.5
女性（N=308）	69.8	30.8	17.9	19.8	6.2	6.2	28.6	18.8	1.3	1.3	10.7	0.6
【居住地別】												
関市（N=470）	74.7	37.2	23.2	23.2	6.2	9.6	33.4	18.7	3.4	0.9	8.1	1.3
その他（N=242）	51.7	36.4	19.0	13.2	10.3	9.5	12.0	12.4	3.7	1.7	20.7	2.5

単位：％

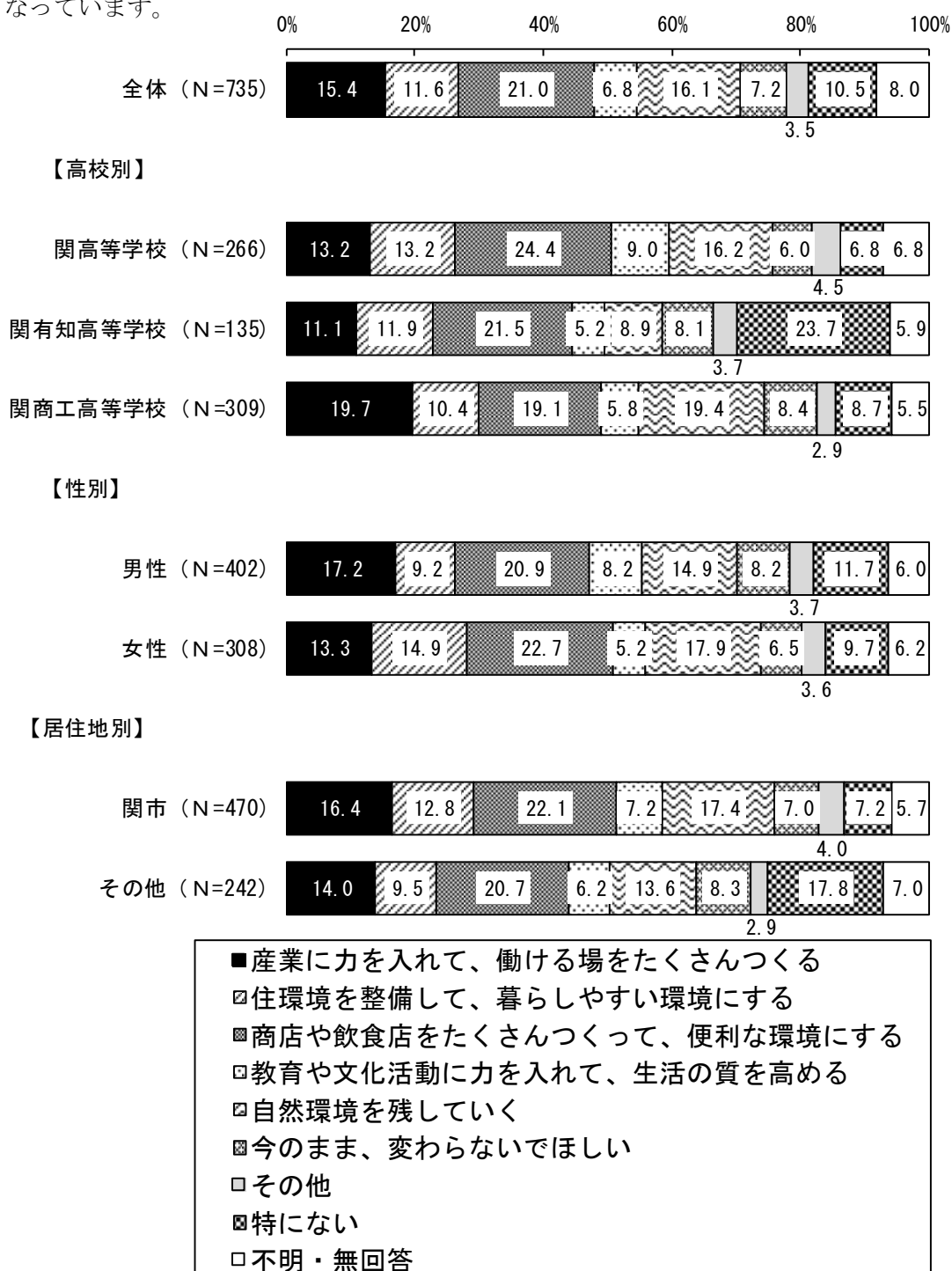
問 18 関市が進む方向性として、特に力を入れた方がいいと思うこと

高校生は「便利な環境整備」と「自然環境」を求めている。

「商店や飲食店をたくさんつくって、便利な環境にする」が21.0%と最も高く、次いで「自然環境を残していく」が16.1%となっています。

高校別でみると、関高等学校では「商店や飲食店をたくさんつくって、便利な環境にする」、関有知高等学校では「特にない」、関商工高等学校では「産業に力を入れて、働ける場をたくさんつくる」がそれぞれ最も高くなっています。

性別及び居住地別でみると、いずれも「商店や飲食店をたくさんつくって、便利な環境にする」が最も高くなっています。

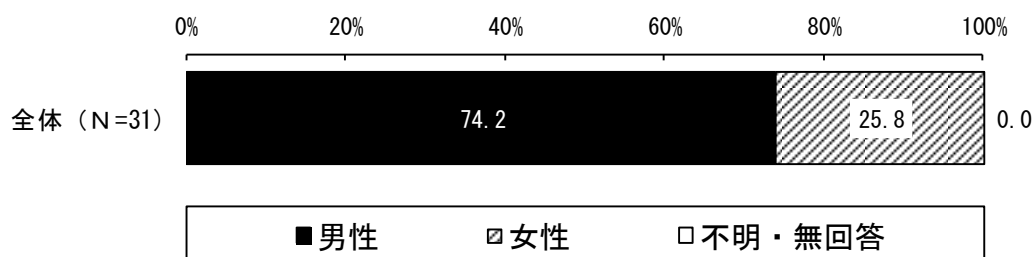


4 首都圏在住者調査 調査結果

(1)回答者の属性

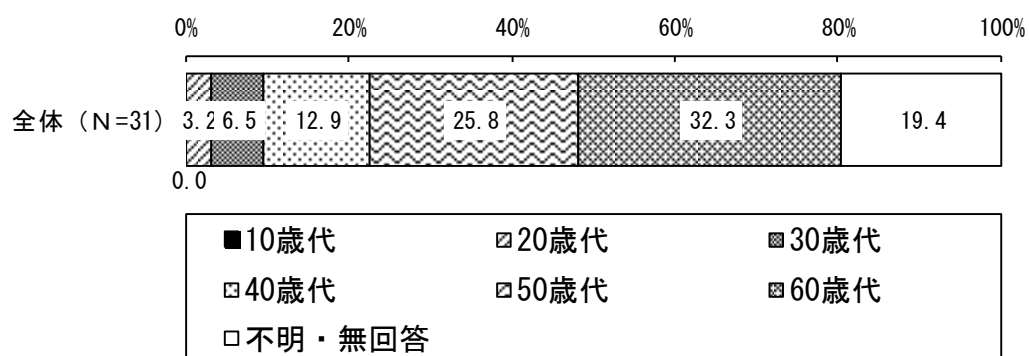
問1 性別

「男性」が74.2%、「女性」が25.8%となっており、男性は女性より48.4ポイント高くなっています。



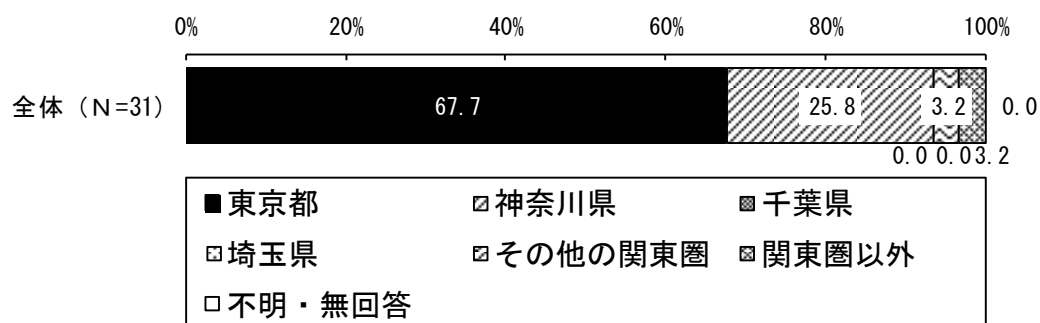
問2 年齢

「60歳代」が32.3%と最も高く、次いで「50歳代」が25.8%、「40歳代」が12.9%となっています。



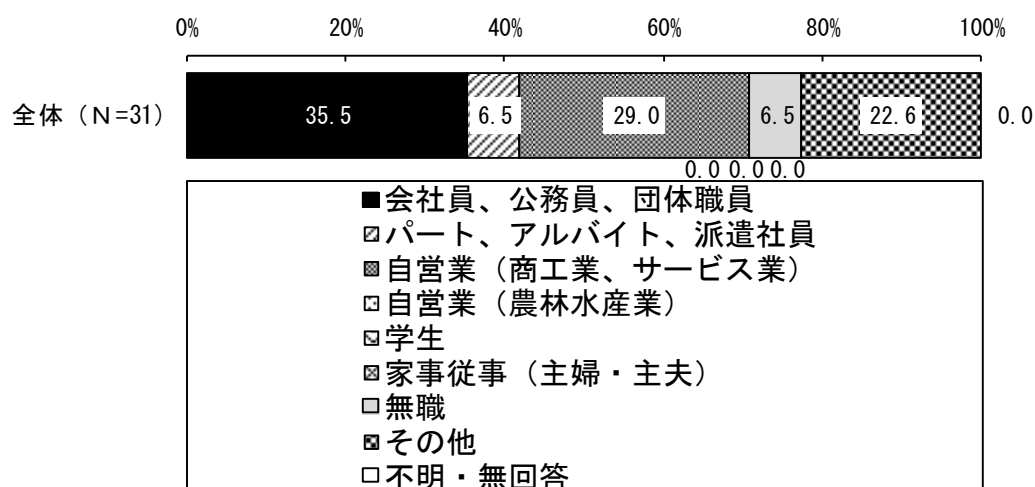
問3 居住地

「東京都」が67.7%と最も高く、次いで「神奈川県」が25.8%となっています。



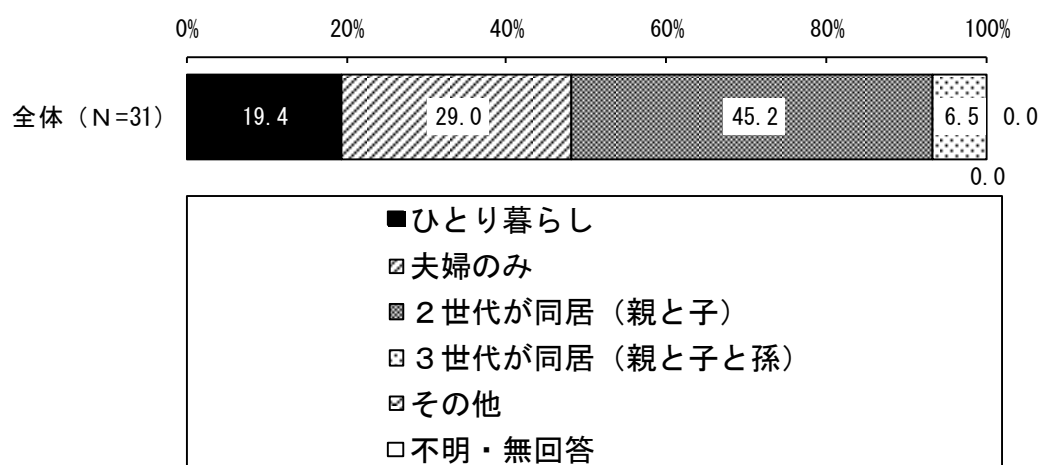
問4 職業

「会社員、公務員、団体職員」が 35.5%と最も高く、次いで「自営業（商工業、サービス業）」が 29.0%、「その他」が 22.6%となっています。



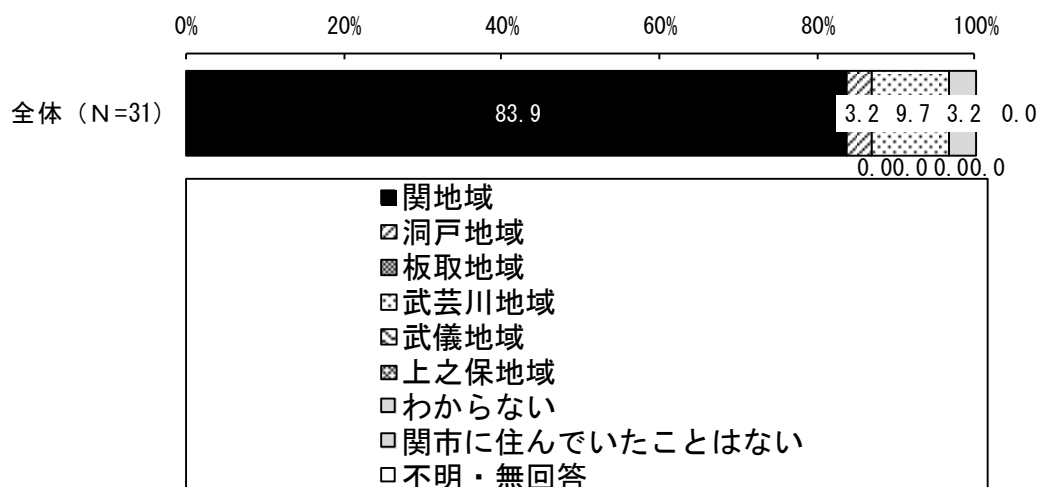
問5 家族構成

「2世代が同居（親と子）」が 45.2%と最も高く、次いで「夫婦のみ」が 29.0%、「ひとり暮らし」が 19.4%となっています。



問6 関市のどこに住んでいたか

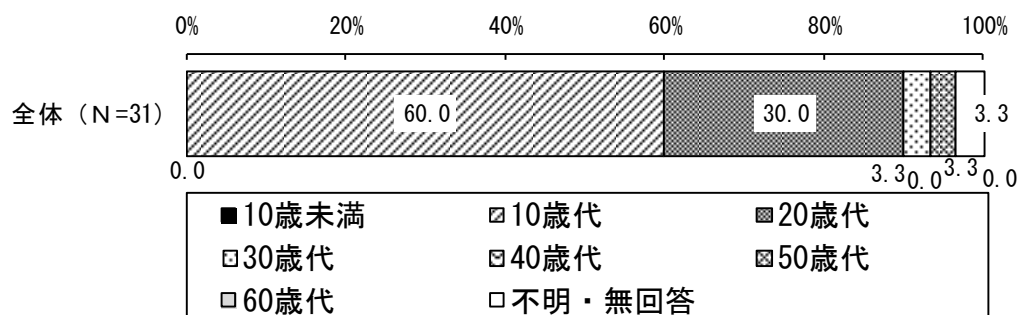
「関地域」が83.9%と最も高く、次いで「武芸川地域」が9.7%となっています。



問6-1 関市を離れたのは、何歳の頃か

※問6で「1」から「7」のいずれかを選んだ方への質問

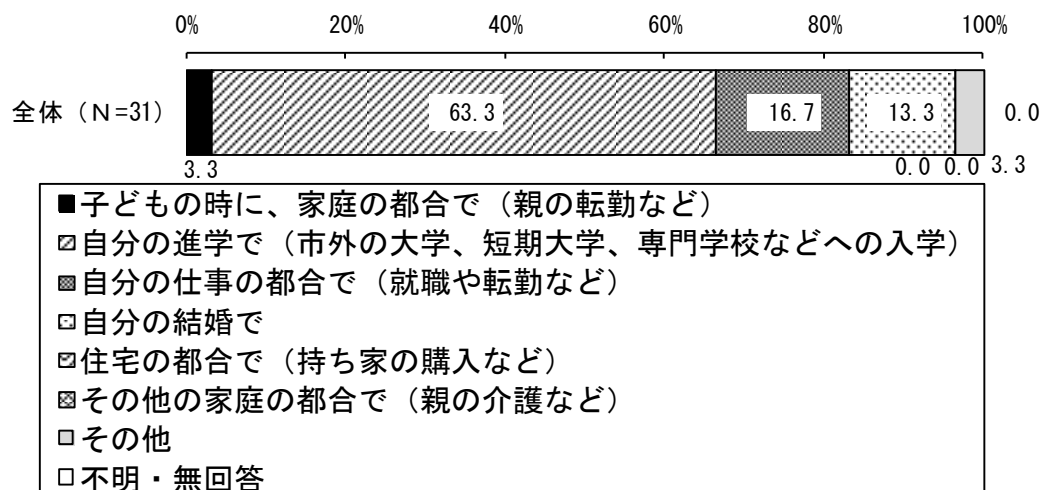
「10歳代」が60.0%と最も高く、次いで「20歳代」が30.0%となっています。



問6-2 関市を離れることになった理由

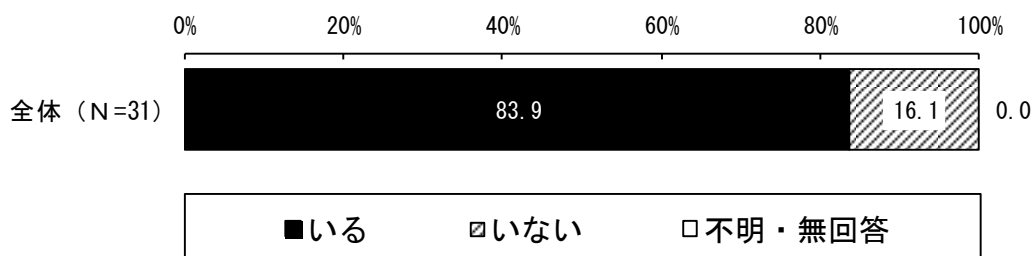
※問6で「1」から「7」のいずれかを選んだ方への質問

「自分の進学で（市外の大学、短期大学、専門学校などへの入学）」が63.3%と最も高く、次いで「自分の仕事の都合で（就職や転勤など）」が16.7%、「自分の結婚で」が13.3%となっています。



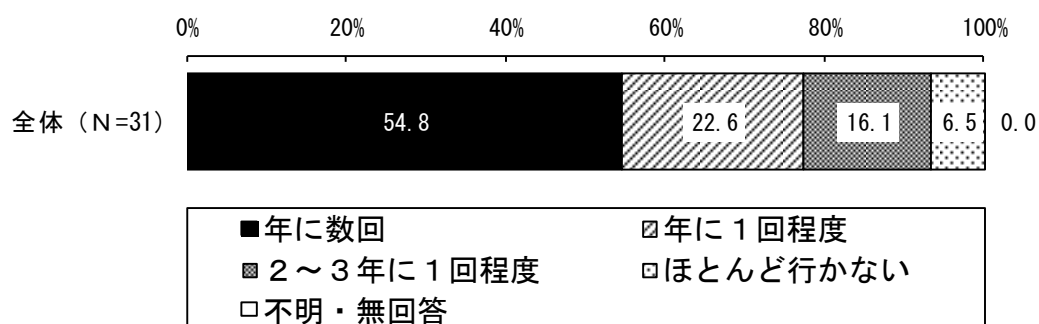
問7 現在、家族（親やきょうだい）、親戚などが関市に住んでいるか

「いる」が83.9%、「いない」が16.1%となっています。



問8 関市を訪れる頻度は、どれくらいか

「年に数回」が54.8%と最も高く、次いで「年に1回程度」が22.6%となっています。

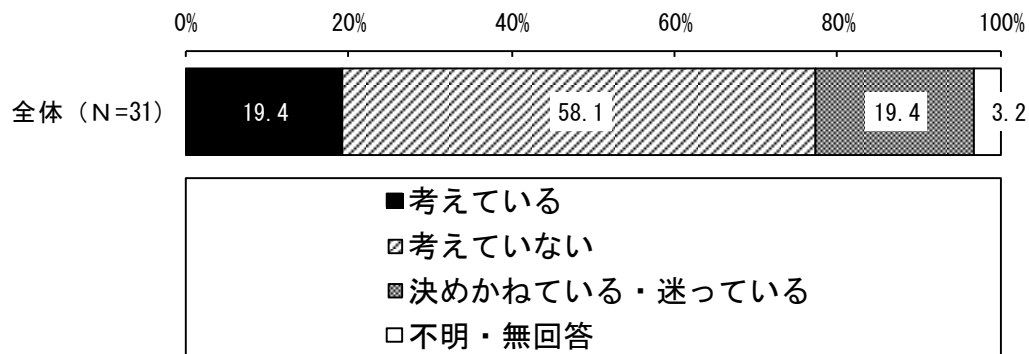


(2) 将来について

問9 将来、関市への転居(Uターン)を考えているか

19.4%が関市へのUターンを検討している。

「考えていない」が 58.1%と最も高く、次いで「考えている」「決めかねている・迷っている」がそれぞれ 19.4%となっています。

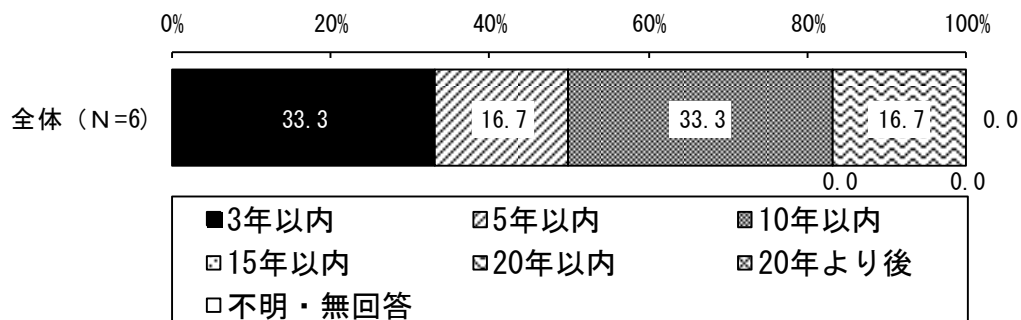


問9(1) 転居(Uターン)は何年後をめどに考えているか

※問9で「1 考えている」を選んだ方への質問

Uターン希望者のうちの約半数が、5年以内でのUターンを検討している。

「3年以内」「10年以内」がそれぞれ 33.3%と最も高く、次いで「5年以内」「20年以内」が 16.7%となっています。

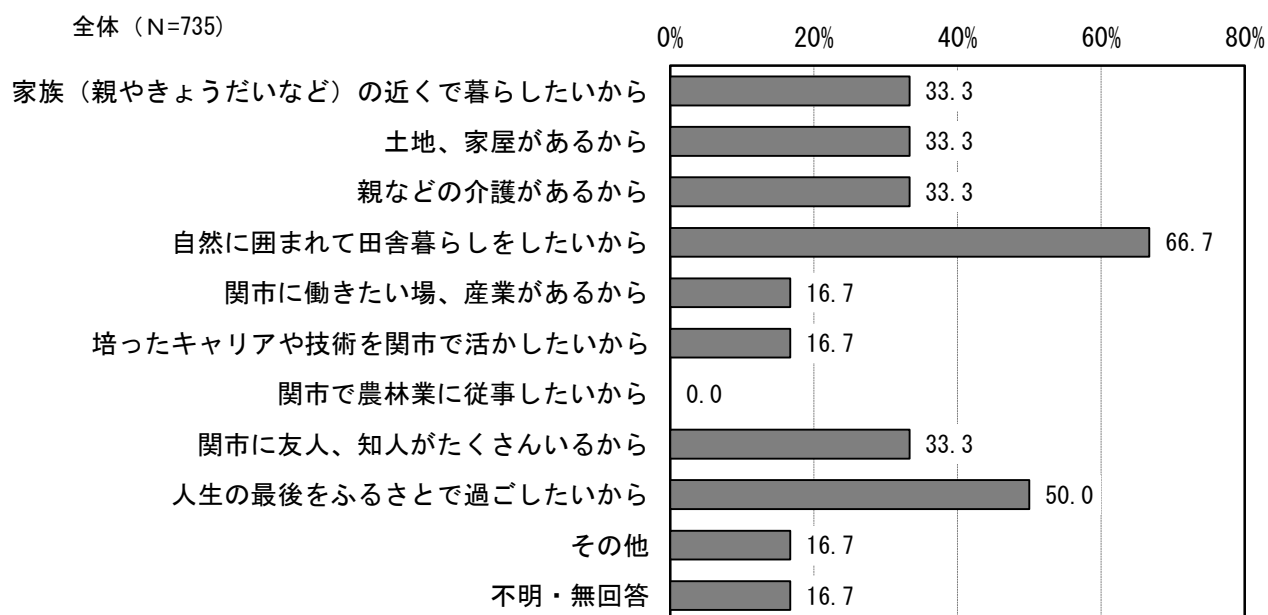


問9-1 関市に転居したいと思う理由

※問9で「1 考えている」を選んだ方への質問

Uターン希望者は自然の中での田舎暮らしを求めている。

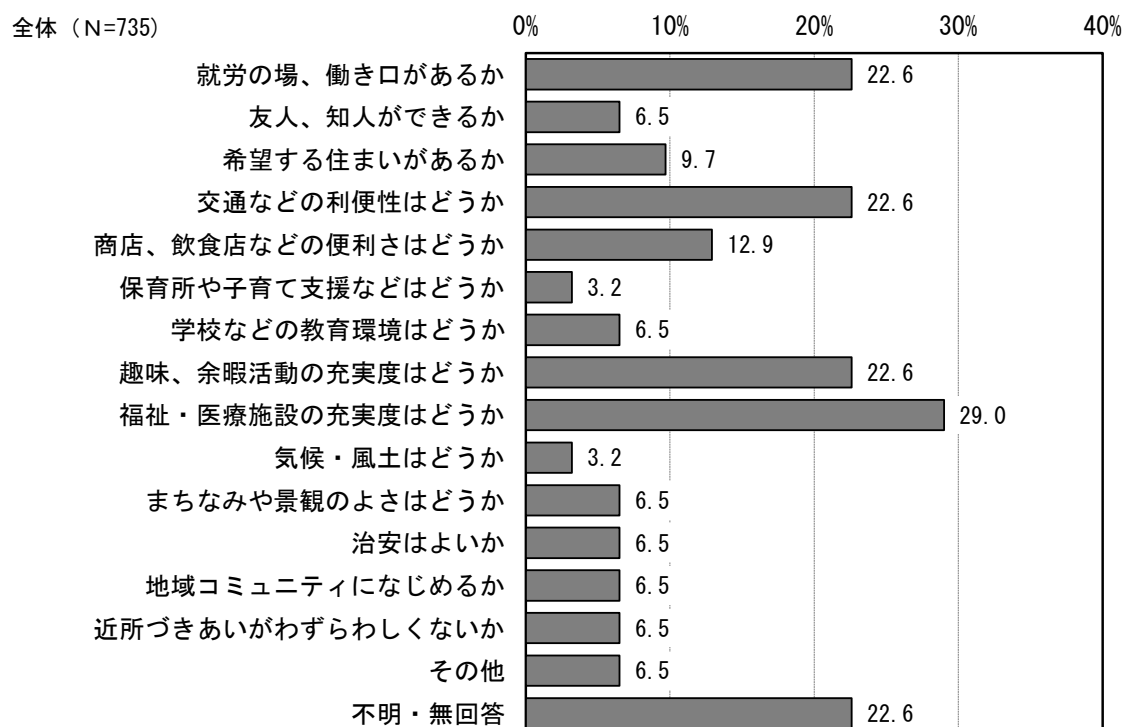
「自然に囲まれて田舎暮らしをしたいから」が66.7%と最も高く、次いで「人生の最後をふるさとで過ごしたいから」が50.0%となっています。



問 10 もし関市に転居するとした場合、気になること

転居する場合、「福祉・医療施設」「仕事」「交通」がポイントとなる。

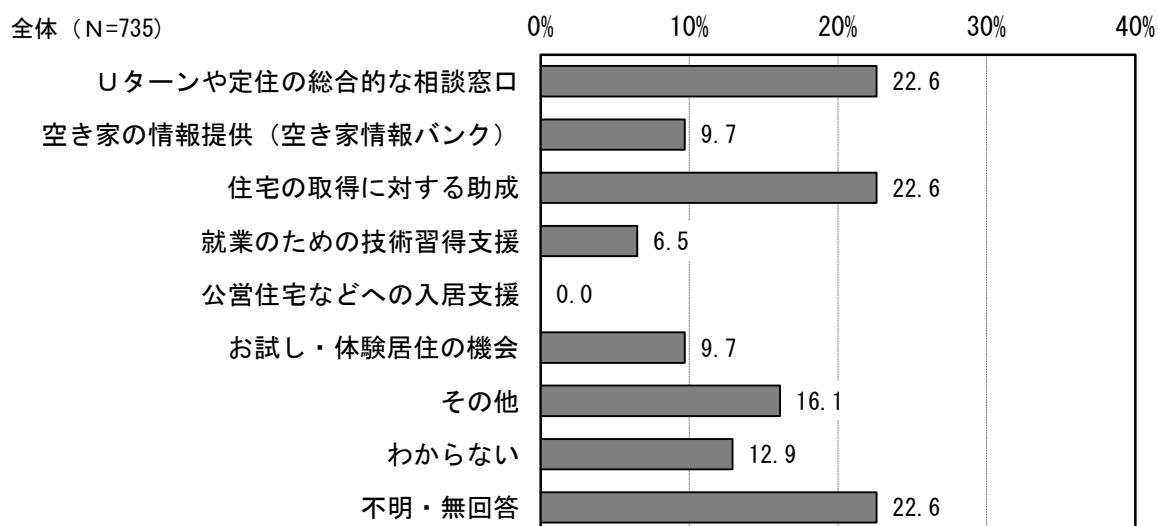
「福祉・医療施設の充実度かどうか」が 29.0%と最も高く、次いで「就労の場、働き口があるか」「交通などの利便性かどうか」「趣味、余暇活動の充実度かどうか」が 22.6%となっています。



問 11 関市に転居しようとする場合、利用したい支援

転居する際の支援サービスでは、相談や助成等で利用意向がある。

「Uターンや定住の総合的な相談窓口」「住宅の取得に対する助成」がともに 22.6%と最も高くなっています。

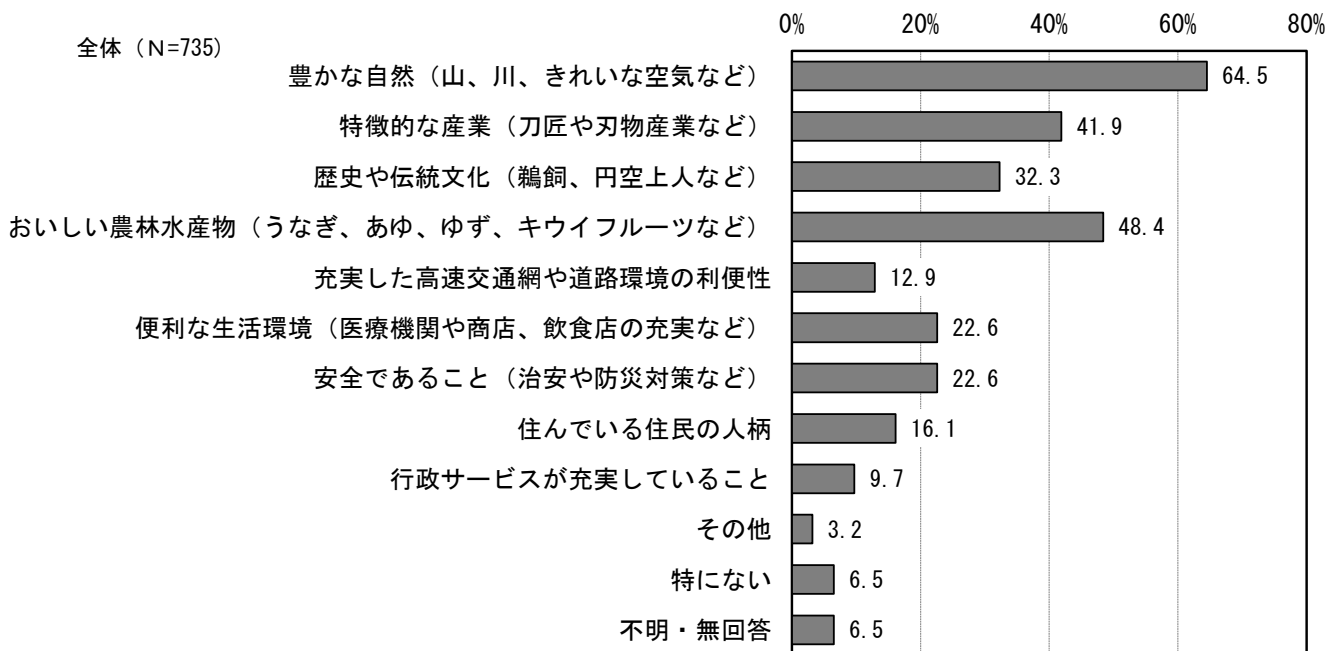


(3) 関市について

問 12 関市の魅力だと思うこと

豊かな自然環境、農林水産物、産業を関市の魅力と感じている人が多い。

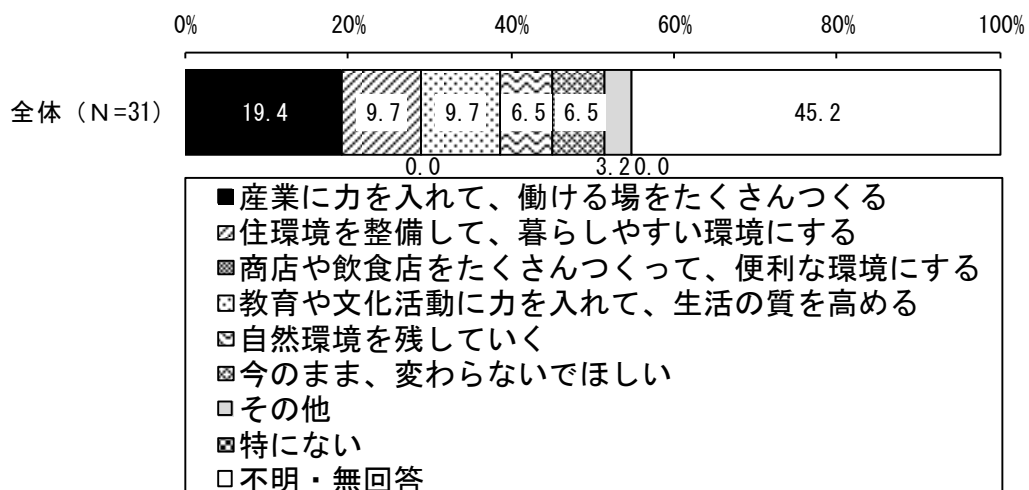
「豊かな自然」が 64.5%と最も高く、次いで「おいしい農林水産物」が 48.4%、「特徴的な産業」が 41.9%となっています。



問 13 関市が進む方向性として、特に力を入れた方がいいと思うこと

産業振興が最も求められている。

「産業に力を入れて、働ける場をたくさんつくる」が 19.4%と最も高く、次いで「住環境を整備して、暮らしやすい環境にする」「教育や文化活動に力を入れて、生活の質を高める」が 9.7%となっています。



関市 地方創生に関するアンケート
【結果報告書】

発行年月 平成 27 年 9 月

発行 関市

編集 関市企画部企画政策課

岐阜県関市若草通 3 丁目 1 番地

T E L : 0575-22-3131 (代表)

F A X : 0575-23-7744